

醫學士寺田織尾講述
由中達三郎編纂

皮膚病學

明治三十二年十一月刊行

皮膚病學序言

皮膚病學ニ於ケル吾人ノ知識ハ現今尙暗黒ナルヲ免カレス隨テ從來吾人ノ臨床的處置モ亦想像スルニ足ラン

敬友丸東君大ニ茲ニ感アリ氏カ幹理スル高等醫學會ニ於テ同志ノ士ヲ會シ皮膚病學研究ノ法ヲ謀レリ恰モ好シ曩ニ獨國ニ遊學シテ諸大家ニ親炙シ斯道ノ淵奧ヲ極メタル醫學士寺田織尾君ノ歸朝ニ遇フ仍チ氏ヲ聘シ茲ニ日新醫學ノ完全ナル臨床講演ハ滿堂ノ靜肅ヲ以テ開カレタリ

寺田君カ新齋ノ才學及流暢ノ説明ハ屢々數月ノ時日内ニ於テ能ク皮膚病學ノ診斷及新治法ヲ一聽瞭然タラシム吾輩ハ最早暗黒ヲ出テ、明朗ノ人トナリタルノ感アリ

本書ハ寺田氏カ講議筆記ヲ基礎トシ汎ク諸大家ノ著書ヲ參考増補シタルモノナリ之ニ寺田氏カ携ヘタル新奇ナル病的寫眞及鮮麗ナル着色石版圖ヲ採擇セリ蓋シ理會ヲ扶ケ説明ヲ補フニハ圖畫ニ若クモノナケレハナリ特ニ皮膚病學ニ於テ

其然ルヲ識ル

予ハ囑托ニ甘應ノ編秩スベキ才筆ナシ然レ此重要ナル學科而カモ此明晰ナル講
議ヲ世ニ紹介スルニ於テ如何デ固辭躊躇スベキモノナランヤ不才ヲ省ミズ茲ニ
業務執筆ノ間此舉ニ從事シタリ校正未タ完カラズ粗漏ノ罪亦甚多カラン期ノ第
二版ヲ俟テ謹デ訂正スル所アルベシ
終リニ臨ミ會員永井信賢君ガ本書ノ編纂ニ向テ補助ノ勞ヲ執ラレタルヲ深謝ス

田中達三郎識

皮膚病學目次

第一編 皮膚ノ解剖	一丁
第一節 表皮	二丁
第二節 鞏皮	五丁
第三節 皮下結締組織及脂肪囊	一九丁
第二編 皮膚ノ生理	二二丁
第一節 汗腺	二二丁
第二節 皮脂	二六丁
第三節 皮膚呼吸	二八丁
第四節 感覺機關タル皮膚	三二丁
第五節 皮膚ノ吸收力	三四丁
第三編 皮膚ノ病理及療法總論	三八丁
第一節 定義	三八丁

第二節 診斷……………四二丁

第三節 病因……………四六丁

第四節 療法……………四九丁

第五節 皮膚病ノ系統……………六八丁

皮膚病ノ症候の分類……………七一丁

第四編 皮膚病各論……………七六丁

第一章 炎症性皮膚病……………七六丁

濕疹……………七六丁

傳染性膿疱疹……………一〇丁

匍行性膿疱疹……………一五丁

鱗屑癬……………一九丁

全身赤色糠秕疹……………三五丁

苔癬……………三九丁

初生兒剝脫性皮膚炎……………五八丁

頭部乳嚙性皮膚炎……………一六二丁

皮脂腺分泌障礙及單一ナル炎症(脂肪腫形成)……………一六三丁

第一 皮脂漏……………一六四丁

第二 「アステアトージス」……………一七九丁

第三 尋常粉刺……………一八〇丁

第四 酒渣鼻……………一八七丁

第五 痘狀粉刺……………一九一丁

巖瘡……………一九三丁

火傷……………一九六丁

凍傷……………二〇一丁

第二章 皮膚ノ血液循環障礙……………二〇四丁

紅斑……………二〇四丁

(1) 多形滲出性紅斑……………二〇五丁

(2) 結節性紅斑……………二〇丁

蕁麻疹……………二二二丁
 限局性皮膚水腫……………二二〇丁
 藥疹……………二二二丁
 局處窒息及對側壞疽……………二二八丁
 第三章 皮膚ノ進行性營養障害……………二二二丁
 (甲) 表皮ノ營養障害……………二二二丁
 魚鱗癬……………二二二丁
 限局性角質肥厚……………二四一丁
 疣贅……………二四四丁
 贅毛症……………二四七丁
 爪甲増息……………二五二丁
 色素性乾皮症……………二五三丁
 (乙) 眞皮及皮下結締織ノ進行性營養障害……………二五七丁
 色素増息症……………二五七丁

象皮病……………二六七丁

第三章 皮膚ノ腫瘍……………二七二丁

纖維腫……………二七二丁
 蟹足腫……………二七五丁
 乳嘴腫……………二七七丁
 筋腫……………二七八丁
 黃色腫……………二七九丁
 肉腫……………二八三丁
 「ミソウム」腺腫……………二八五丁
 觸接傳染性軟屬腫……………二八七丁
 癌腫……………二八九丁
 血管腫……………二九三丁
 第四章 皮膚ノ退行性營養障害……………二九八丁
 皮膚萎縮……………二九八丁

毛髮ノ萎縮.....三〇二丁

糠枇疹性禿髮症.....三〇三丁

症候的禿髮症.....三〇五丁

結節狀裂毛症.....三〇五丁

色素減乏症.....三〇八丁

(一)皮膚色素ノ減乏症.....三〇八丁

(二)毛髮色素ノ減乏症.....三一三丁

白髮症.....三一三丁

爪甲減乏症.....三一五丁

紅斑性狼瘡.....三一五丁

初生兒鞏皮症.....三一五丁

多發性惡液性皮膚壞疽.....三二六丁

第五編 神經炎性皮膚病.....三二八丁

匍行疹.....三二八丁

(1)帶狀匍行疹.....三二八丁

(2)口唇匍行疹.....三三七丁

(3)陰部匍行疹.....三三八丁

痒疹.....三三九丁

皮膚瘙痒症.....三四四丁

天疱瘡.....三四八丁

匍行疹狀皮膚炎.....三五四丁

禿斑及鬼紙頭.....三五六丁

神經性禿髮症.....三六二丁

汗腺ノ分泌障碍.....三六三丁

(1)多汗症.....三六四丁

(2)無汗症.....三六七丁

第六編 寄生性皮膚病.....三六九丁

A 動物性寄生蟲.....三六九丁

疥癬.....三六九丁

毛囊蟲.....三七五丁

胞蟲.....三七六丁

蟲.....三七七丁

頭蟲.....三七七丁

衣蟲.....三七八丁

毛蟲.....三七八丁

B 植物性寄生蟲.....三七九丁

白癬.....三八〇丁

寄生性匍行疹.....三八六丁

癩風.....三九五丁

紅色陰癬.....三九七丁

第七編 皮膚ノ慢性傳染病.....三九九丁

結核性皮膚病.....三九九丁

(1) 尋常狼瘡.....三九九丁

(2) 皮膚結核.....四〇八丁

(3) 皮膚疣贅樣結核.....四一〇丁

(4) 腺病性皮膚潰瘍.....四一二丁

菌狀息肉腫.....四一二丁

癩病.....四一七丁

鼻硬腫.....四二八丁

皮膚病學目次終

皮膚病學

醫學士 寺田 織尾 講述

田中達三郎 編纂

第壹篇

皮膚ノ解剖

外皮ニ表皮 Epidermis 及ヒ眞皮 Cutis s. Derna ノ二種アリ、汗腺、皮脂腺、皮
 膚筋及毛髮ノ存在スルモノ之ヲ眞皮トス、眞皮ハ之ヲ分テ二層トス、第
 一層ハ眞皮ノ鞏固ナル基礎ヲ成スモノニシテ之ヲ鞏皮 Corium ト稱シ、
 第二層ハ觸接セル脂肪膜 Panniculus adiposus ヲ有スル易動性弛緩性皮
 下結締組織ニシテ之ヲ皮下組織(皮下層) Stratum subcutaneum ト稱ス

皮膚ノ解剖

第一節 表皮 Epidermis

表皮ニハ脈管ナク二種ノ細胞層ヨリ構成セラル第一ハ扁平ニシテ組織ナク且ツ核子ナキ角様層 Stratum corneum 第二ハ「マルビギー」層(粘液層) Stratum Malpighii 之レナリ

(一) 角様層細胞(第六圖 str. c.)ニ於テハ各細胞ハ細微ナル細胞間腔ニヨリテ箇々相互ニ分離セリ、細胞内ニハ纖維網ノ存スルモノ多シ尙ホ手掌及ヒ足趾ノ如キ厚鞆ナル部ニ在リテハ角様層ノ下層ヲ以テ特ニ透明層 Stratum lucidum (第六圖 str. l.) 或ニ「エール」氏層 Oehl'sche Schicht 或ハ基底角層 Basale Hornschicht ト稱ス、蓋シ此下層タル他部ノ層ニ比スレバ其現象更ニ著明ナルノミナラズ又色素上ノ目標ニ依リテ特ニ判別シ得ベケレバナリ

(二) 「マルビギー」層(粘液層)ニ於テハ先ツ顆粒細胞 Die Körnerzellen ト棘狀細胞 Stachelzellen トヲ區別セザルベカラズ而シテ此等ノ細胞ハ角様層

細胞ニ反シ軟性、プロトプラスマ及圓核ヲ有ス、顆粒細胞(顆粒層 Stratum granulosum) 第六圖 str. gr.)ノ特ニ著名ナルハ一定ノ試薬、ビクロカルミン及「ヘマトキシリン」メチレフヂン」ニヨリテ容易ニ着色スベキ物質ヲ含有スルニ由ルモノナリ、此物質ニ關シテハ學說二派ニ分レ一派ノ學者ハ之ヲ以テ「エレイヂン」(Ranvier) ナリトシ其流動體ナルヲ説明セント欲スルニモ拘ラズ又他ノ學者ハ之ヲ以テ「ケラトヒアリン」即チ硝子様固形體ナリト主張セリ、然ルニ此物質ガ化角作用ニ對シテ生殖關係ニ立ツモノタルコトハ論者ノ實ニ一致スル所ナリトス

此ノ說ハ近來クロイマイエルノ論争スル所ニシテ氏ハ此種ノ關係ノ存スルコトヲ否定シ「ケラトヒアリン」ヲ以テ表皮ノ最上層中ニ於ケル上皮纖維網ノ溶崩産物ナリト認メタリ、此說ニ從ヘハ結局「ケラトヒアリン」ハ上皮細胞ノ代謝作用ヲ組織學的ニ音顯ハシタルニ過ザルベシ、之レト同一ノ意義ニ於テ「エルンスト」モ亦タ說ヲ爲シテ曰ク細胞「プラスマ」ノ化角スルニ先ナテ核子ハ「クロマチン」顆粒(ケラトヒアリン)トナリテ破碎スルモノナリト此說ニ據レハ「エルンスト」ハ「ケラトヒアリン」ヲ以テ核質ノ産物ナリトスルメ

ルトシシテハ所説ニ彷彿タルモノ、如シアツチハ近來ドライセル
 及ヒヲツブレルニ氏ノ幫助ニヨリテ「ケラトヒアリン」ト「エレイザン」トハ全
 ク別殊ノ物体ナルヲ認メタリ、氏ハ細胞中ニ包圍セラレタル顆粒層ノ小顆
 粒ニ付スルニ前者ノ名稱ヲ以テシ、之ニ反シテ後者即チ「エレイザン」ハ細胞
 外ニ點滴狀ヲナシテ皮膚切開面上、透明層ノ部位ニ於テ現ハレ、モノニシ
 テ即チ角質ノ初期ヲナスモノナルベシトノ説ヲ唱ヘタリ

顆粒層ノ下部ニ在ルモノヲ棘狀細胞棘狀層 Stratum dentatum) 第六圖 (str
 d) トス或ハケルリケルニ倣ヒテ寧ロ毛様若クハ線條細胞ト稱スルヲ
 穩當ナリトセン、此細胞ハ其細微ナル萌芽相互ニ連結シタル多角細胞
 ニシテ其棘即チ線條ノ爲メニ各細胞間ニ存スル細胞間腔ヲ蓋フ、棘狀
 層ノ上部ニ在ル細胞ハ多少圓形ヲ有スト雖モ鞏皮ニ接シタル部分ノ
 モノハ圓錐狀ヲナス(圓錐狀層 Stratum cylindricum) (第六圖 str. cyl.) 核子分裂
 ニヨリテ固有ノ細胞増殖ヲ惹起スル萌芽層トシテ表示スベキモノハ
 即チ此圓錐狀層ナリ

レーデルマンハ「マルビギー層」ノ下層中ニ於テ過阿新癩母酸ヲ還元スベキ

物質ヲ發見セリ、此物質ハ色素ノ好地位ヲ形成スルモノト同一ノ部位ヲ占
 ムル「質」ニ奇ト謂フヘシ

第二節 鞏皮 Corium

「マルビギー層」ニ次グモノヲ鞏皮トス、鞏皮ハ無數ノ錯綜セル彈力纖維
 ヲ有シ乳嘴部 Pars papillaris 及ヒ網狀部 Pars reticularis ノ別アル結締組
 織ヨリ成ル乳嘴部ハ圓錐體即チ乳嘴 Papillae (第一圖 a) ノ表皮ニ向テ
 隆起スルニ因リテ成ルモノヲ云フ、各乳嘴ノ間ニハ凹腔(第一圖 b) アリ
 表皮ヨリ突出セル隆起線ニ吻合ス、此隆起線ハ即チ前ニ述ヘタル棘狀
 細胞ヨリ發生ス、乳嘴ノ大サハ不同ナルヲ以テ表皮中ニ印セル壓痕モ
 亦大ナルアリ(第四圖 c) 或ハ小ナルモノアリテ(第二圖 c) 上皮ノ鼠蹊網
 ニ種々ノ外形ヲ呈スルモ亦全ク之ニ起因スルモノトス

此關係ヲ了解スルコトニ向テ吾人ニ最モ便宜ヲ與フルモノハフヒイリツ
 フソソノ方法ニ倣ヒテ製作セル皮膚平面圖ナリトス、其法先ツ皮膚ノ一小

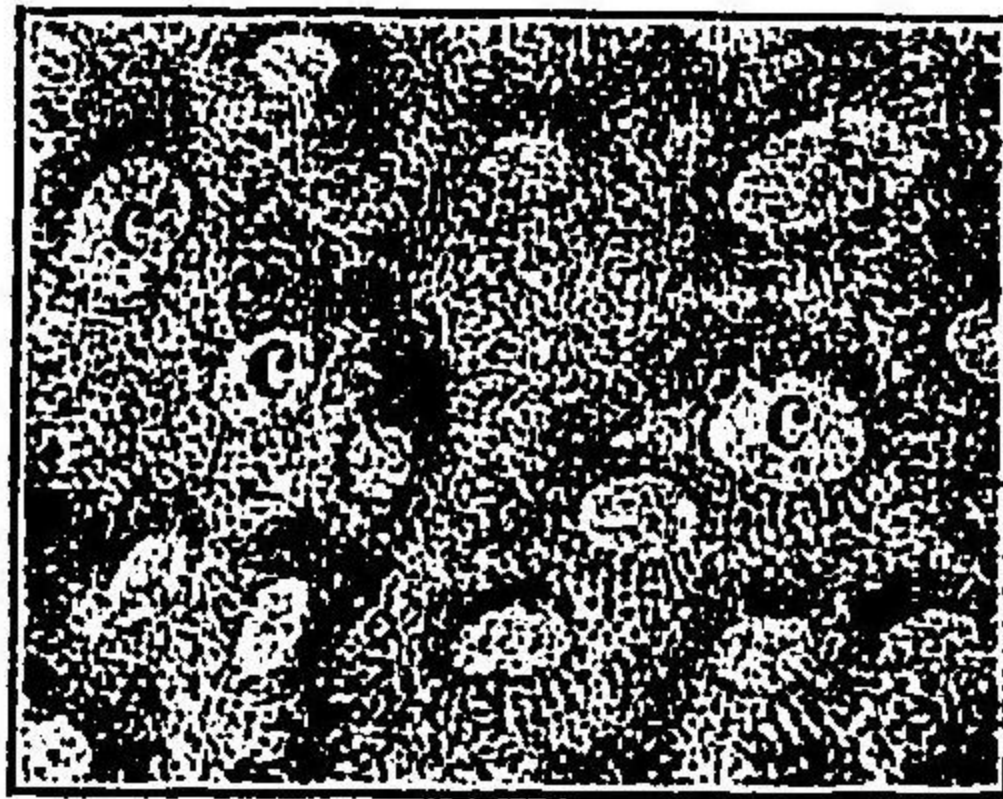
第一圖



(大倍十九)圖面極積ノ核陰

腔凹 b 嚙乳 a

第二圖



(大倍十九)圖面極滑ノ核陰

痕壓小ノ嚙乳 a

片ヲ取リテ之チ一二日間(殆
ト三日間)乃至1%ノ醋酸中
ニ入レ置クヘシ但シ腐敗ヲ防
カンカ爲ニ醋酸中ニ少量ノ嘔
囉仿誤ヲ滴注スルヲ要ス然ル
キハ表皮ハ容易ニ錐子ヲ以テ
剝離スルヲ得令其下面ヲ覆蓋
硝子上ニ裝置シテ鏡驗スヘシ
(或ハ着色セザルカ或ハヘマト
キシリン)ヲ以テ着色スルモ可
ナリ)然ルキハ皮膚ノ滑極面圖
殊ニ乳嚙ノ爲メ表皮中ニ印セ
ラレタル壓痕ヲ認メン(第二、第
四圖)若シ其積極面圖(第一、第三
圖)即チ乳嚙ヲ得ント欲セバ宜
シク剪刀ヲ以テ皮膚面ノ平坦
ナル一小片ヲ切離スベシ
此方法ニ依リテ身體ノ各部チ

第三圖



(大倍十九)圖面極積ノ掌手

腔凹 b 嚙乳 a

第四圖



圖面極滑ノ掌手ル有テ管送輸腺汗

(大倍十九)

痕壓大ノ嚙乳 c

驗査スルキハ著シキ差異ノ
存スルヲ發見セン、例ヘハ陰
核ノ如キハ乳嚙第一圖ニ甚
々軟弱ニシテ其數モ多ク、隨
テ表皮中ノ壓痕モ亦小ナリ
(第二圖)又其結果トシテ隆
起線モ互ヒニ相接近セリ(第
二圖)之ニ反シテ手掌ノ如キ
部ニ至リテハ其乳嚙甚々粗
大(第三圖)且ツ硬強ニシテ
壓痕モ亦大ナリ隨テ隆起線
モ互ニ相遠隔セリ(第四圖)要
スルニ斯ノ如キ驗査法ハ皮
膚病理學ニハ特ニ必要ナル
モノトス

皮膚乳嚙ニ脈管乳嚙 Gefäss-
papillen ト神經乳嚙 Nervenpa-

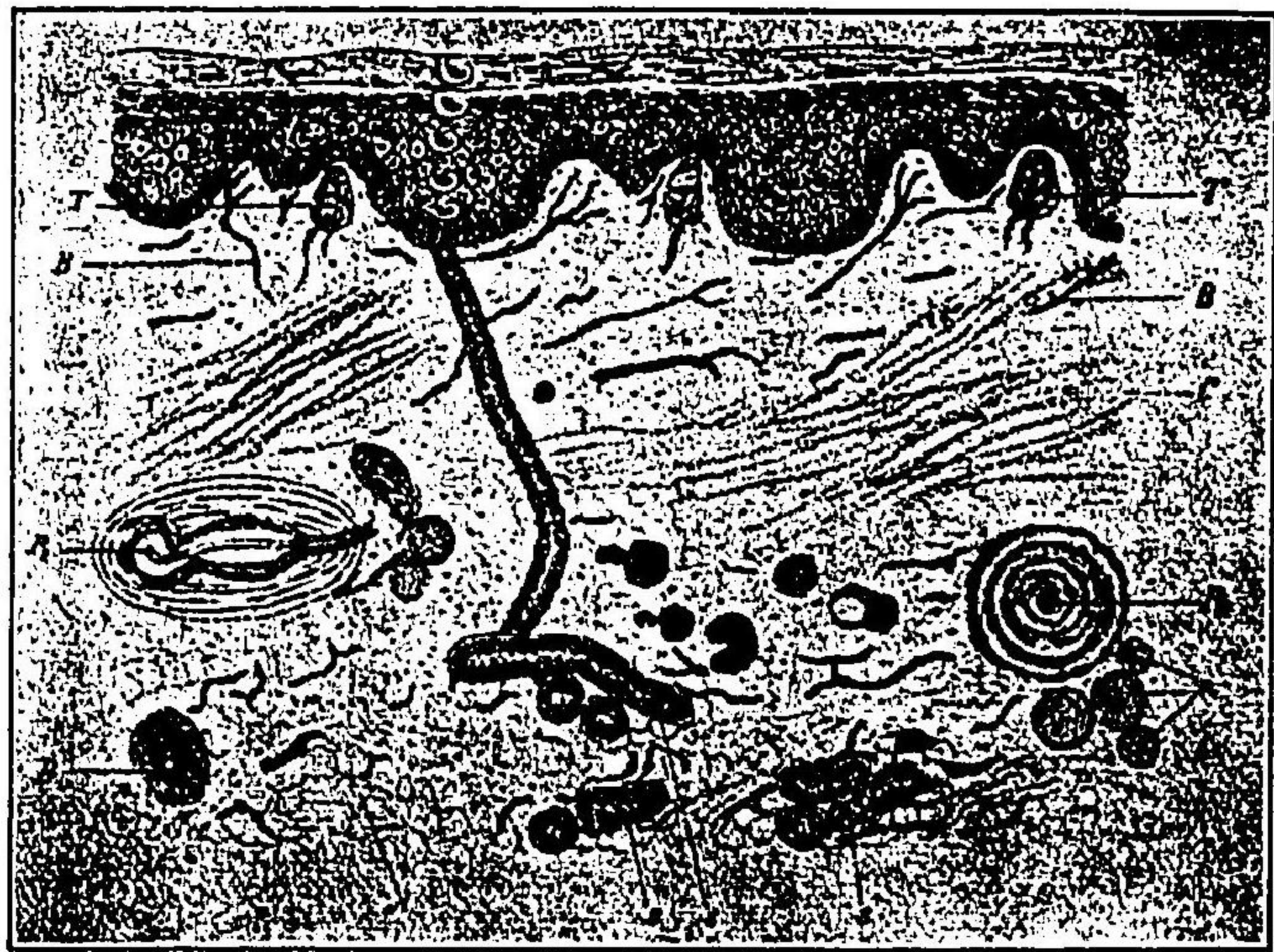
Plienトアリ、今手指ノ皮膚ニ付テ之ヲ論スレハ其脈管乳嘴及神經乳嘴ハ各一個互ヒニ整然連結スルヲ確メ得ベシ、乳嘴部ニハ巨大ナル脈管内容及神經内容ノ他尙ホ平滑ナル皮膚筋及ヒ皮脂腺アリ網狀部ハ結締組織架ノ網孔中ニ毛囊、汗腺及脂肪細胞ヲ包藏セリ

皮膚ニ於ケル脈管ノ配置ハ身体諸部ニ於テ自ラ差異アリト雖モ動脈ハ表面ニ向ヒテ饒多ノ毛細管網ヲ形成シ乳嘴中ニ細微ナル萌芽ヲ輸致ス、靜脈ハ之レト反對ノ方向ヲ取リテ皮下結締組織ニ達ス、而シテ淋管系統ハ可ナリ高ク鞏皮ニ向テ突出スルモ表面上ノ脈管毛細管網ノ下ニ横ハルモノトス

神經ハ其末端或ハ皮膚内ニ於テ自ラ消滅スルモノアリ、或ハパチニ一氏及マイス子ル氏觸覺球ノ如キ特別ノ末端裝置ニ終結スルモノトアリ、前者ノ如キ殊ニ手掌及足蹠ニ於テ其形蹟劃然タリ

無髓神經ハ最微ナル分枝トナリテ顆粒細胞ニ達シ末端小顆ヲ成シテ細胞間ニ於テ自ラ消滅スルノ狀ヲ呈ス、此神經ハ果シテ細胞内ニ萌芽

第五圖



ヲ輸致スルヤ或ハ核子中ニモ侵入スルヤ今尙ホ未決ノ問題ニ屬ス

牛バ想像シ
畫キタル無
毛皮膚ノ斷
面
Tマイス子
ル氏觸覺
球
Pパチニ一
氏小球

(第五圖、P₁、P₂)トハ二乃至四mm大ノ橢圓形成分ニシテ中央ニハ神經纖維アル球葱皮狀組織ノ包層ヲ有スルモノヲ云フ

マイスチル氏觸覺球(第五圖T)ハバチニ一氏小球トハ本質上全然別殊ノモノニシテ二個或ハ三個ノ神經纖維球邊ニ接近シ螺旋狀ヲナシテ其表面ニ散在ス其末端ハ恐ラク球内ニ達スルモノナルベシ觸覺球ニシテ殊ニ壯觀ヲ呈スルモノハ手掌及足趾ノ乳嘴中ニ在ルモノトス

汗腺 Schweißdrüsen (或ハ蟻塊腺 Knäueldrüsen)ハ鞏皮ノ最下部即チ網狀部及ヒ皮下細胞組織中ニ在リ第五圖S)此幾重ニモ纏絡セル腺塊ヨリ排泄管ナルモノ起リテ上方ニ向ヒ乳嘴ニ至リテ其間ヲ螺旋狀ニ紆廻シ遂ニ皮膚ノ表面ニ達ス分泌部分ハ之ヲ腺管 Drüsenkanalト稱ス以テ輸送管 Drüsengangト區別セザル可ラズ蓋シ其構造大ニ異ナレバナリ腺管中ニハ内部ニ向テ横ハレル固有膜 Tunica propria ヲ有スル結締組織層アリ次ニ平滑ナル小筋纖維ヨリ成レル筋層アリ又之ニ接近シテ大抵一層ヲ有スル圓錐狀腺皮アリ之ニ反シテ輸送管ノ上部ニハ二個ノ細胞層アリ其一ニ屬スル内部ノ細胞層ハ表皮ヲ有スハイノルドノ説ニ據ル)此内部ノ細胞層ト固有膜トノ中間ニハ横ハレル核子ヲ有スル

細胞層アリ但シ此細胞層ハ蟻塊筋層ノ連續ト見做スヘキモノトス表皮ニ近ヅクニ從ヒ輸送管ノ上皮ハ扁平上皮トナリ漸々表皮中ニ入ル

腺高腺及町腺ハ其構造ニ於テ大ニ汗腺ニ類似スルモノアリト雖モ其職トシテ掌ル所口果シテ同一ナリヤ否ニ付テハ多少ノ疑アルヲ免レンス然レモ之レ蓋シ一ハ腺高ニ於テ汗ノ臭素ヲ供與シ一ハ聽道ニ於テ町腺ノ色素ヲ供與スルノ差アルノミ汗腺ニハ尿管ノ存在甚々夥多ナルニ因ハラスト

△サノ説ニ據レハ眞皮面ノ毛細管網トハ絶ヘテ連結チ有セサルモノト如シ神經ニ至リテハ腺ニ密接セルノ狀ヲ呈スルモノアリト雖モ之ニ反シテ筋細胞ト腺細胞トノ連結ニ關シテハ儘ムラヲハ吾人ハ未タ満足スヘキ斷定ヲ下スコト能ハサルナリ

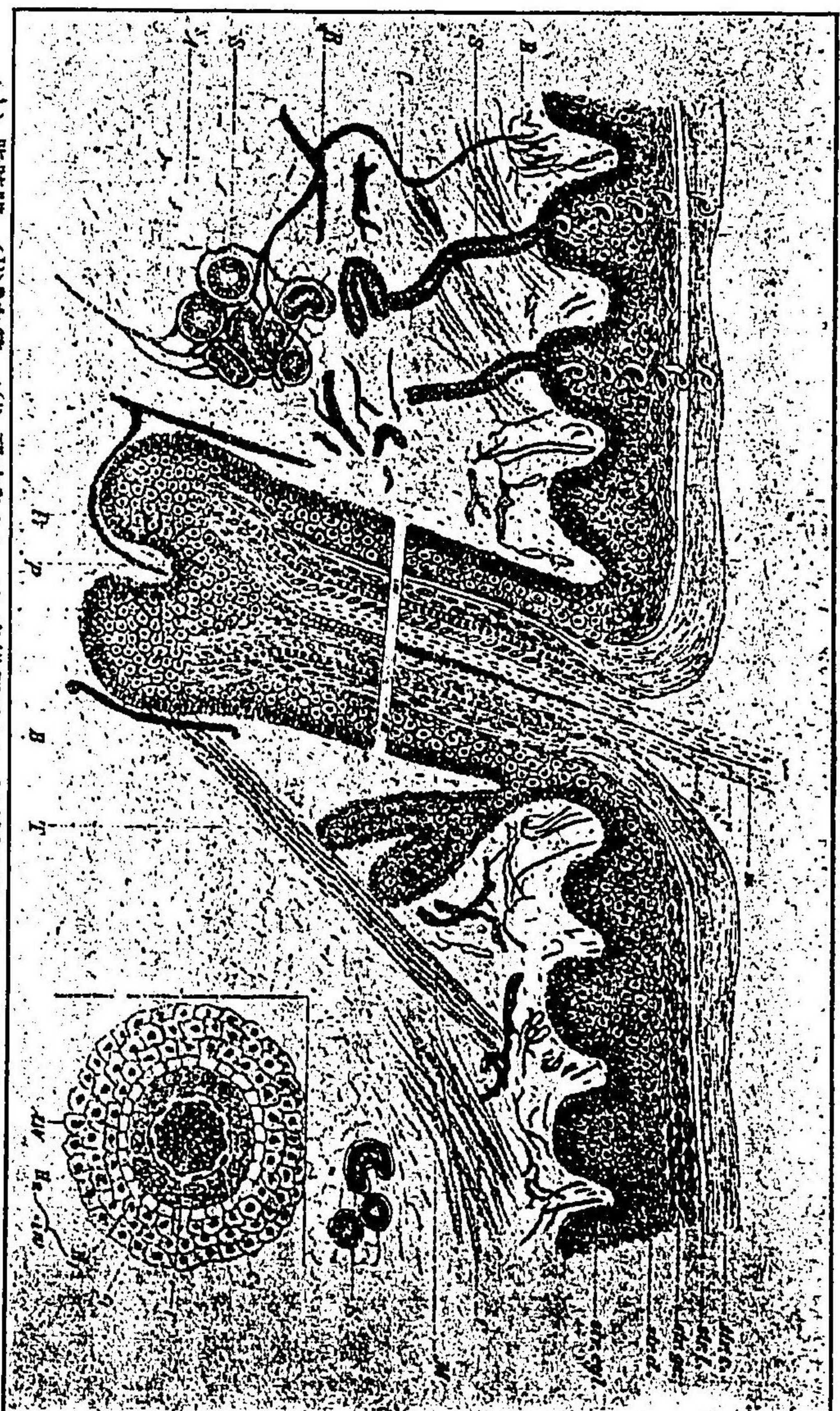
皮脂腺 Talgdrüsen (第六圖t)ハ鞏皮ノ上部ニ在リ殊ニ毛髮ノ近傍ヲ以テ然リトス此腺ハ葡萄狀ノ構造ヲ有スルモノニシテ其各小囊中ニ包括セル核子類似ノ細胞ハ或ハ長ク或ハ圓ク無數ノ脂肪滴ヲ以テ充實セリ此腺ノ排泄管口ハ毛囊ノ外部ニ接シテ出テ毛髮ノ存スル所必ズ其傍ニ於テ數多ノ皮脂腺アリ而シテ腺ノ多少ハ毛髮發生ノ強弱ニ比

例ス、然ルニ往々毛髮ノ發生セザル皮膚ニモ皮脂腺ノ存スルアリ、例ヘ
 バ唇縁、小陰唇、龜頭、包皮ノ如キ之レナリ、是等ノ腺ハ特ニ之ヲチーソン
 氏腺ト稱ス、但シ手掌及足蹠ニハ皮脂腺ノ存スルコトナシ。

此腺ノ顯微鏡検査ニ最好ク適スルモノヲフレンミンク氏液(1%クロトム酸
 十六分、1%チスミウム酸八分ト一分ノ氷醋)中ニ保存セル皮膚片トス、而シテ皮
 膚ノ一般検査ニ對シテハ寧ロベンダノ法ヲ採ル、即チ先ヅ皮膚ノ一小片ヲ取
 リ之ヲ10%ノ硝酸中ニ置ク、四時間乃至六時間、次ニ一日若シクハ數日間
 ミユルレル氏液中ニ入レタル后、水ヲ以テ洗フ、二十四時間、而シテアルコ
 ール中ニ於テ凝固トナシ、次テツエルロイザンニ入レ、ミクロトームヲ以テ
 切片ヲ造ル、今此切片ヲ取リ凡テ二十四時間ヲ豫期シテ逐次ニ同量ノ水ヲ
 混シタル硫酸々化鉄液、蒸餾水、常水、アルコール性、ヘマトキシリン液ニ入ル
 、其ハ濃黑色ヲ呈ス、十五分時ノ后、之ヲ取出シ更ニ三十%ノ醋酸中ニ移ス
 、二三分時ニシテ脱色ス、以下凡テ通常ノ包埋方法ニヨル、即チ水、アルコー
 ル、ニメルサム中ニ入ル、ナリ

毛髮 Hair (第六圖) ニハ毛根球 Harbulbus ト毛幹 Haarschaft トアリ、即チ毛
 根ノ最下部ニシテ帽子狀ニ毛樣乳嘴 Harpapille (第六圖P) 上ニ在ルモ

第六圖



(A) 脂肪膜 (B) 血管 (C) 表皮 (str. e.) 角様層 (str. l.) 透明層 (str. tr.) 顆粒層 (str. d.) 棘狀層
 (str. cvl.) 血竇層 (S) 汗腺 (AD) 立毛筋 (T) 皮脂腺 (m) 髓質 (G) 皮膚 (c) 毛髮表皮 (c.) 根幹表皮
 (tw) 内部根鞘 (H) 「ワックスレー」氏層 H₂ 「マンレー」氏層 (aw) 外部根鞘 (P) 毛髮乳嘴

ノヲ毛根球ト云ヒ表皮上ニ顯出セル部ヲ毛幹ト云フ
 毛髮ノ構造ヲ知ラント欲セバ宜シク先ツ毛髮ノ由來ヲ明ニセザルヘ
 カラス、胎兒生活殊ニ三四月ノ時期ニ方リ表皮ノ突起ハ圓錐形トナリ
 眞皮ニ向ヒテ膨大シ之ヲ排除セントス、毛髮及毛根鞘ノ成立ハ此表皮
 膨大ニ因ルモノナリ、詳言スレバ表皮細胞ノ中央部ハ其周圍部ヨリ分
 レテ毛髮及内部根鞘トナリ、周圍部ハ即チ外部根鞘(毛囊)ヲ形成ス、鞏皮
 乳嘴ハ此毛囊ノ基底ヨリ隆起シテ表皮圓錐體ノ下端ヲ蓋フ、脈管ハ此
 毛乳嘴中ニ侵入シテ始メテ毛髮ノ榮養機關トナル
 毛髮ニ付テ(一)先ツ第一ニ掲クヘキヲ髓 *medulla* (髓質)(第六圖 m)トス髓ハ
 其内部ニ空氣ヲ包含セル四角形ノ細胞ヨリ成ル但シ毛根球内ニ於ケ
 ル髓ハ空氣ニ代フルニ細胞内ニ存スル「エレイデン」ヲ以テス(二)髓ノ外
 部ニ在ルモノヲ皮質 *Kindensubstanz* (第六圖 r)トス顆粒狀ノ色素ヲ包有
 シ縦線狀ニ輝キ長キ扁平ナル細胞ヨリ成ル(三)皮質ノ外部ニハ毛髮表
 皮 *Cuticula* (第六圖 c)アリ、平滑ナル累積セル細胞ヨリ成ル(四)毛髮表皮

ニ次イテ外部ニ在ルモノヲ根鞘ノ表皮 *Cuticula der Wurzelscheide* (第六圖
 c)トシ(五)之ニ次クモノヲ(内部)根鞘 *innere Wurzelscheide* (第六圖 iw)トス
 此根鞘ハ内層ト外層トヲ區別シ前者ヲフックスレー氏層ト稱シ後者ヲ
 ヘンレー氏層ト稱ス、總テ毛髮ト成長ヲ共ニシ毛髮ノ一部ヲ成ス之ニ
 反シ外部ニ在ル層ニシテ毛囊ヲ形成スルモノニ至リテハ宜シク毛髮
 ト區別セサルヘカラス(六)内部根鞘ノ外部ニ在ルモノハ毛囊上皮(外部
 根鞘)(第六圖 aw)ナリ、表皮ノ連續物ト見做スベキモノニシテ皮脂腺ト毛
 髮トノ吻合部ニ至ルマデハ角様層及「マルビーギー」層ノ二細胞ヨリ成
 リ皮脂腺ノ下部ニ下リテハ唯「マルビーギー」層ノ一細胞層ノミヨリ
 成立ス(七)次ニ外部ニ在ルモノヲ硝子様膜 *Chalazium* 内及ヒ外纖維様膜
innere u. aussere Faserhaut トス

人體ノ毛髮神經ニ關シテノ驗索極メテ珍シランゲルハンスハ外部根鞘内
 ノ毛囊ニ於ケル神經末端ニ就テ論述シタリ、エーベルトハ此驗査ヲ確認シ
 アルンスタインハ之ニ結論ヲ下シテ人ノ頭部ニ發生スル毛髮ニハ悉ク神

經ノ具レルモノタルヲテ説ケリ

胎兒ノ毛髮即チ絨毛 Villi-hare 又ハ毳毛 Lanugo ハ一部ハ胎兒生活間ニ一部ハ分娩後ニ脱落スルモノトス其恢復ノ完成スル顛末大畧次ノ如シ毛根球ハ角様ノ性質ヲ稟ケテ枯死シ(圓頭毛 Kolbenhaar) 此圓頭毛ハ毛囊及毛様乳嘴ヨリ起ル細胞増殖ノ爲メ上部ニ壓セラレ(内部)根鞘ト共ニ脱落ス之レト全時ニ新毛髮モ亦此毛囊及毛様乳嘴ノ細胞増殖ニヨリテ形成セラルル成人ニ於テ毛髮ノ脱換スルヲ胎兒ニ於ケルモノト同一理ナリ

斯ノ如ク説明スルモ尙ホ諸種ノ關係ニ於テ不明ナル點アルヲ免レザルハ予自身ト雖モ夙ニ之ヲ認ムル所ナリ然レモ總テノ爭議ニ論及スルハ茲ニ其所ヲ得タルモノト謂フ可ラサルヲ以テ請フ詳細ハ解剖學書ニ譲ラン

毛髮ノ方向 Richtung der Haare ナ最モ容易ニ知ラント欲セバ胎兒ニ付テ觀ルヲ可トスエシヨヒトハ毛髮方向ノ雜形ヲ波動圖中ニ甚々明確ニ示シタリ

成人ノ場合ニ付テ其毛髮方向即チ所謂 *Grün* ナ定メタルモノヲフツイグトトナス

毛髮ノ色素 Pigment des Hares (第六圖 pi) ハ主トシテ毛根球中ニ在ルモノニシテ皮質中ニ於テ毛髮ニ着色ヲ與フルモノトス此色素ハ果シテ毛乳嘴中ニ發生シ后チ毛乳嘴ヲ出テ、始メテ毛髮球中ニ入ルモノナリヤ否ヤニ付テハ甚々疑ナキ能ハス

毛髮ト密接ノ關係ニ立ツモノヲ平滑ナル立毛筋 Musculi arrectores pilorum (第六圖 M) トス立毛筋ハ眞皮ノ上部ヨリ發シ毛囊内ニ入り收縮ニヨリテ毛髮及ヒ筋肉間ニ在ル皮脂腺ノ内容ヲ搾出ス之レト全時ニ毛髮モ亦自ラ直立セシメラル、ナリ(雁皮 Gänsehaut, Cutis serina) 眞皮中ニハ其他尙ホ平滑ナル筋ノ存スルアリテ場所ヲ異ニスルニ從ヒ其強弱モ亦自ラ異ナラサルヲ得ズ其發育ノ最モ甚シキ部ヲ陰囊及乳頭トス横線狀ノ筋ハ皮膚ノ諸部ニ在リ例之ハ腮部ノ如キ即チ之レナリ
成人ニ付テハ殆ント只タ「マルビーギ」層細胞内ニ於テノミ色素ヲ發

見スト雖凡皮膚ニ於ケル色素 Pigment in der Haut ハ蓋シ鞏皮中ヨリ起ルモノナルヘシ、染色セル結締組織細胞ノ鞏皮中ヨリ直接ニ表皮中ニ色素ヲ輸送スルモノナルヲハエールマン、リール、ケルリケル等諸氏ノ著述及ヒカルグノ植皮術試験ニ徴シテ毫モ疑ヲ容ルヘカラサル所ナリトス、カルグノ所説ニ基キテ尙ホ少シク其状態ヲ詳言スレハ畢竟表皮ノ最下層中ニ於テハ上皮細胞ハ黒キ線状ヨリ成レル網膜ノ爲メニ纏綿セラル、ノミナラス、其内部ニハ數多ノ黒キ小顆粒ヲ包有セリ、而シテマルビーギー網及ヒ眞皮ノ境界ニ在ル細胞ノ萌芽タル所ノ前掲ノ線條ハ此小顆粒ヲ輔佐的ニ細胞内ニ傳搬スル者ナリト云フニ歸着スベシ、尙ホ元基網叢細胞ハ果シテ獨立シテ色素ヲ發生スルノ能力ヲ有スルモノナルヤ之レ更ニ進ミテ研究セサルヘカラザル問題ナラント信スカスバリー及ヒカボジノ二氏ハ其最近ノ著述ニ據リテ見レハ此説ニ左袒セル者ノ如シ、又此説ノ根據トナスヘキモノハシワルベノ驗索ナリ、氏ハ冬期純白トナル動物(ヘルメリン)黃黝ノ一種ノ變色ニ

就テ毛髮ノ胚素細胞中ニ於ケル毛髮色素ノ原始的發生ヲ證明シ得タリホストノ觀察モ亦此説ニ符合ス、氏ノ觀察ニ依レハ胎兒期ノ毛髮發育ニ付テハ色素ハ毛髮ノ上皮細胞中ニ發生スルモノナリ

黒奴ノ小兒ハ出生ノ際ハ白色ナリト雖モ多少ノ時日、母體外ノ生活ヲ遂ゲ始メテ黒色トナルモノナリトノ説ハ教課書中往々見ル所ナリ然レモ晩近ノ驗査(モルリソン、トムソン)ハ其説ノ誤レルモノナルヲ證明セリ、即チ八ヶ月若クハ五ヶ月ノ胎兒ノ皮膚中既ニ色素ヲ發見セル所ヲ以テ之ヲ推セバ純粹ノ黒奴ノ小兒染色シテ出生スルヲハ毫モ疑ヲ容レサル所ナリトス

第三節 皮下結締組織及脂肪囊

Unterhautbindegewebe und Fettpolster.

鞏皮ハ其間ニ於テ著シキ限界ヲナスモノアラザルヲ以テ漸次下方ニ向テ進ミ遂ニ柔軟ナル皮下結締組織ニ移行ス、此結締組織ハ周圍ニ錯綜シタル結締纖維及弾力性纖維ノ一大團ヨリ成立ス、但シ此等ノ纖維ニハ其間多少大ナル網膜腔ヲ存スルモノトス

ウシノ検査ニ據レバ鞏皮ノ弾力性纖維ニ富ムコト實ニ驚クニ堪ヘタリ、
 弾力性纖維ハ太キ束狀ヲナシテ筋膜ヨリ出テ、真皮中ニ進ミ又形ノ分割
 ナ反覆シタル后、細微ナル萌芽トナリテ上皮境界ノ下部ニ密接シテ終止ス、
 此ニ於テ一集シ美麗ナル上下皮網トナル、此網ハ表皮ノ下形状ニ符合スル
 モノニシテ換音スレバウシノ所謂「上下皮ノ境界層」ニヨリテ上皮境界ヨ
 リ分割セラレタルナリ、乳嚙中ニハ細微ナル纖維進入シテ上皮細胞間ニ於
 テ消滅スバツツエ、ウシノ筋膜及上下皮網ヲ除クノ他尙ホ弾力性纖維ノ
 起點若シクハ附着點ト見做スヘキモノヲ平滑ナル皮膚筋トス(ケルリケル、
 ウシノ)弾力性纖維ヲ着色セント欲セバタンツェルノ與ヘタル方法ニ據ル
 ハ容易ニ其目的ヲ達スルヲ得ベシ、其法ハ醋酸性ナルセイソ液中ニテ染
 色スルヲ二十四時間ニシテ后チ一%ノ鹽酸アルコール中ニ於テ脱色シ鮮
 褐色ヲ呈スルニ至リテ止ムニ在リ、予ハ或ハベンダ氏、アイゼンヘマトキシ
 リンヲ以テ豫メ着色シ或ハアラウンヘマトキシリンヲ以テ後ニ着色スル
 ヲチ紹介セント欲ス

身體ノ最多部ニハ前述ノ網膜中ニ累積セル脂肪部ヨリ成レル脂肪組
 織即チ脂肪小辨 *Fettläppchen* アリ但シ其脂肪部ハ結締組織被膜ヨリ包
 圍セラル、モノトス、脂肪囊ハ場所ノ異ナルニ從ヒ其發育ノ強弱モ亦

同ジカラズ、手掌、足蹠、臀部、女姓ノ胸腺ニハ其數極メテ多シ、之ニ反シテ
 耳、眼瞼及陰莖ハ全然脂肪囊ヲ缺クモノトス

凡ソ皮膚ノ脂肪囊ハ平滑ナル緊張シタル外觀ヲ呈スルモノナルヲ以
 テ、是ニ於テ吾人ノ所謂「白皮」*Weißen Haut* ナル名稱ハ愈々名實相協ヘル
 モノト謂フベシ(クローマイエル)

クローマイエル氏ノ説ニ從ヘハ眞皮ノ乳嚙ハ生理學上表皮ノ一部分ニ屬
 スルモノニシテ表皮ノ營養組織ナリトス從テ氏ハ人體ノ皮膚ハ之チ(一)實
 質皮(二)眞皮(三)皮下結締組織ノ三種ニ區別スベキモノタルヲ唱ヘタリ、尙
 ホ氏ハ實質皮ニ屬スルモノヲ以テ表皮及眞皮ノ上部ナリトシ殊ニ后者ニ
 附スルニ脈管眞皮 (*Chis vasculosa*) ト云フ名稱ヲ以テスベキヲ唱ヘタリ、蓋シ
 氏ハ此名稱ヲ選ミテ以テ從來ノ所謂乳嚙體ト云フ名稱ニ代ヘタルモノナ
 リ何トナレバ如何ナル部分ニ於テモ眞皮ニハ乳嚙ヲ缺クモノナルコトハ
 アラシコーノ試験ニ據リテ吾人ノ能ク知ル所ナレバナリ

爪 *Nagel* ハ手指及足趾ノ尖端背部表面上ニ角質構造ヲ形成スルモノ
 トス、其後部即チ爪根 *Nagelwurzel* ハ指ノ表皮ヲ以テ被覆セラレタリ、此
 表皮モ亦小線ヲ以テ爪ノ遊離部分ヲ包圍セリ、爪ハ又爪溝ナルモノ、

中ニ挿入セラレ鞏皮即チ爪^〇胚素^〇 Nagelmatrix 上ニ横ハル其構造ニ至リテハ爪ハ毫モ他ノ皮膚ト異ナル所ナシ、胚素細胞ハ「マルビーギー」層細胞ニ全然類似スルモノニシテ上方ニ壓セラレテ化角シ變シテ爪小板トナルナリ、要スルニ此等ノ状態ハ他ノ皮膚ニ在テモ亦常ニ見ル所ナリトス

ヤク、モレシヨツトハ手足ニ發生スル爪質ハ二十四時間平均九、二「ミリ」グラムニシテ一年ニハ平均三、四三「グラム」ニ達スルモノナルヲ経験セリ、手並ニ足ノ何レニ付テ看ルモ爪發生ノ容量ハ左右共ニ格別ノ差異アルヲナシ唯々足ハ手ニ比スレバ爪發生ノ容量僅少ニシテ同時間内ニ於テ手ニ發生スル容量ノ四分ノ三ニ相當スルノミ、凡テ温暖ナル季候ニ於テハ寒冷ナルヨリ爪ノ發生多量ナルモノトス

表皮ノ原質タル爪及毛髮ハ「ケラチン」ヲ形成ス、ケラチンハ蛋白小體類似ノ構造ヲ有スト雖モ多量ノ硫黄ヲ包含ス、今其形成ノ各個ニ付テ見レバ、硫黄ノ容量ニハ著シキ差異アリ、最僅少ノ硫黄量ヲ有スルハ表皮ニシテ〇、七%、毛髮ハ五乃至八%、爪ハ二%ナリ、毛髮ノ黒ク溶解性鉛ニヨリテ着色スルハ主トシテ此硫黄鉛ノ形成ニ由ルモノトス

第二篇

皮膚ノ生理

皮膚ハ一ノ分泌^〇機關^〇 Ausscheidungsorgan ナリ吾人ハ先ツ汗腺分泌ト皮脂腺分泌トヲ區別セン

第一節 汗腺 Der Schweiss

汗腺細胞ノ機能ハ神經興奮ノ直接作用ニシテ發汗ハ純然タル分泌ナリ

汗液ノ分泌ハ中樞神經系統(精神的興奮、呼吸困難、ストリヒニン等)ノ刺激ニ因ル場合ヲ除クノ他、尙ホ「ピロカルピン」及「ムスカリン」ノ如キ末梢的ノ刺激藥ニ因リテ起ルヲアリ而シテ「アトロピン」ハ汗腺ノ麻痺ヲ惹起スモノトス

吾人ハゴルトツ及殊ニルフシゲルノ試験ニ據リ猫ノ截断セル坐骨神經ヲ刺戟シ直ニ多量ノ發汗猫足ニ滴瀝スルヲ了知ス加之ナラズ此發汗作用ハ血壓ノ減少ト共ニ起ルヲアリ其他尙ホケンダル及ヒルフシゲルハ脚部ノ切斷術后二十分時ヲ經ルモ神經刺戟ニヨリテ強劇ナル發汗ヲ來スヲ證明セリ

汗液ハ皮膚ノ全面ヨリ供與セラレ表皮ヲ貫通シ浸出スルモノナリトスルニ拘ハラズ汗腺ニ歸スルニ脂肪ノ分泌ヲ以テシタルマイスチルノ陳腐説ヲ近時再ヒ採用セルモノナリトス而シテ此論理ヲ改良センヲ試シ悉皆ノ乳嘴小體ニ歸スルニ水様性皮膚蒸發(固有ノ汗液)ノ作用ヲ以テシ汗液ハ唯細胞間管ヲ通シテ蟻塊腺管中ニ進入スルモノナリトノ持説ヲ唱ヘタリ予ハ汗腺ニ付テハ刺戟ノ種類ヲ異ニスルニ從ヒ其解剖上ノ狀態モ亦種々ナルヲ及ヒロカルヒン[投劑後筋纖維弛緩シ汗腺ノ口徑擴張スルニ拘ハラズ坐骨神經刺戟ニ由リテ筋纖維ニ強力ナル収縮ヲ招キ口徑狹窄シテ甚々小トナルヲ指體ニ付テ證明シ得タリ予ハ尙ホ進ンテ動物及ヒ人體ノ汗腺中ニハ間接細胞核分裂ノ痕跡殆ント全ク缺乏シ又「チスミウム」ヲ以テ貯藏セル汗腺中ニハ脂肪塊ノ存セザルコトヲ實驗セリ依是觀之ハマイスチル、ウシナ兩氏ノ理論ハ其論據ヲ失ヒ汗液ノ分泌ハ唯汗腺ノミニ歸

スベキモノナルガ如シ

汗液ノ合成ハ未ダ精細ノ研究ヲ遂ゲタルモノナシ然レモ汗液中ニハ九七、七乃至九九、五%ノ水ノ他尙ホ鹽類(クロールアルカリエン、アンモニヤ等)及ヒ數多ノ有機物ヲ含有セリカブラニカハ「クレアチニン」及「硫黃」ノ存在ヲ證明シアルグチンスキー及クライメルハ多量ノ窒素ヲ發見セリ

ペンテアルスキーハ汗液中ニ於テ澱粉性醱母(ヒドロブチアリン)ヲ發見セリ此醱母ハ直接ニ分泌セラル、モノニシテ、決シテ有機體ヨリ形成セラル、モノナラズトス、又「トリブシン」ハ發見シ得ザリシト雖モ「ペブシン」類似ノ物質(ヒドロペブシン)ハ汗液中ニ存在セリ

晩近ニ至リブルンチル及ヒフラン、アイゼルスベルヒハ血液中ヲ循環セル小有機體ハ汗液ニ由テ排出スルモノナルヲ證明セリ人體ノ汗液反應ニ付テハ學說甚ダ區々タリルフシゲルハ温浴中其初メニ於テ汗液ノ酸性ヲ認メ直后常ニ亞爾加里性トナルヲ發見セリ、最初ノ酸性反應ハ滯溜セル舊キ分泌若シクハ皮脂腺分泌物ノ反應

ニ屬スル乎惜ムラクハ後者ノ現出極メテ速ナルヲ以テ之ヲ分析セント欲スルモ能ハズ之ニ反シホイスハ少量ノ酸性ト極メテ不確ナリト雖モ弱亞爾加里性トヲ含有セル汗腺分泌物及酸性表皮分泌物ヨリ成立セル副産物ヲ皮膚汗液中ニ發見スベキヲ信ゼリ此酸性表皮分泌物ハ正常的ニ即チ適度ノ汗液産物ニ過度ニ反應シ主トシテ皮膚汗液ニ酸性反應ヲ與フルモノトス

ガード及ツルステルガ皮膚ノ酸化作用ニ付キ吾人ニ與ヘタル説明ハ頗ル趣味アリ今温潤シタル「テトラ」紙「テトラ」メチールパラフェニールレンガアミン「テ」皮膚上ニ置クキハ該紙ハ往々蒼紫色ヲ呈スベシ蓋シ此染色タル唯々皮膚上ニ存スル一定ノ酸化スベキ物質ニヨリテノミ現出スベキモノナリ

第二節 皮脂 Der Hauttalg

汗腺ニ反シ皮脂腺ハ固有分泌トシテ述ブベキモノ無シ此章ニ於テ主トシテ論ズベキモノヲ上皮ノ増殖及續進性細胞脂肪變性トナス從テ

又人體ノ皮脂腺ニ於テハ間接性細胞核分裂ノ形蹟ヲ見ルヲ甚タ多シ神經ノ皮脂的産物ニ及ボス影響ハ毫モ存スルヲナシ顯微鏡的検査ヲ行フキハ脂肪小顆粒、脂肪小滴及脂肪性細胞ノ存在ヲ認ムベシ又往々「コレステアリン」結晶ノ存スルヲアリ然ルニ化學的検査ニ至リテハ應用甚タ尠ナシ蓋シ新鮮ナル皮脂腺分泌物ヲ得ルヲ頗ル困難ナレバナリ只脂肪及乾酪素類似ノ蛋白小體ハ其要素タルヲ證明シ得タルノミ又皮脂腺ハ必ズ毛髮ニ累積シテ存在スルヲ以テ見ルモ其分泌ハ毛髮ニ脂肪ヲ供給スル爲メナルヲ自ラ明カナラン

薩ニリーブライヒガ「ケラチン」細胞中ニ「コレステアリン」脂肪ノ夥多ナルコトヲ表示セシ以來果シテ此細胞内ノ脂肪ハ全ク毛髮ヲ正規的ニ保存ヲナシ得ルニ足ル乎或ハ皮脂腺ノ加増的脂肪ヲモ必須缺ク可ラザルモノトスルヤノ問題ハ學者ノ疑ヲ容ル、所トナレリ予ハ人體ノ皮膚ニハ二要點即チ一ハ皮脂腺中ヨリスル脂肪ノ分泌一ハ「ケラチン」物質中ヨリスル「コレステアリン」脂肪ノ變形ヲ觀察セザルベカラザル

モノト信ス

予が此後説ニ傾キタル所以ハ予が鳥ニ就テ施行セル試験ニ基キタルナリ
今、鳥ノ尾腺(哺乳獸ノ皮脂腺ニ同シ)ヲ除去スルモハ之レガ爲メニ羽毛ノ腺
脂ハ全ク妨ゲラル、チ見ン之ニ依リテ皮脂腺分泌物ノ緊要ナル關係ヲ有
スルヲ明カナリ

表皮細胞ヨリ形成セルコレステアリン脂肪ハ其一部ハ汗液ニ結合ス
ルヲ疑フヘカラス從テ又手掌ニ於テハ皮脂腺ノ存在セザルニモ關セ
ズ分泌セル汗液ノ脂肪ヲ包含スルノ事實モ充分説明スルニ足ルベシ
「コレステアリン」脂肪ハ人體表皮ノ正常的成分タルノミナラズ外部ノ傳染
ニ對スルモ亦タ保護覆被トナルゴットスタインノ検査ニ依リテ予輩ハ「グ
リセリン」脂肪ニ對スル關係ニ於テ「コレステアリン」脂肪ハ小有機體ノ爲メ
ニ分解スベカラザルヲ了知セリ

第三節 皮膚呼吸 Die Hautathmung

皮膚ノ瓦斯交換ハ肺臟ニヨリテ起ルモノト其性質ヲ同フシ無知覺發

汗(Perspiratio insensibilis)トシテ記載スベシ皮膚ハ炭酸及水ヲ失ヒ酸素
及其他ノ瓦斯體ヲ吸收ス炭酸ノ排泄量ハ二十四時間毎ニ殆ント十「グ
ラム」ニシテ酸素ノ吸收量ハ肺臟ニ對スル殆ント其百二十七分ノ一、水
ノ排泄量ハ肺臟ニヨルモノニ比スレバ其二倍ニ該當ス即チ二十四時
間毎ニ六百六十瓦ナリ、皮膚呼吸ヲ高ムルモノハ激烈ナル筋肉運動摩
擦及温浴トス

皮膚ノ水蒸發ハ三種ノ要因即チ皮膚及空氣ノ温度ト其温氣量トニ關
係ス然レモ之ニ關シ一定シタル一般ノ數ハ此ニ擧ゲ難シ又皮膚ノ放
散ニヨル厥冷モ皮膚ト其周圍ニ於ケル温度ノ差異ニ比例セリ

ヤンセンハ皮膚ヨリ排泄スル水蒸氣ノ量ハ瘧モ飲食物ニ關係ナク朝ヨリ
正午ニ向ヒテ降り、正午時ヨリ夕ニ至リテ昇ルモノナルヲ發見セリ、氏ハ
又炭酸蒸發ヲ以テ意味ナキ而モ價値ナキ不定ノ皮膚作用ナリト認めタリ
ビル子、ボウエルノ試験ニ於テハ固ヨリ其量僅少ニ過ギズト雖モ空氣ノ皮
膚ヨリ排泄セラル、ヲチ證明シ得タリ
角質造構ニヨル空氣消亡ノ僅微ナルヲハ蓋シ疑ヲ容ルヘカラサル所トス

フンケハ人體ニ付テ日々剝脱スル表皮鱗屑ノ重量六、〇「グラム」ニ付キ窒素ノ量ハ〇、七一ナリト算定セリト雖此數ハビシヨツフ及フナイトノ検査ニヨレバ少シク多キニ失スルモノ、如シ

モレシヨツトガ窒素排泄ヲ査定セン爲メ人體ノ角質結構即チ脱落スル毛髮成長スル爪及ヒ表皮ニ就キナシタル觀察ハ趣味アルモノトス氏ハ一團ノ人チノ毎月毛髮チ同一ノ長サニ期ラシメタルニ平均一日〇、二「グラム」ノ毛髮チ認メタリ又爪ノ發育ノ平均數ハ二十八日毎ニ截爪スルモノトスレハ一日〇、〇五「グラム」ナリ又毛髮ハ數々之ヲ截斷スレバ愈々速カニ成長スルモノナルヲ確メ得タリフイルオルトニ據レバ毛髮ノ生活期ハ頭皮ニ付テハ二乃至四年、其周圍部ニ付テハ四乃至九年、睫毛ニ付テハ百乃至百五十日ナリ頭毛ノ日々ノ成長ハ〇、二乃至〇、三「ミリ」メートル日々ノ脱落ハ男女共ニ三十八乃至百〇三本トス爪ノ成長スルヤ夏期ハ冬期ヨリモ、右手ハ左手ヨリモ、拇指ハ小指ヨリモ速カナルモノトス

皮膚ハ身體全部ノ保護機關トナリ温ノ調節ハ皮膚脈管ノ擴張及狹窄ト前述ノ理學的狀態トニ基クモノトス

皮膚溫度ノ査定ニハ特ニ難事ノ伴フモノアリ故ニ茲ニハ唯ダセナートルノ方法ヲ掲クルノミ即チ氏ハ驗溫器ヲ皮膚破裂中ニ挿ミ絆創膏條ヲ以テ

之ヲ固定ス然ルモハ皮膚部位ノ異ナルニ從ヒ三十二度二分乃至三十六度六七分ノ昇降スルヲ發見セリ

第四節 感覺機關タル皮膚 Die Haut

als Sinnesorgan

皮膚ハ温、熱、寒、冷、壓力、ニ對シテ各々特殊ノ神經裝置ヲ有スルモノトス而シテ感覺神經ノ特異ナル勢力ニ歸スル學問ニ其基礎ヲ置キタルハヨハン、ミユルレルニシテ後ニ之ヲ論シタルラヘルムホルツトナス氏等ノ說ニ從ヘハ興奮セル感覺神經ハ刺戟ノ性質如何ヲ問ハスシテ刺戟前已ニ一定不變ノ感覺本能ヲ有スルモノナリトスルニ在リ此說ハブリツクス及ヒゴルドシャイデルガ同時ニ然モ各自獨立ニ行ヒタル試験ニ由リテ皮膚感覺神經ニモ亦其適用ヲ看ルベキニ至レリ夫レ皮膚中ニ諸種ノ神經末端裝置ノ存在スルコトハ解剖學上ノ報告ニヨリテ明ナルノミナラス又刺戟ノ反應ニ付テ見ルモ疑ナキ所ナリ從來ノ

學者ハ壓力感覺及溫度感覺ハ何レモ同一ノ神經末端裝置ニヨリテ行ハル、モノナリトノ説ヲ採リタリト雖モブリツクスニ至リテ氏ハ限局セル平流電氣用法ニヨリテ皮膚ノ各部位ニ強刺戟ヲ與ヘテ各異レル感覺ヲ惹起シ得タリ氏ハ又鋼鐵性電氣導子ノ裝置ニヨリテ或ル一定ノ部位ニ於テハ壓力感覺他ノ一定ノ部位ニ於テハ寒冷感覺又他ノ一定ノ部位ニ於テハ溫熱感覺ノ存スルコトヲ實驗セリ依是看之感覺ハ刺戟ニヨルモノニアラズノ却テ該神經裝置ノ特異ナル勢力ニ關係スルモノト謂フベシゴールドシャイデルモブリツクスノ看察ニ基キテ同一ノ意見ニ達セリト雖モ氏ハブリツクスニ反對シテ溫熱刺戟ハ神經末端裝置ニ影響ヲ及ホサスノ却テ神經纖維其物ニ影響スルモノナルコトヲ信セリゴールドシャイデルノ採リタル溫度感覺ニ關スル局處論ハ極メテ興味アリ之ニ依レハ溫熱感覺ハ寒冷感覺ニ比シ到ル所僅少ノ位置ヲ占ムルモノナリトセリ表皮ノ厚薄ハ溫度知覺ニ影響ヲ及ホスコト甚タ著シカラズシテ其主トスル所ハ溫度ノ點ニ於ケル解剖

的調整ナラザルヘカラズ或ハ甚タ薄キ表皮ヲ有セル部位ニ於テ甚大ナル溫度知覺ヲ發見スルニモ拘ハラズ之ト同一ノ表皮ヲ有スル他ノ部位ニ於テハ甚タ僅少ナル溫度知覺ヲ發見スルヲアルハ其恒トスル所ニシテ彼ノ眼瞼ノ溫度知覺ハ甚タ強シト雖モ之ニ反シテ陰莖ニ於テハ甚タ僅少ナルカ如キ以テ其一例ト爲スニ足ルベシ又ゴールドシャイデルハ溫度感覺ニ對スルモノト同シク觸神ニ對シテモ凡テ皮膚中ニハ特異ナル二種ノ感觸シ易キ神經アルヲ決論セリ一ハ一般ノ擴張セル感覺神經ヲ表示セルモノニシテ此種ノ神經ハ汎ク皮膚ノ各部ニ一定ノ強力ヲ有スル機械的ノ刺戟ヲ感ズベキ能力ヲ與フルモノナリ他ノ一ハ特異ノ壓力神經ヨリ形成スルモノニシテ此神經ハ一方ニ於テハ特ニ細微ナル刺戟ヲ知覺シ又他ノ一方ニ於テハ刺戟強弱ノ程度ヲ感覺シ而シテ隆起セル部位神ヲ具ヘタルモノトス(吾人カ神經ノ興奮ニヨリテ惹起セル知覺ニ對シテ身體表面ノ一定ノ部位ヲ指示シ得ルハ此部位神アルカ爲メナリ)觸覺球ハ觸覺ニ對シテ

ハ重要ナル關係ヲ有スルモノニアラズシテ却テ神經末端ノ保護機關タルモノ、如キ觀ヲ呈スルナリ

皮膚感覺神經ノ特異ナル勢力ニ關スル學問ニ付テハ尙ホ病理的事實ニヨリテ證明スヘキ者アリ從テ皮膚病學ニ於テモ或ハ症狀ニヨリテハ感覺本能ノ病理的現象ニ注目スルヲ必要トス而シテ神經系統ノ疾患ト關係ヲ有スル皮膚病ニ付テハ種々ノ感覺本能ノ關係ニモ注意セサルヘカラス例之ハ正中神經及尺骨神經ノ損傷后ニ於テ手部ノ觸感ハ依然存スルニモ關セズ往々溫度感覺ノ消亡スルヲアレバナリ

第五節 皮膚ノ吸收力 Resorption der Haut

瓦斯體ハ其有毒ナルト否ラザルトヲ問ハズ凡テ人體ノ皮膚中ニ侵入スベキモノトシ其他揮發性物質モ其迅速ナル蒸發ヲ妨クルキハ皮膚ヨリ吸收セラル、モノトス、之ニ反シテ液體物質ノ吸收ニ關シテハ學者間尙ホ少シク疑團ヲ解ク能ハサルノ已ムヲ得サル状態ニアリトス、此ノ如ク學者間未タ其意見ノ一ニ歸セサル原因ハ主トシテ種々ノ

困難及誤因ノ存スルニ由ルモノナリ、批難スベカラザル善良ノ方法ノ案出セラレサル所以モ亦此ニ存スト云ハサルヘカラズ、學者或ハ時ニ積極的ニ説明スルモノアリト雖モフライシエル、リツテル等ノ實驗ニ依リテ水若シクハ亞爾箇保兒中ニ溶解セル物質並ニ軟膏狀ノ藥劑ハ無傷ナル皮膚ヨリ吸收セラル、トナキヲ推測シ得ベシ皮膚ノ僅微ナル剝離ノ場合ニ於テハ水楊酸、沃度丁幾、沃度加里等ノ如キ異種物質ノ吸收セラル、時ハ尿中ニ於テ容易ニ證明シ得ル所ナリ、極メテ微細ノ水樣及ヒ亞爾箇保兒性溶液ノ浸潤力ニ關シテジウールハ積極的成績ヲ報シフライシエル及リツテルハ之ヲ消極的ニ論定セリ、然リト雖モ積極論ヲ採ルモ果シテ皮膚剝離ノ存セサリシヤノ疑團ヲ生スルハ固ヨリ當然ノコトニ屬ス

前述ノ場合ニ對シテ破格ヲナスモノヲ皮膚ノ水銀吸收力トナス最近ノ著書ニヨリテ確定セラレタル所ニヨリテ見ルモ此種ノ吸收ニ關シテハ皆一點ノ疑ヲ容レサル所ナリ

浴湯中ニ於ケル吸收ノ關係如何ヲ尋ヌルニ先ツ鐵物ノ吸收ハ絶ヘテ之ヲ見ス殊ニ食鹽浴後ニモ尿中ニ於テ格魯兒化物ノ増加セルヲ證明スルヲ得ス水ノ吸收スラ甚タ僅少ニシテ殆ント特ニ之ヲ掲出スヘキ價值ヲ有セサル程ナルハ蓋シ有機體ハ浴中ニ於テ水分ヲ消亡セサルガ故ニ水ヲ吸收セザルモ水分ニ富ムモノナリトス浴後ノ利尿ハ皮膚神經ノ腎臟脈管上ニ及ス反射作用ノ結果ナリ

動物ノ皮膚表面ノ塗漆 (Ueberfurniss) 即チ緻密ナル塗布藥ヲ以テ皮膚ヲ密覆スルキハ皮膚全部ニ於ケルハ勿論唯其ノ大部分例ヘハ其四分ノ一乃至八分ノ一ニ塗漆スルモ尙ホ死ヲ致スモノナリトノ陳腐説ハ探ルニ足ラスエルレンベルゲルノ検査ニ由レハ健全強壯ナル動物ニ截毛後一二日即チ動物ガ其狀況ニ馴ルヲ待テ塗漆スルモ死ニ陥ラザルヲ證明セリ殊ニゼナートルノ人體検査ニヨリテ吾人ハ皮膚塗漆ハ人體ニ甚シキ危險ヲ及ホサルヲ了知セリ皮膚塗漆ノ場合ニ於テハ脈管麻痺ノ爲ニ温熱放散ノ増加スルノ結果トシテ體温ノ降ルヲ

見ルヘシウンナハ増加セル温熱放散ノ原因ヲ以テ塗漆后ニ於ケル皮膚ノ蒸發昇騰ニ歸セントセリ

第三篇

皮膚ノ病理及療法總論

第一節 定義 Begriffsbestimmung

皮膚病ノ研究ハ殊ニ初學者ノ困難ヲ感スル所ナリ之レ主トシテ發疹ノ形狀千差万別ニシテ且殆ント不定ナルニ由ル然ルト雖モ仔細ニ觀察スルキハ又タ一定ノ規律ニ隨フヘキモノ多キニ居ルヲ知ルニ足ラシ此規律モ亦之ヲ相比較スルキハ或ハ偶發原因ノ爲ニ影響ヲ受ケテ初發形狀ニ反對スルノ外觀ヲ呈スルモノアルヘシト雖モ原病症候ハ如何ナル皮膚病ニモ反復シテ常ニ之ニ伴フモノナルガ故ニ患者ニ就テ研究スルキハ之ヲ知得スルヲ敢テ難キニアラサルベシ予輩ハ次ニ原形ヲ掲ゲ以テ之ニ依リテ各種ノ原發疹ヲ判定スルノ便ニ供シ且ツ之ニ基キテ各稱及皮膚病ヲ診斷スルノ材料ヲ與ヘント欲ス發疹ノ形狀ヲ大別シテ原發及ヒ續發ノ二種トナス

(一) 原發性皮疹

斑 Macula トハ皮膚上ノ斑點即チ限局セル區域ノ異常變色ヲ指スノ謂ニシテ赤、褐、黃等更ラニ各種ノ潤色ヲ呈シ其形狀大小及ヒ發生原因モ亦種々ニ一ナラス其赤色ノ斑ニシテ大サ小豆大ヨリ指頭大ニ至ルモノヲ蔷薇疹 Rosolia ト云ヒ更ニ廣部ノ皮膚面ヲ占ムルモノ之ヲ紅斑 Erythema ト云フ而シテ其特性トナス所ハ指壓ニヨリテ容易ニ其色ヲ消褪スルモノナリ之ニ反シテ溢血 Bluterguss ハ指壓ヲ加フルモ退色セザルニアリ小圓形ナル皮下ノ溢血ヲ血點 Petechien ト稱シ線條ヲナスモノ之ヲ血條 Vibices ト云フ更ニ其部ノ稍廣大ナルモノヲ大溢血斑 Ecchymosen ト稱ス

色素ノ缺如或ハ集積スルニヨリ皮膚ヲ變色セシムル斑ハ指壓ヲ加フルモ消褪スルコトナシ色素消失ヨリ發生スル白斑ニシテ先天性ナルヲ皮膚變白病(白斑) Albinismus 其後天性ナルモノヲ後天白斑病 Vitiligo ト稱ス而シテ色素ノ過度集積スルヨリ來ル褐色ノ斑ニシテ先天性ナルモノヲ母斑 Naevus 其後天性ナルモノヲ夏日斑 Epheliden 其範圍ノ更ニ大

ナルモノ之ヲ黃褐色斑 *chloasma* ト稱ス
 蕁麻疹 *Urtica* (*Quaddel*) ハ組織ノ漿液性浸潤即チ皮膚ノ上層中ニ於ケル
 限局性ノ水腫ナリトス而シテ往々急性ニ發生スル固有ノ限局性皮膚水
 腫 *Hautodem* ハ之ニ反シテ更ニ下層ニ限局セラレモノナリ
 丘疹 *Papula* トハ粟粒大ヨリ豌豆大ニ至ル強硬ナル小結節ニシテ皮膚中
 ヲリ隆起スル者ヲ云フ其形狀圓錐、扁平、半球或ハ多角形ニシテ其色又數
 種アリ、而シテ丘疹ノ更ニ膨大シタルモノ之ヲ結節 *Tuberculum* ト稱ス
 表皮被覆ノ漿液滲出ニヨリテ尋常若シクハ赤色ノ基礎上ニ膨起スル
 キハ之レ小水胞 *Vesicula* (*Bläsche*) ニシテ透明ナル水様ノ内容ヲ有ス此
 種ノ小胞、數多相集リテ大ナル滲出物トナリ若シクハ當初ヨリ強勢ニ
 發生セル滲出物ニヨリテ形成シタルモノ之ヲ大水胞 *Bulla* ト稱ス小水
 胞、大水胞共ニ其中央ニ於テ臍窩ヲ有ス
 膿胞 *Pustula* ハ膿汁ヲ含有スル水胞ニシテ或ハ前ニ掲ケタル小胞ノ滲出
 物作用ニ由テ特異ナル小有機體ノ侵入ニヨリ發生スルヲアリ或ハ化

學的或ハ理學的ノ影響ニヨリ發生スルヲアリ膿胞ノ稍大ナルモノヲ
 小膿胞 *Impetigo* ト稱シ膿胞ノ邊緣ニ強度ノ浸潤ヲ現ハシ真皮ノ下層ニ
 侵入シタルモノヲ大膿胞 *Ecthyma* ト稱ス

(二) 續發性皮膚疹 原發疹ノ續發狀態トシテ來ルモノニシテ又偶發狀
 態ニヨリ發生スルヲアリ

其發生ノ最モ屢々來ルモノニシテ主要ナル模型ハ鱗屑 *Squamæ* トス即チ
 表皮細胞ノ角質變化シ皮膚面上ニ堆積スルモノナリ又鱗屑ニシテ炎
 性皮膚病ノ經過中發生スルモノヲ剝屑 *Desquamation* ト稱ス但シ糠秕疹
Pityriasis ハ獨立ノ疾病進行ヲ形成スル所ノ落屑トナス
 漿液、膿汁若シクハ血液ヨリ成レル原發疹ノ内容物皮膚表面ニ出テ、
 乾燥スルキハ之ヲ痂 *Krusten* ト稱ス、痂ハ滲出物ノ性質ニ從ヒ形狀及色
 澤一様ナラス或ハ圓形ヲ有スルモノアリ或ハ不規則ナルモノアリ、又
 其病機ニ從ヒ多少ノ厚薄アルモノトス
 潰瘍 *Ulceration* トハ多少大ナル皮質ノ破損ヲ謂フモノニシテ其缺損ノ

唯タ表面ノ皮膚層ヲ侵ス時ハ治療ノ進行スルト共ニ表皮ノ填補ヲ來スト雖モ膿潰ノ形成ニヨリテ眞皮ノ全部又ハ一部ヲ破壊セラレ、クニアリテハ治後必ズ癍痕 Narbe od. Cicatrix ヲ貽スモノトス故ニ此癍痕ノ性質及蔓延ノ度ヲ以テ往々其原病ノ何タルヲ推究スルヲ得ベシ

第二節 診断 Diagnose

皮膚病ノ診断困難ナル所以ノモノハ前文已ニ之ヲ述ベタルガ如ク主トシテ發疹ノ形狀互ニ相混同セルニ在リトス、發疹ハ往々單一若シクハ數重ノ輪狀ヲ爲シ(輪狀紅斑)或ハ線狀ヲナシテ現ハル、コアリ或ハ蛇行狀ヲ爲シテ來ルコアリ(廻轉狀蕁麻疹)故ニ先ヅ大體ノ形狀ニ注目スルヲ必要トス

皮膚病ヲ診斷スルニ當リテハ管ニ各個ノ發疹ノミナラス常ニ其全現象及其經過ニ着眼セザルベカラザルコト之レ第一ノ診則ナリ、又各皮膚病ノ斷案ヲ下スニ方リテモ管ニ該部分ノミナラズ尙ホ皮膚ノ全部更

ニ進ミテ人體ノ諸器關ヲ検査セザル可ラズ

凡ソ刀圭家タルモノ右ノ如キ順序ニ從ヒテ漸次各原發疹經過中ノ變遷ヲ研究シ該病機ノ初期及其現狀ヲ確ムルコトニ熟達セントセバ少ナクモ皮膚ニ於ケル病機進行ノ經過ニ通曉セザルベカラズ

皮膚病ニハ多ク搔痒ノ伴フモノナルヲ以テ患者ノ爬搔ヲ誘因シ爲メニ一層前述ノ發疹形狀ヲシテ消失ニ歸セシムルモノナリ、各般ノ皮膚病ヲ診斷スルニ付テ甚タ緊要ナルハ時トシテ表面上ノ剝脫又時トシテハ剝脫ヲ有スル爬搔症狀即チ表皮剝脫 Excoriationen ト原發疹トヲ區別スル點ニ在リ尙ホ其續發症ト見做スベキモノヲ輝裂 Ringelrassen トナス之レ浸潤後皮膚ノ緊張スル結果ニヨリテ生スルモノナリ

病歴ヲ領知スルハ頗ル重要ノコトニ屬ス然ルニ一般、皮膚病ノ診斷ニ付テハ更ニ臨床的特徵ニ重キヲ置カザルヘカラズ之レ醫師ニシテ已ニ皮膚ノ病機進行ノ經過ヲ通曉シ得ルニ至レハ病歴ニ對シテ必要ナル幫助トナルモノナレハナリ

一患者ニシテ二個或ハ二個以上ノ皮膚病ニ罹ルモノアリ、之レ殊ニ初學者ノ屢々誤診ヲナス恐レアル所トス、故ニ予ハ梅毒患者ニシテ梅毒性皮膚病ニ屬セザル他ノ皮膚病ニ罹レルモノアルヲ、特ニ此ニ注意シ置カント欲ス

以上述べタル所ハ局所^〇。所^〇。所^〇。ニ干スルモノナリ、今之ニ次テ常ニ重ヲ措クベキモノヲ全身病ト皮膚病トノ關係トナス、抑モ皮膚病ト全身機關ノ變化トノ關係ニ涉ル範圍ハ日ヲ逐フテ擴張シ來レルヲ以テ皮膚病學專門家タルモノニハ臨床實驗ノ最新完備セル診察法ハ必要缺クベカラザルモノトス、蓋シ百般ノ診察ニ接シテ局所進行ヲ斷案シ得ルノ能力ヲ與フルモノハ唯タ此診察法アルノミナレハナリ、吾人ハ皮膚病ノ爲メニ始メテ全身機關ノ一般疾患ニ注意ヲ促サル、¹甚タ稀ナラズ例ヘバ糖尿病ノ存在ニ氣付カザリシニ皮膚炎ノ發生スルニ至リテ始メテ其原因タル疾患ナルヲ知り又皮膚結核ニ干スル診斷ヲナスニ方リテ結核²、パチルス³ノ檢索ヲ要スルカ如キ之レナリ

最近皮膚病學ノ改革者トモ稱スベキヘブラ及氏ノ門弟ニヨリテ先ツ各般ノ寄生性皮膚病ニ付テ局所^〇。所^〇。所^〇。ノ區別セラル、ニ至レリ、而シテ管タニ之レガ局所^〇。所^〇。所^〇。ノ特性ノ區別ノミニ止ラズ殊ニ身體全部ノ機關ノ檢診ヲモ其基本トナスベキモノトナセル¹實ニ至當ト謂ハサル可ラズ此點ニ付テハ予ハ尙ホ後ニ屢々論述スルノ機會ヲ有スベシ

皮膚病ノ赤血球及尿ノ分泌上ニ及ス影響ニ付テハ之レ只タ簡單ナルモノト思フセザル可ラズ唯惜ムラクハ從來ノ臨床實驗ハ此問題ニ對スル答案トシテ吾人ニ唯タ甚々僅少ナル積極的ノ事實ヲ得ラシタルニ過ぎザルヲ看ヨ彼ノ²チンノ如キハ天疱瘡及痒疹ノ場合ニ於テ赤血球ノ減少シタルヲ發見シタルノミナルニアラズヤ

若シ夫レ皮膚ノ腐部カ侵サル、³キハ尿變化ヲ來スベキハ論ヲ俟タザル所ニシテ吾人ハ之ニ關セル⁴ブルグライ、ガムベリニ⁵其他諸氏ノ價値アル實驗報告ニ接スルニ尿成分ノ排泄液中ニ於ケル容量變化ニ關シテハ唯タ系統的ニ施行セル物質代謝検査ノ成績ニヨリテ判定スルヲ得ルノミニノ予ハ各個寄生性ノ皮膚ニ付テ積極的ノ說明ヲ爲サント欲スルモ此重要ナル検査ノ尙ホ未ダ充分ナラサルハ遺憾實ニ措ク能ハザル所ナリ

第三節 病因 Aetiology

微菌學ノ長足ノ進歩ニ伴ヒ晚今十年以來寄生性皮膚病モ亦病理的ニ有機體ノ存在ニ起因スルモノナルヲ明カニシ以テ最良ノ成績ヲ擧ゲタリ從テ癩病ハ果シテ遺傳性ナリヤ或ハ傳染性ナリヤノ論争モ其病因タル癩桿菌ヲ發見セルヨリ以來沈黙ニ歸シタリ

病因學ノ進歩ニ伴ヒ治療法ニ對シテモ亦一新路ヲ拓キタリ蓋シ癩瘡中ニ於テ結核桿菌ヲ發見シテ后始メテ結核菌純培養ノ「グリセリン」越幾斯(コッホ氏)ツベルクリンチ此皮膚ノ局所結核ニ對シテ使用スルニ至リタルヲ以テナリ「ツベルクリン」が果シテ癩瘡ヲ治療スルノ効チ有スルヤ否ヤノ問題ニ對シテハ未ダ確然タル斷案ヲ下ス「克ハザル」が故ニ如何ニ他ノ專門醫學者等カ微菌學ニ俟ツ所アルガ如ク皮膚病學ニ於ケルモ亦病因學上微菌學的治療法ノ進歩ヲ促ササル可カラズ

微菌學ハ驚クベキ長足ノ進歩ヲナシタリト雖モ之レト同時ニ謬說行ハル所小有機體ハ非病原的ノモノニシテ吾人ノ健康皮膚面ニ棲息ス

ルモノ全ク病原的ノモノナリトスル說ノ出ルモ亦自然ノ數ナリト謂ハサルベカラズ故ニ先ツ皮膚ニ關スル智識ヲ獲得シ後始メテ微菌學的研究ハ有益ノモノトナルベシ抑モ病原的小有機體ハ常ニ健康ナラサル皮膚面ニ現出シテ培養セラレ而シテ他ノ動物若シクハ人體ニ接種セラレ更ニ同一ノ病狀ヲ呈スルノ特性ヲ有スルモノトス

人體ノ皮膚上ニ存在スル寄生物ニ關スル吾人ノ智識ハ現今尙幼稚ナリトス、ピッツワツェロハ卵圓形及球狀ナル二種ノ細菌及他ノ分裂菌ヲ發見セリ又ホルドニー、ウツブレツチーハ足汗ノ特嗅ヲ發スル微菌(Bacterium graveolens)ニ付テ説明セリ

皮膚病中ニハ神經系統ノ疾病ト連絡ヲ有スルモノアリ、此ノ如キ關係ノ存スルヲハ先ツ發疹ノ對側(左右同形)ノ如キ一定ノ外形上ノ標徵ニアリテ明カナリ、加之ヲ、シーモンモ已ニ皮膚構成ノ完全ナル對側的ノヲ唱ヘタリ、即チ兩側的ニ吻合セル部位ニ於テハ神經及脈管ノ同一存在ヲ認メ、同一ノ纖維方向ヲ認ムルカ故ニ若シ有益ナル物質ニシ

テ或ハ外部ヨリスルニセヨ人體表面ニ觸ル、キハ吻合部位ハ全然類似スルヲ以テ對側的ニ反應ヲ呈スルヲ勿論ナリト信ス

此學說ハ偶々皮膚病ニ關スル神經變化ノ解剖的事實ヲ公ニスル者アルニ際シ更ニ勢力ヲ得ルニ至レリ、殊ニ此說ノ爲メニ與ツテカアリタルモノヲレロイルスノ検査トナス、氏ハ後天白斑病、魚鱗癬、大膿胞、天疱瘡及皮膚壞疽等ノ諸症ヲ以テ一部ハ末梢神經系統、一部ハ中樞神經系統ニ關係ヲ有スルモノナリトセリ

或種ノ皮膚病ハ生殖器病殊ニ女性ヲ然リトス、及消化障害ト反射的連絡ヲ有スト云フ藥劑ニモ亦皮膚發疹ノ原因ヲナスモノ多シ、或ハ之ヲ説明シテ該當人體ハ其藥劑ニ對シテ特異質ヲ有ストイフ、然ルニ特異質 Idiosyncrasic ト云フ語ハ吾人ガ輕微ナル外來ノ有害作用ノ爲メニ健全ナル人體ニ發疹スル場合ヲ説明スルニ用キル素因 Predisposition ト云フ語ト其意義ヲ同フス、素因ノ解釋タルヤ主トシテ遺傳ノ勢力ト云フ意義ヲ有スルニ過ギザルベシ、果シテ然ラバ遺傳素因ノ勢力ノ下ニ在

ル皮膚ハ其否ラザルモノニ比スレバ疾病ヲ原因スルヲ更ニ大ナルベシト想像スルモ敢テ不當ニアラザルベシ

皮膚病ノ豫防法 Prophylaxe ハ病因學ノ研究未ダ充分ナラザルヲ以テ僅カニ浴湯殊ニ海水浴及鹹水浴ヨリ成レル皮膚攝生並ニ病因トナルベキ有害物ヲ防遏スルニアリ、電工、銀工等ノ如キ一定ノ職ヲ執ルモノハ就業ノ結果、皮膚病ニ罹ルヲ多シトス、之レ其豫防ノ職工衛生ナル問題ヲ惹起ス所以ナリ、皮膚病ニシテ諸種ノ工業ニ關係スルモノニ付テハ予輩ハ各論ニ至リテ説述スル所アラントス

第四節 療法 Therapie

皮膚病ノ療法ハ大體ニ於テ未ダヘブラ氏ノ創意ニ據レリト雖、尙ホ外部ノ局所處置ヲ施スト同時ニ必要ナル場合ニ於テハ常ニ一般療法ヲモ眼中ニ置カザルベカラズ

局所療法ニ付テハ吾人ハ未ダ特效藥ヲ有セザルヲ以テ症候ニ對スル

處置ヲ以テ其重要ナル中心點ト爲ササルヘカラス、必竟皮膚病ノ處置ニ付テ關係ヲ有スルモノハ方法ナリトス、方法ニシテ克ク行ハレンカ、療法上好蹟ヲ擧グルヲ敢テ難事ニアラザルベシ、近世ニ至リテハ吾人ハ症候ヲ征服センカ爲メニ化學的藥劑ヲウ一群ノ知己ヲ得タリ、若シ其運用ニシテ方法ニ適センカ戰功ヲ奏セシメンコト期シテ俟ツベキナリ

現今世ニ行ハル、方法ヲ通覽スルニ何ノ理由モナク一意ニ重要視セラル、一方法アリ、即チ迅速ニシテ且ツ確實ナル全治ノ効ヲ見ンコト期シ藥劑ヲ直接ニ患部ニ施用スルコト是レナリ、其方先ツ痲皮ヲ以テ被覆セラル、皮膚上ニハ其痲皮ヲ剝離シタル後藥力ヲ作用セシメ、若シ其部位ニシテ強硬ナル角質化鱗屑ヲ以テ被ハル、際ハ又其鱗屑ヲ剝離シテ後始メテ藥劑ヲ投スルニ在リ、而シテ痲皮ヲ除去スルニハ油ヲ以テス、油ハ通常ノ種油 *Oleum Rapae* ナルモ或ハ阿列布油 *Oleum olivarium* ナルモ可ナリ、又鱗屑ヲ剝離スルニハ水及石礮、時ニハ銳匙ヲ用ユ、又殊

ニヘブラノ石礮精ヲ用ユルコトアリ、斯ノ如キ方法モ全ク必要ナラズトナスコト能ハザルベシ、何トナレハ皮膚發疹ハ不可觸 (*non me tangere*) トシテ汎ク認知セラル、ノミナラズ被痲ニ幾回トナク軟膏ヲ貼スルヲ以テ固ヨリ常ニ好成績アルコトヲ期スベカラズト雖モ若シ痲皮又ハ鱗屑ニシテ剝離セラル、キハ軟膏ニヨリテ或ハ治療ノ目的ヲ達シ得ルコトアルベケレバナリ

局處療法中水及粉末(撒布)ヲ以テ最重要ナルモノトス、水ヲ以テ洗滌スルコト炎症性皮膚病ニ對シ有害ナルモノト認知シタリト雖モ現今ニ至リテハ再ビ此方法ヲ採用スルニ至レリ、而シテ捲法ニハ或ハ冷水ヲ用ヒ或ハ溫湯ヲ用ヒ各種ノ皮膚病ニ大効アルヲ見ル、炎症性皮膚病ノ治療ニハ浴湯 (Bath) モ亦今日各種ノ發疹ニ付テ甚タ多ク用キラル、然レモ一般ニ之ヲ使用スルハ大ニ疑フベキモノナリ、即チ鱗屑疹ノ處置ニハ日々浴湯ヲ取ルコト著シキ効アリト雖モ濕疹ニ付テハ屢々不良ノ結果ヲ見ルコトアレバナリ、何レノ場合ニ於テモ入浴ハ各人各個トナシ、決シテ

混同ニナス可カラザルハ勿論トス
 撒布藥 Puder ハ皮膚面ニ分泌セル液狀ノ炎性產物ヲ吸收セシムルヲ
 主眼トス之ヲ撒布スルニハ手ヲ以テシ或ハ綿壓子及刷毛ヲ用ヒ或ハ
 直接ニ其藥囊ヲ結付ケ置クアリ撒布藥トシテ吾人ノ常ニ用キル所
 ノモノハ小麥澱粉或ハ米澱粉トス又馬鈴薯澱粉ヲ用キルコアリ

最近ウシナハ撒布藥ノ炎性若シクハ單ニ充血セル皮膚ニシテ毫モ分泌ナ
 キモノニ及ホス影響ノ佳良ナルヲ説明セリ此作用ハ直接ニハ催涼的ニ、
 間接ニハ防炎的ニ働クモノニシテ自然無知覺ナル皮膚蒸發ノ増加ヲ惹起
 スモノトスウシナハ此狀態ヲ説明ノ曰ク撒布藥ハ毛細管引力ニアリテ炎
 性皮膚ノ角様層ヨリ脂肪分子ヲ奪ヒ之ヲ廣大ナル表面ニ配分シテ水蒸發
 ノ角様層ヲ通過スルヲ容易ナラシムル者ナリ故ニ顔面ノ如キ特ニ脂肪ニ
 富メル部ノ充血セル皮膚ニ撒布藥ヲ用ユレバ最モ冷涼ヲ覺ユル者ナリト
 皮膚病ニ關スル療法ニシテ化學的ニ作用スルモノ極メテ多シト雖凡
 各論ニ於テ各種ノ疾病ニ適用スル藥劑ニ關シテ更ニ論述スル所アラ
 ント欲ス茲ニハ唯其一ニヲ揭示シメントールアリストールアントラ

ロピンノ如キ凡テノ皮膚病ニ對シ多少有効ナルモノヲ掲グ其作用等
 ノ詳細ニ至リテハ請フ之ヲ各論ニ讓ラン
 是等ノ藥劑ニ付テ甚タ重要ナルモノハ其應用法ナリトス何トナレハ
 治療ノ結果ハ屢々藥劑ノ使用如何ニ關スレバナリ殊ニ最近時ニ於テ
 此點ニ關スル進歩ノ特筆ス可キモノ枚舉ニ違アラズ
 最モ古來ヨリ行ハレツアル方法即チ藥劑ヲ外皮ニ適用スルハ軟膏
 劑ナリトス從前ハ主トシテ軟膏ノ原基トシテ使用セシ所ノモノハ豚
 脂ニシテ稀レニ牛脂羊脂或ハ牛髓ヲ用ヒタリシモ方今最多ク使用セ
 ラルモノハ豚脂ヲ安息香脂安息香酸一分豚脂九十九分トナシタル
 モノトス其他屢々グリセリン水小麥澱粉及トラガントノ混和物ヲ熱
 シ製シタルグリセリン軟膏ヲ用キルコアリ或ハ加々阿油及白蠟ヲ用
 ユ此二者ハ或ハ單味或ハ他ノ脂肪ニ混和シテ用キラルモノトス然
 レモ皮膚ハ此脂肪ニヨリ多少ノ刺戟ヲ受クルモノナルガ故ニ石油滓
 渣ナルワゼリンヲ用キルモ可ナリ

右ニ述タル原基軟膏ニ比スレバリーブライヒノ創製ニ係ル「ラノリン」ヲ以テ遙ニ優レルモノナリトス、ゴツトスタインノ驗査ニヨリテ吾人ハ「ラノリン」ヲ以テ小有機體ヨリ侵害セラレザル物質ト認ムベキヲ知レリ、然レモ此「ラノリン」ノ果シテ他ノ脂肪ニ比シテ皮膚ニ吸収セラレ、迅速且完全ナルヤ否ヤハ尙ホ議論ノ存スル點ナリトス

其他尙ホ軟膏ノ原基トシテ使用セラレ、モノヲ「モルリン」「ベノセチー」軟膏「エビデルミン」及「レゾルピント」ス

「モルリン」トハ、脂肪十七七ノ脂肪ヲ含有セル軟性中和性ノ純白ナル石鹼ニシテ水銀(一トニモルリン)「グリザロピン」「ピロガリス」蘇合香等ノ如キ諸種ノ藥劑ト混和シ得ルモノヲ云フ、モルリンハ石鹼形狀ヲ有スルカ故ニ急性炎性物ニハ之ヲ使用スベカラザルノ不便アリ、ヘノセチー「油」ハ比重ノ僅少ナルト且ツ表皮ヲ透過スベキ能力ノ強大ナルガ爲メ「グールドベルヒ」ガ皮膚病療法トシテ紹介セル者ニシテ、使用ニ適スル原基軟膏ハ「ヘノセチー」油八〇、〇白臘二〇、〇トス故ニ例ハ「アリストル」一〇、〇「ヘノセチー」軟膏一〇、〇ノ處方ヲナス者モ「アルベシ」エビデルミントハ密、水、グリセリンヨリ構成スルモノヲ云フ、レゾルピントハ「レールマン」ノ紹介ニ係ハル所ノモノニシ

テ迅速ニ且多量ニ皮膚ヲシテ吸脂セシメント欲シ、若シハ脂肪性藥劑ヲ速ニ皮膚中ニ侵入セシメント欲スル場合ニ原基軟膏トシテ用井ラレ、モノナリ

軟膏ハ或ハ手ヲ以テ或ハ精良ノ麻布ヲ以テ或ハ刷毛ヲ以テ皮膚上ニ塗擦シ、後チ麻布片ヲ以テ其全部ヲ被覆ス、時トシテ先ツ粉末ヲ撒布スルモ可ナリ

ウンナノ創製セル軟膏謨兒ト云フアリ之ニ供スル軟膏ノ調合ハ固ヨリ各皮膚病ニ實効アル藥劑ヲ以テス、其溶解點ノ高キヲ要スルガ故ニ容易ニ溶解セザル羊脂ヲ基礎トシテ應用スベキノミスノ如ク軟膏謨兒ハ一面若シクハ兩面ニ塗布セラレ種々ノ藥劑(酸化亞鉛、鉛膏、水楊酸等)ヲ以テ飽和セラル、モノトス、而シテ此軟膏謨兒ハ後章ニ於テ再ビ説明スベキ或皮膚病ニノミ使用セラレ殊ニ錯雜セル表面(例ヘバ耳殼ノ如キ)ニ効用アルモノナリ、軟膏謨兒ニ付テ不便ヲ感スルハ之ヲ固着セシムル爲メ尙ホ他ニ繃帶ヲ要スルト又寒冷ニ遇ヘバ脆弱トナリ、温熱ニ遇ヘバ液狀ニ變スルノ點ニアリトス

右ノ不便ハウンナヲ促カシテ遂ニ謨兒ノ飽和ニ用ユル軟膏中ニ樹脂ヲ加ヘ以テ種々ノ要求ニ應スベキ個答百兒加硬膏謨兒 Gutapercha-Plastermull. ヲ創製スルニ至ラシメタリ、硬膏謨兒ニハ別ニ繃帶ヲ要セス、何トナレバ謨兒ハ自ラ十分ノ粘着力ヲ有シ容易ニ該當皮部ニ附着スレハナリ、其他硬膏謨兒ヲ以テハ非常ニ濃厚ノ藥劑ヲ使用シ得ヘク吾人ハ今日汎ク之ヲ使用スルノ便ヲ得ルニ至レリ然レトモ他方ヨリ之ヲ見レハ製造所調製品ニハ軟膏謨兒ニ於ケルガ如ク吾人ハ製造者ノ意ニ適シタル調製軟膏ニ甘ンゼザル可カラザルノ不便アリ、故ニ皮膚病ノ變化極リナキ性質ニ對シ處方變換ヲ要スル場合ニ於テハ更ニ軟膏ノ成分ニ溯リテ之ヲ調査セザル可カラザルノ煩アルヲ免レス、軟膏謨兒ニ似タル「コルレム」ブラスト「ナル者」アリ是レ最近「ハー」フ「ン」ヘ「ブラ」ノ「創製セルモノ」ニシテ硬膏劑ヲ精良ナル「亞麻布」ニ塗布セリ、最近時又「リンチル」ニ塗抹セルアリ、殆ント硬膏謨兒ト比肩スベキモノハ「ト」ラウマチ「ン」彈力護謨「ヲ」クロ

「ホルム」ニ溶解シタル液ト共ニ調製シタル藥劑ノ用法トナス、該液ヲ例ヘバ「クリサロビン」ト「ラウマチ」ントシテ患部ニ塗布スルハ「クロ」ホルムハ蒸散シ皮膚上ニ硬固ナル被覆ヲ遺コス、此方法ハ殊ニ實地上下章ニ於テ説明スベキ寄生性皮膚病ニ効アルモノトス、ウンナハ從來行ハレタル「ビツク」ノ方法ヲ改良シテ尙ホ炎性皮膚病ニ用ユベキ乾燥方法ヲ發明セリ、「グリセリン」膠即チ是レナリ、「グリセリン」膠ハ實ニ皮膚病療法ニ非常ナル進歩ヲ促シツ、アルモノトス、次ノ形式ニ於テ中和的「亞鉛」膠ヲ使用セント欲ス

第一處方 酸化亞鉛 四〇、〇

白色「グラチン」 各二五、〇

「グリセリン」 各二五、〇

蒸餾水 一一〇、〇

右ノ合劑ヲ湯煎上若シクハ壺中ニ入レ熱湯ヲ以テ液狀トナシ毛ノ長キ筆ヲ以テ厚ク患部ニ塗布シ固定帶ヲ以テ之ヲ覆フベシ之ヲ炎性皮

膚病ニ使用スルキハ(繻帶ヲ支持スルニモ用ユ)其成蹟頗ル佳良ナリト
 ス、亞鉛膠ニハ尙ホ他ノ藥劑ヲ加フルヲ得、グリセリン膠ハ唯タ乾燥
 セル皮膚上ニ塗布スヘキノミ、何トナレハ濕潤セル皮膚面ニ於テハ剝
 脱スルノ恐アレバナリ、繻帶ハ疾病ノ性質ニヨリテ一ニ日間之ヲ放擲
 シ置クベシ然ルキハ藥液自ラ剝離スルカ或ハ温湯ヲ用ユレバ容易ニ
 之ヲ除去シ得ベシ
 尙ホ氏ニ附記スベキモノヲ乾燥擦劑ビツクトナス此乾燥擦劑ハ「バツ
 ソリン」ナル護膜ノ一種(トラガント護膜)ヲ包含ス即チ「バツソリン」五分、
 「グリセリン」二分及ヒ蒸留水百分ノ混和物ナリ、此擦劑ハ極メテ薄キ層
 ニ塗布スルヲ得ベク從テ乾燥スルキハ薄皮ヲ形成ス、炎性皮膚病ニ
 ハ特效アリ、尙ホ他ニ一ノ利益ト見做スベキモノハ此擦劑ニ混和セル
 藥劑ノ用量僅少ナルモ強キ軟膏若シクハ他ノ混和物ト同一ノ作用ヲ
 表ハス點ニ在リトス、又五乃至十% 麥兒擦劑ヲ用ユルヲ最多シト雖モ
 尙ホ後ニ述ブル所アルベシ

第二處方 「カチニー」油 五、〇—一〇、〇

ビツク氏擦劑 一〇〇、〇

(麥兒擦劑)

脂肪軟膏ノ使用後炎症ヲ發起スル患者アリ、或ハ皮膚ノ分泌過多ナル
 爲メ「グリセリン」膠ヲ使用シ得ザル患者アリ、然ルキハ巴斯多ヲ使用ス
 ルヲ適當トス、巴斯多ハ大抵ノ皮膚病ニハ良効ヲ奏スベシ、「ラツサー」ハ始
 メテ次ノ方ニ從ヒテ「ザリチール」巴斯多ヲ示シタリ

第三處方 水楊酸 二、〇

酸化亞鉛 各二四、〇

澱粉 各二四、〇

「ワゼリン」或ハラノリン(五〇、〇) 「ラツサー」氏バスタ

巴斯多ハ多クノ炎性皮膚病ニ使用スベク空氣ヲ遮斷シ分泌物ヲ吸收
 シ清涼的及防炎的ノ作用ヲ爲ス、同一ノ原基方式ニ從ヒテ硼酸、硫黃、麥
 兒等ノ如キ他ノ藥劑ヲ以テ類似ノ巴斯多ヲ臨機製シ得ヘシ

アルニンゲノ考案ニ係ハル余屬管中ニ於ケル軟性軟膏及巴斯多ノ調劑法

ハ亦紹介スルニ足ルベシ、唯々灰白軟骨及硝酸銀軟膏ノミハ之ニ不適當ノモノトス

ウシナノ糊性、鉛性、デキストリン性、ゴム性、及礬土性等ノ巴斯多ニ付テハ予輩ハ簡單ニ原基方式ヲ與ヘ以テ處方ノ模範ヲ示サント欲ス

(糊巴斯多)

(鉛巴斯多)

穀粉	各一〇〇、〇	米澱粉	一〇〇、〇
亞鉛華		酸化鉛	
「グリセリン」	五〇、〇	「グリセリン」	各三〇、〇
硫黃	二〇、〇	醋	六〇、〇
或ハ麥兒	五〇、〇		
(デキストリン)巴斯多		(礬土)巴斯多	
沈降性硫黃	一、〇	白礬土	
水		亞麻仁油	各三〇、〇
「グリセリン」		酸化亞鉛	
「デキストリン」	各一〇、〇	次醋酸鉛液	各二〇、〇

(ゴム)巴斯多

酸化亞鉛

澱粉

「グリセリン」

「ゴム」漿

各二〇、〇

限局性皮膚病ノ療法ニウシナハ尙ホ他ノ藥方即チ軟膏スチフト及巴斯多スチフトヲ用キタリ、前者ハ軟性ニシテ脂肪ニ富ム、故ニ限局性ノ乾燥皮膚病ニ適シ、之ニ反シテ後者ハ硬性ニシテ分泌面ニ効アリ、何レモ左方ニ從ヒテ適宜ノ藥劑ヲ調合シ得ベシ

(巴斯多スチフト)

(軟膏スチフト)

(昇汞ノ巴斯多スチフト)

(硼酸軟膏スチフト)

昇汞末	一〇、〇	硼酸	二〇、〇
達羅侃篤護膜末	五、〇	黃蠟	四〇、〇
澱粉	二五、〇	安息香阿列布油	三五、〇

一デキストリン末

四〇〇

格魯保紐膜

五〇

白糖末

二〇〇

(狼瘡痘狀粉刺)

藥劑ヲ皮膚上ニ應用スベキ又他ノ方法ヲ噴霧法トナスウシテ數多ノ物質ハ其ノ水溶液ヲ以テ皮膚面ニ直接作用スルモノニアラズシテ蒸散性ヲ有スル液中ニ溶解セラレ皮膚ノ吸收ヲ待テ初メテ其力ヲ現ハスモノナルガ故ニ此方法モ亦藥劑ヲ依的兒若シクハ亞爾簡保兒中ニ溶解シ噴霧裝置ニヨリテ皮膚上ニ散布セシメントスルニアリ、必竟腋窩、趾部、粘膜面ノ如キ他ノ方法ニテハ容易ニ其目的ヲ達シ能ハザル部位ニ藥劑ヲ致サンガ爲メナリ

皮膚病ニ關シテ尙ホ觀察ヲ下スベキモノヲ石礮 *Sulfur* トナス、石礮トハ脂肪ト亞爾加里トノ化合物ノ謂ニシテ、之ヲ軟石礮加里滷汁ト脂肪ノ結合物及ヒ硬石礮(那篤留滷汁ト脂肪)ノ別アリ、多數ノ石礮ハ尙ホ遊離セル亞爾加里若シクハ炭酸亞爾加里ヲ含有ス、此亞爾加里ハ角質

組織ヲ侵シ深部ニ作用ス、故ニ皮膚ノ洗淨殊ニ治療用ニハ唯タ中性石礮即チ遊離亞爾加里ヲ含有セザルモノノミヲ用ユベシ

中性石礮ヲ製スルニハ過剩ノ脂肪ヲ石礮中ヨリ除去セザルヲ要ス(多脂肪石礮)此種ノ石礮ハ皮膚ニ及ボス作用ノ永キニ關セズ脂肪ノ脫離ヲ起サズ從テ皮膚ハ鬆粗トナルヲナシ、其他此石礮ノ特效ヲ有スルハ水楊酸、昇汞等ノ如キ藥劑ト克ク同化スルニアリトス

ウシナハ礮化作用ニ必要缺クマカラザル脂肪ノ他尙ホ三乃至四%ノ遊離セル脂肪(阿列布油)ヲ混和ス、マルモール石礮(多脂肪原基石礮四分、マルモール末一分)ノ如キ醫療用石礮ハ此多脂肪原基石礮ヲ以テ製スルモノトス
 アイヒホツフハ石礮ノ臭氣ヲ防ンガ爲メ過剩脂肪トシテ初メ單ニ、ラノリシテ使用セリ、然レモ全ク泡沫ヲ生スルコトナク或ハ是レアルモ甚々僅少ナルヲ以テ後チ二%「ラノリン」ニ加フルニ三%ノ阿列布油ヲ混シ用ヒタリ、此方ニ依リ容易ニ多脂肪「メントール」石礮(原基石礮九五%、メントール五%多脂肪「アリストール」石礮原基石礮八八%「アリストール」二%)等ヲ製シ得ベシ

リーブライヒハ他ノ方法ニ基キ中性石礮ヲ製シ得タリ、即チ氏ハ他ノ

脂肪ト共ニ「コーコス」質椰子核等ノ如キ油質ノ果實ヲ用キ而シテ尙ホ
 其中ニ存スル滷汁鹽及其他不潔物ノ剩餘ハ遠心器ノ應用ニヨリテ石
 礆中ヨリ除去シ諸種ノ藥劑ヲ混和セリ(又一〇%硫黃石礆一%昇汞石
 礆、五%麥兒石礆等)

石礆ノ中性ナリヤ否ヤヲ容易ニ知ラント欲セバ宜シク熱キ昇汞水ヲ石礆
 上ニ滴注スベシ、黃色ノ跟跡ヲ呈スルモノハ(酸化水銀)石礆中尙ホ未ダ遊離
 セル亞爾加里ノ存スル證ナリ、從テ其中性ナラザルヤヲ知ルベキノ「ミ」フエ
 ノールフタレイン」ヲ以テスルキハ其成蹟一層微妙ナルベシ、即チ其液ハ遊
 離セル亞爾加里ノ跟跡アル石礆上ニハ赤色ヲ呈セシムルモノトス

石礆ハ軟膏殊ニ中和性ナル脂肪ニダモ堪ヘザル皮膚ヲ有スル患者ニ
 適スルノミナラズ軟膏及硬膏ニ比シ廉價且ツ便宜ナルノ妙アリ、石礆
 ヲ使用スルモ塗擦セル石礆泡沫乾燥シテ一夜若シクハ其以上患部ニ
 附着スルニ非ザレバ更ニ効ナシ、故ニ塗擦セル部ハ綳帶ヲ以テ密包ス
 ベキモノトス

藥用石礆ハ時ニ液狀ナルヲ必要トスルヲ以テ「ブツチー」及「カイセル」ハ

中性、多脂及ビ亞爾加里性ノ各石礆ヲ液狀ニ製出セリ、亞爾加里性石礆
 ハ鱗屑及痂皮ヲ剝離スルニ用ユ、液狀石礆ハ其用途ニヨリ種々ノ藥劑
 ヲ混和シ得ヘシ例ヘハ麥兒石礆、メントール石礆、石炭酸石礆、水銀石礆
 單寧石礆等ノ如シ、液狀ノ原基ハ石礆ヲ濃厚トナスキハ軟膏類似ノ硬
 度ヲ有スル軟石礆ヲ得ベシ、此形狀ニ於ケル石礆ハ保存ニ堪ユルト廉
 價ニ且ツ使用ニ便ナルヲ以テ其長所トナス

最近「アイヒホッフ」粉末石礆ヲ創製セリ、其法先ツ純良ナル牛脂及那篤
 倫滴汁ヲ沸騰セシメテ中性石礆ヲ製シ後チ之ヲ乾燥シテ全ク水分
 ヲ去リ摩碎シテ之ヲ篩ヒ極微細ノ粉末トナス、此白色石礆粉末ハ克
 ク之ヲ密封シ濕氣ニ觸レシムベカラズ、各種ノ粉末石礆ノ原基トナ
 ルハ此石礆粉末ナリトス、此中性ナル原基粉末石礆ニ二%ノ油酸及
 三%ノ「ラノリン」ヲ加フレバ多脂原基粉末石礆ヲ得又其作用ヲシテ
 劇甚ナラシメント欲セバ宜シク中性粉末石礆ニ二、五%ノ加里及二、
 五%ノ炭酸那篤留謨ノ混和物ヲ加ヘテ亞爾加里性原基粉末石礆ヲ

用ユベシ、アイヒホッフハ皮膚癢痒症ニ對シ樟腦若シクハ薄荷粉末石
檢(樟腦若シクハ薄荷五%、粉末石檢九五%)尋常粉刺ニ對シテハ浮石
粉末石檢(浮石二〇%、粉末石檢八〇%)ヲ費用セリ
尙ホ爰ニ掲グベキモノヲ最近使用スル「ザボニメントム」(Saponimentum)
即チ複方石檢擦劑及ヒ「グリセリン」(Glycerinum saponatum)
「グリセリン」製石檢擦劑ナリトス

ジータリヒノ「サボニメントム」トハ複方石檢擦劑ノ謂ニシテ多數ノ
藥劑ヲ以テ轉位スルヲ得ベシ百露拔爾撒謨石檢劑「ビーチス、リクイ
デ」石檢劑等ノ如シ「レツエル」及「ウンナ」ノ經驗ニヨレハ此等ノモノハ
急性炎性皮膚病ニハ固ヨリ不適當ナリト雖モ慢性鱗屑性及癢痒性
皮膚病ニハ實効アリトス「グリセリン」石檢劑製造ニ功蹟アリタルヲ
「ハー、フン、ヘブラトナス」グリセリン石檢ヲ製スルニハ純粹ノ「グリセ
リン」三三%ノ容量ヲ程度トシテ「コーコス」核石檢ヲ化合スルニ在
リ此物ハ硬固ノ物質ナリト雖モ温度ニ遇ヘハ直チニ液體トナル、此

「グリセリン」石檢ハ軟膏體トシテハ殊ニ紹介スル價值アルモノトス
例ヘハ撒里失兒石檢軟膏(三五%)「グリセリン」石檢、五%ノ撒里失兒
酸ハ著シキ落屑ヲ惹起スガ故ニ從テ皮膚ノ胼胝形成及海綿樣腫ニ
ハ特效ヲ奏スルモノトス

以上汎ク藥劑ノ局所應用ニ關スル近時ノ方法ヲ説述セリ、而シテ既ニ
述ベタルガ如ク皮膚病ニ就テ一般ノ内科的療法ハ又決シテ之ヲ忽諸
ニ附スベカラズ、其處置ニ關シテハ外科的療法ト共ニ各個ノ徵候ヲ述
ブル場合ニ於テ詳述セント欲ス

皮膚ノ衛生ニ必要缺クベカラザルモノハ洗滌及適度ノ浴湯ナリトス、
皮膚ヲ洗滌シ之ニ附着セル脂肪並ニ或ハ萌芽菌又分裂菌ヲ除去シ血
液循環ヲ催進スルニハ水ニ若クモノナシ、而シテ血液循環並ニ排泄機
能ハ皮膚ノ健康保持ノ主タル條件ナリトス、故ニ適宜ノ入浴ハ甚タ必
要ナリト雖モ又強テ之ヲ薦メ得ザルノ事情モ往々ニシテ存ス
皮膚攝生ノ爲メ公衆浴湯ヲ設置シ以テ細民ヲシテ容易ニ入浴セシム

ルノ必要欲クベカラズ、浴湯ハ奢侈ニアラズ公共衛生ノ必要物タリ加之吾人ハ今日古代ノ風習ニ復歸シテ浴後若シクハ洗滌後軟膏類ヲ以テ身體ニ塗擦スルヲ可トセン、是レ蓋シ生理學上大ニ理由ノ存スル所ナリトス

亞麻布若シクハ木綿ノ衣服ハ果シテ健全ノ皮膚ニ適スルヤ否ヤノ問題ニ對シテハ元ヨリ一般ニ答案ヲ與ヘ難シト雖モ病體ノ皮膚ニハ如何ナル場合ニ於テモ精良ナル亞麻布ヲ以テ最適當トスルノ何人モ疑ヲ容レザル所ナリ

第五節 皮膚病ノ系統 Systematik der

Hautkrankheiten.

皮膚病ノ系統ハ實際ニ適セザル不必要ノ定論ニ屬スルモノニアラズ却テ系統的分類ノ、皮膚病理學ニ缺クベカラザルモノナルノハ學者ノ皆ナ首肯スル所ナリ是レ實ニ皮膚病學ニ於テ理論的基礎上ニ立脚セ

ル分類ノ學者ニ欸待セララル、所以ナリ

前世紀ノ終リニ當リウキルラン及ヒ氏ノ從弟パーテマンハブレックノ系統ニ基キテ各種ノ皮膚病ニ就キ觀察セル標準ヲ案出シ疾患ノ名簿ヲ製作シ從テ診斷學ノ完備ヲ促シタリ、又アリベルト、ビート、カヅエナウミ、デウエルギー等ノ事業ハ吾人ニ皮膚病ノ症候、位置、經過等之ヲ約言スレハ疾患ニ關スル詳報ヲ與ヘ、之ニ依テ臨床的現象ヲ確定セリ又發疹ノ解剖的研究ニヨリテ容易ニ皮膚病ヲ鑑別シ之ヲ指名シ得ルノ恰モ植物學者ノ花心ヲ看テ直ニ植物ノ何物タルヲ知ルガ如キ有様トハナレリ(ハルヂー)ヘブラ(一八四四年)ハ病理學的、解剖學的ノ標準ニ基キ分類ヲ次ノ十二種ニ區別セリ蓋シ此系統タルヤ多少ノ差異アリト雖モ今日尙ホ多數教科書ノ基本トナル

- (一) 皮膚充血
- (二) 皮膚貧血
- (三) 皮膚腺分泌異常
- (七) 萎縮
- (八) 新生物
- (九) 假性成形物

- (四) 發汗
- (五) 皮膚出血
- (六) 肥大
- (七) 神經性
- (八) 寄生物
- (九) 潰爛

第二ノ系統ハアウスビツクノ定メタルモノニシテ之ヲ九級ニ分類ス

- (一) 單純皮膚炎
- (二) 血管神經性症
- (三) 神經性皮膚病
- (四) 瘡血性皮膚病
- (五) 出血性皮膚病
- (六) 皮膚ノ特異神經症
- (七) 表皮剝脫症
- (八) Chloriastosen.
- (九) 微菌性皮膚病

此系統分類ハヘブラノ系統ニ比スレバ大ニ進歩セル所アリト雖モ二者何レモ未タ以テ總テノ要求ニ應スルニ足ラス何トナレバ二氏ノ系統ノ基本トナレル事實ハ其根據極メテ不確實ナレハナリ故ニ皮膚病學ニ於テモ醫學ニ於ケル最新歴史ノ順序ヲ追ヒ又其事蹟ニ據リテ將來唯々病因學上ノ原則ニ基ケル系統ノミ確然成立シ得ルノ時アラシ

吾人ハ右ニ掲ケタル二氏ノ系統ニ付テ其何レニモ據ルコトヲ欲セザルノミナラズ尙ホ新ニ系統ヲ立テザルベシ何トナレバ此未來ノ設計ニハ尙ホ夥多ノ建築材料ヲ蒐集スルノ必要アレバナリ

吾人ハ唯次ニ多少秩序ヲ正シタル系統的ノ項目ヲ掲ケ以テ數多ノ皮膚病ヲ通覽スルニ便ナラシメント欲ス故ニ吾人ハヘブラ及ヒアウスビツクノ系統ヨリ唯々説明ニ適合スル限界ニ於テ各箇ノ分類ヲ採用セリ他ハ一切今日ノ病理學上妥當ナリト信スル原則ニ據レリ各項中ニ在ル皮膚病ノ順序ハ説明及ヒ通覽ニ便ナランコトヲ期シテ列舉セルノミ

フヨルゼ 氏 皮膚病ノ症候的分類

第一、炎症性皮膚病

(一) 濕疹

(七) 苔癬 紅色苔癬、腺病性苔癬

- (二) 傳染性膿疱疹
 - (三) 匍行性膿疱疹
 - (四) 水泡性皮膚炎
 - (五) 鱗屑疹(乾癬)
 - (六) 全身赤色糠秕疹
- 第二、皮膚循環障礙
- (一) 紅斑
 - (二) 蕁麻疹
 - (三) 急性性限局性皮膚水腫
 - (四) 色素性蕁麻疹
- 第三、皮膚進行性營養障礙
- (甲) 表皮ノ營養障礙
- (一) 魚鱗癬
 - (二) 限局性角質炎 疥癬、雞眼、皮角症
- (八) 初生兒剝脫性皮膚炎
 - (九) 頭部乳嚙性皮膚炎
 - (十) 脂肪腫形成 皮脂漏、尋常粉刺、酒齶鼻、痘狀粉刺、
 - (十一) 特發性鬚瘡
 - (十二) 火傷凍傷
- 第二、皮膚循環障礙
- (一) 紅斑
 - (二) 蕁麻疹
 - (三) 急性性限局性皮膚水腫
 - (四) 色素性蕁麻疹
- 第三、皮膚進行性營養障礙
- (甲) 表皮ノ營養障礙
- (一) 魚鱗癬
 - (二) 限局性角質炎 疥癬、雞眼、皮角症
- (四) 毛髮發生過多
 - (五) 爪甲肥大

- (三) 疣贅
- (乙) 真皮及皮下結締組織ノ營養障礙
- (一) 色素肥大
- (丙) 皮膚腫瘍
- (一) 纖維腫、贅腫、乳嚙腫(印度痘)
 - (二) 筋肉腫
 - (三) 黃色腫
 - (四) 肉腫
- 第四、皮膚ノ退行性營養障礙
- (一) 真皮萎縮症
 - (二) 毛髮萎縮症
 - (三) 色素萎縮症
 - (四) 爪甲萎縮症
- 第五、神經炎性皮膚病
- (六) 色素性乾皮病
 - (二) 象皮病
 - (五) 粟粒腫、腺腫
 - (六) 傳染性軟疣
 - (七) 癌腫(バゲット氏病)
 - (八) 血管腫、淋巴腺腫
 - (五) 紅斑性狼瘡
 - (六) 鞏皮症、足趾薯樣肥厚
 - (七) 初生兒鞏皮症
 - (八) 多發惡液質性皮膚壞疽

- (一) 疱疹(匍行疹) 帶狀、匍行疹、口唇水
- (二) 痒疹
- (三) 皮膚瘙癢症
- (四) 天疱瘡
- 第六、寄生性皮膚病
- (甲)動物性寄生
 - (一) 疥癬 蝨
 - (二) 虱 蚤、床虫
- (乙)植物性寄生
 - (一) 白癬
 - (二) 寄生性匍行疹 寄生性、疥癬
 - (三) 癩風
 - (四) 紅色陰癬
 - (五) *Dermatomyces diffusa flexuratum*
- 第七、慢性傳染性皮膚病
 - (一) 結核性皮膚病 尋常狼瘡、表皮結核、惡性、爪甲炎、膿液性腺病
 - (二) 皮膚ノ白血病及假性白血病
 - (三) 瘰癧 Verruga peruana, Orientbeule
 - (四) 鼻硬腫
 - (五) 癩病

(三) 息肉微生物病

(六) 鼻硬腫

第四編

皮膚病各論

第一章 炎症性皮膚病

濕疹 Eczema

濕疹ハ皮膚病中多數ヲ占ムルモノニシテ又實地上重要ナルモノトス
 濕疹ニ關スル學說ハ從來紛議ノ渦中ニ在リタリト雖モヘブラガ簡單
 ナル實驗ニヨリテ各種ノ濕疹形狀ノ關係ヲ證明セシ以來學說一ニ歸
 スルニ至レリ氏ハ健全ナル皮膚ニ巴豆油ヲ塗布シ其刺戟ニ由リテ多
 數ノ互ニ移行スル臨床實驗的形狀ヲ獲タリ該形狀ハ種々ノ關係ニ於
 テ急性濕疹ニ發スル現象ト全ク同一ノモノナリ氏ハ之ニ由リテ皮膚
 上ニ及ボシタル刺戟ハ諸種ノ臨床實驗的形狀ヲ惹起シ得ルヲ證明
 シ得タルナリ

急性濕疹ニ付テハ其發育狀態ニ從ヒ是ヲ六期ニ區別セン第一症狀ト
 シテ顯ハル者ヲ潮紅即チ紅斑期 Stadium erythematosum トナス此期ハ
 數々水腫様腫脹ヲ併發スルヲアリ之ヲ單純ナル紅斑トスベキカ或ハ
 漸次發育スベキ濕疹トシテ處置スベキカ茲ニ容易ニ斷定スル能ハズ
 紅斑ニ次デ最小結節發生スルキハ第二期ノ丘疹期 St. papulosum ニ達シ
 タルモノトス
 次ニ來ルモノハ第三期ノ水泡期 St. vesiculosum ニシテ水泡ヲ形成シ其
 内容ハ水様ノ液體ナリ此期ニ至リテ濕疹ハ其極點ニ達シタルモノト
 ス是ニ於テ小疱破潰シ第四期濕潤期又赤色期 St. madidans rubrum ニ移
 行ス此期ニ於テハ多少強ク濕潤スル面ノ著シキ血管充盈ヲ來タスヲ
 見ル水泡ノ化膿ヲ來スキハ濃汁ヲ充タセル第五期小膿疱期 St. impetig-
 inosum ニ變シ終ニ快復ノ緒ニ就キ皮膚上ニ鱗屑ヲ生ス之ヲ第六期鱗
 屑期 St. squamosum トス
 濕疹ハ通常紅斑期ニ始マリ水泡期ニ於テ其極點ニ達シ鱗屑期ニ至リ

ヲ續起スベキ恢復ニ伴フテ吾人ノ所謂濕疹ノ終結ヲ告グルモノトス
 特發性濕疹ハ巴豆油ノ如キ劇性ニシテ腐蝕性ナル物質ノ爲メニ發ス
 ル人工的皮膚炎トハ全ク相反シ必シモ常ニ此六期ヲ悉ク經過スルモ
 ノニアラスシテ六期ヲ悉ク經過スルヤ否ヤハ恰モ巴豆油ニ因スル人
 工的皮膚炎ノ場合ニ於ケルガ如ク状態ノ如何ニ關係スルモノトス即
 チ濕疹ヲ誘起スル元動力タル刺戟ノ強弱其他ノ刺戟ノ長短ニ由リテ
 其經過ヲ異ニスルナリ其他患者各箇ノ特質モ經過ノ作用ヲ判斷スル
 ノ標準トナスベシ故ニ刺戟ノ果シテ健全ナル人體ニ作用シタリヤ或
 ハ病體ニ及ボシタルヤヲ區別スルヲ甚タ必用ナリ又刺戟ニ對スル反
 應モ身體ノ部分ヲ異ニスルニ從ヒ同一ナラザルヲ忘ルベカラズ
 吾人ハアウスピッツニ倣ヒ濕疹トハ漿液性膿樣ノ滲出物ヲ包有スル皮
 膚ノ單純平面加答兒ナリト定義セント欲ス濕疹ハ粘膜ノ加答兒ニ類
 似セルモノナリト雖モ唯皮膚ノ固有ナル構造ノ結果トシテ其臨床實
 驗的現象自ラ粘膜ニ於ケルモノト異ナルノミ

既ニ前ニ述ヘタル六期ノ順序的經過ハ濕疹ノ急性形狀ニ固有ノモノ
 ナリトス慢性ノ形狀ヲ有スルモノニ至リテハ此定型ノ外ニ出ルモノ
 ニシテ其病勢増悪ハ發作ノ緩急變換ニ因ルモノトス濕疹ノ慢性ナル
 ヤ又急性ナルヤヲ診斷スルニハ其繼續期間ノ長短ノミニ據ルベカラ
 ズ何トナレバ急性濕疹モ亦數週間又ハ數月間繼續スルヲアレバナリ
 故ニ多クハ病勢進行中皮膚ニ遺殘セル變化ニ據リテ區別セントス抑
 モ慢性濕疹ハ其變化ヲ皮膚上ニ現出ス例ヘハ硬固ナル浸潤皸裂等ノ
 如シ急性濕疹モ亦徐徐ニ治ニ就クモノ多ク而モ一部治癒ノ狀ヲ呈シ
 又何等ノ原因ノ認ムベキナク乍チ病勢増悪ヲ來タシ更ニ減退シ治癒
 ノ狀ニ赴ク等其現象反復スルガ故ニ經過中自ラ皮膚ニ炎症進行ノ形
 跡ヲ殘留シ慢性濕疹ノ變化トハ全ク異レル急性濕疹特有ノ變化ヲ呈
 スルモノトス

症候 急性濕疹ノ症候ヲ約言スレバ次ノ如シ初メ皮膚面ニ著シク潮
 紅ヲ呈シ又屢々水腫樣ノ腫脹ヲ發シテ二十四乃至四十八時間内ニ於

テ小結節及水疱ヲ發現シ時ニ發熱スルヲアリ、時トシテ潮紅腫脹ナク直ニ水疱ヲ來タシ暫時ニシテ乾燥シ鱗屑ヲ結ヒ經過スルモノアリ、患者ハ通常耐ヘ難キ灼熱ト瘙癢ニ苦シメラレ特ニ夜間衾裏ニ於テ劇烈ヲ極ム、瘙癢ニ耐ヘズシテ之ヲ搔爬シ一時ノ快ヲ得ルモ直ニ自覺的症候ノ病勢増悪ヲ來タス、水疱ヲ爬スルヤ甚シク濕潤シ若シクハ漏血ヲ招ク而モ瘙癢止マズ睡眠ヲ妨碍シ其局全身ノ健康ヲ害スルニ至ル、

經過 濕疹ノ經過ハ一様ナラズ近接部位ニ蔓延シ或ハ反射的脈管變常ニヨリテ最近部位ヲ踰越シテ甚タ遠隔セル體部ヲ占領スルヲアリ、斯ノ如ク進行ハ往々一小局部ヨリ身體ノ各部ノミナラス汎ク全身ニ瀰蔓スルヲアルモノトス(急性全身濕疹)

疾患ノ局部ヲ分ケ吾人ハ先ツ頭髮部濕疹 *Eczema capillitii* ニ就テ述ベン

濕潤ノ結果トシテ毛髮錯綜シ、形成セル結痂ハ厚キ集積ヲ爲シ容易ニ剝離スベカラズ、他ノ身體部分ニ於ケルヨリモ慢性ニ移行シ易シ、集積厚クシテ鱗屑狀ニ結痂シ之ヲ剝離スレハ膿潰シ容易ニ出血スル面ヲ



頭髮部ノ鱗狀濕疹
Eczema squamosum Capillitii.

露ハスハ急性症狀ノ特質トス、疾患ノ永續スル結果トシテ近接セル淋
巴腺(頰、後頭部、頸部等)屢々著シク腫脹シテ化膿スルニ至ルヲアリ毛
髮ハ慢性濕疹ノ爲メニ發育ヲ妨ケラル、トナシト雖モ疾患久シキニ
涉ルキハ脱落スルヲ常トス然レモ此脱落ハ固ヨリ永續的ノモノニア
ラス、慢性頭部濕疹ノ原因トシテ最モ多キヲ虱トス、殊ニ小兒ニ於テ頭
部濕疹ヲ發シタルキハ常ニ頭虱ノ有無ニ注意セサルヘカラス時トシ
テ數月間腫脹ヲ有スルハ腺病性濕疹ナリト思考シタルニ後ニ至リ
テ頭虱タルヲ發覺スル場合少シトセズ而シテ之ニヨリテ治療上奏
功ノ方針ヲ獲ルヲ言フ俟タザルナリ、虱及其卵ノ存否ハ容易ニ識別シ
得ベシ此毒蟲頭部ニ存在スル間ハ瘙癢ニ耐ヘザルガ爲メ患者自ラ之
ヲ搔爬シ之ニ由テ濕疹發生スルモノトス。

料髮病 *Plica polonica (weichselzopf)* ハ久シク誤認セル頭虱ノ原因ニ濕疹ト共ニ發
生スル場合ヲ最多トス料髮病ノ病因學上、吾人ハ今日此疾患ノ原因トシテ
特ニ一定ノ發病素(チケノン菌等)ノ存スルモノニアラザルヲ了知スルニ
至レリ然ラハ料髮病ハ如何ニシテ發生スルヤ蓋シ此異常ハ各個人ノ不潔

若シクハ迷信ヨリ故意ニ毛髮播生ヲ忘レルニ因ルモノトス不潔物ニヨリテ人工的ニ濕疹ノ度高メラル、キハ頭風ハ互ニ相集リテ頭部ニ畸形ノ集積ヲ生スルニ至ルモノナリ、從來或ル地方「ワイヒセル河畔「ポーレン」「ポーセン」等ニ於テハ重症ナル内科病ニ罹レルキ之ヲ轉向セントノ迷信ヨリ人工的ニ此外部ノ疾患ヲ發生セシメタリヨ「セフ」ハ此ニ肝臟病ヲ治スル目的ヲ以テ料髮病ヲ發セシメタル露國ノ一婦人ヲ診察セリ當時氏ハ剪刀ヲ以テ裁却セルニ錯綜セル毛髮中ニ虱ノ一塊ヲ發見セリ之レニ伴ヘル頭部濕疹モ後ノ規則ニ從テ治療シ得タリキ、方今料髮病ニ接スルノ機會ハ甚々稀レナリトス之レ蓋シ此種ノ下等社會ニモ開明ノ普及シタル餘澤ナルヘシ

次ニ説明スヘキモノヲ**顔面濕疹** *Eczeema faciei* トス、此濕疹ハ顔面ニ原發スルヲ以テ最モ普通トスト雖モ或ハ反射的脈管變常ニヨリテ他ノ部分ヨリ傳發スルヲアリ、經過ハ多ク急性ナリトス、急性顔面濕疹ハ之ヲ**顔面丹毒ト混同セザルヲ要ス**、乳兒ノ顔面ニ發生スル濕疹ハ多ク慢性ニシテ好ンデ其位置ヲ頰額及ヒ耳部ニ占メ、小膿疱期或ハ鱗屑期ニ在ルモノ極メテ多ク而シテ乳樣痂 *crusta lactea* ヲ呈スルモノトス

慢性濕疹ノ一形狀ニシテ多ク壯年者殊ニ鼻粘膜ニ發生スルモノアリ

此濕疹ハ多ク慢性鼻加答兒ニ併發シテ一般腺病ノ多數症候中其一ヲ形成スルモノトス之ニ關スル病因學ハヘルツツクノ統計ノ示セルガ如ク其治療ニ對シテハ甚々必要ナルモノトス即チ氏ハ慢性鼻加答兒ニ罹レル四百人ノ患者中三十人(殆ント七、五%)ハ鼻粘膜ニ濕疹ヲ有スルヲ發見セリ、此慢性濕疹ト屢々併發スルモノヲ再發性丹毒トス又顔面濕疹ハ鬚瘡ト併發スルヲ稀ナラズ即チ鬚瘡樣濕疹 *Eczeema sycosiforme* トス軀幹ニ於テ往々全身濕疹ノ一部現象トモ見做スヘキ濕疹ヲ目撃スルヲアリ(**軀幹濕疹** *Eczeema trunci*) 殊ニ劇痛ヲ發スルモノヲ產婦及乳母ノ慢性乳房濕疹トス何トナレハ乳嘴ニ存スル裂瘡哺乳ノ爲メニ毎常刺戟ヲ受クレハナリ又之カ爲メ屢乳房炎ノ原因ヲナスヲアルモノトス

陰阜、陰部及上腿ノ觸接部ニ灰白軟膏ノ使用後屢々**汞毒性濕疹** *Eczeema mercuriale* ヲ發生スルヲアリ

臍濕疹 *Eczeema umbilici* ハ皮脂腺分泌物ノ分解ノ結果トシテ殊ニ肥滿家

ニ發ス
 肛門及陰部濕疹。Eczema ani et genitaliumハ耐ヘ難キ癢痒アリテ常ニ糖尿
 病ヨリ起因スルモノ多シ蓋シ糖尿病患者ハ或ル一種ノ刺戟ニヨリ皮
 膚炎症ヲ誘起スルモノナルベシ
 特種ノ業務ハ其局所作用ノ原因ニヨリテ上肢ニ急性濕疹ヲ發スルノ
 媒介ヲナスモノトス、凍瘡ノ爲メ「テレピン」油洗滌應用後克ク手及前膊
 ニ皮膚炎ヲ發ス、カボジトハ手足ニ發汗多キ者ハ往々急性膿疱濕疹ヲ
 發スルモノナルヲ唱ヘタリ
 實際上甚タ必要ナルモノハ工業者ニ發生スル手及前膊ノ慢性濕疹(職
 業的濕疹。Gewerbe-Eczemeトス、外來ノ有害ナル結果トシテ皮膚漸ク鬆粗
 トナリ手ニ浮爛ヲ來タスキハ原狀回復ハ已ニ望ムヘカラザルモノト
 ス而シテ屢々發スル急性ナル襲撃ニ伴ヒテ組織中ニ解剖的變化ヲ生ス、
 輕症ハ只々紅斑性、小疱性或ハ膿疱性或ハ鱗屑性濕疹ヲ見ルノミ、重症
 ニ於テハ皮膚硬變シ皸裂甚シク表皮ニ裂瘡ヲ來タス此狀態ハ久シク

水中ニ手ヲ入ル、ト及之レニ伴フ表皮ノ侵漬ニヨリテ誘起セララル、
 モノトス勞働ノ性質ニヨリテハ疾患ハ上肢ノ各部ニ限局セララル、者
 ナリト雖モ普通手及前膊ヲ侵カスヲ最多トス、慢性濕疹ニ伴ヒテ屢々
 手部ニ胼胝形成即チ胼胝性濕疹。Eczema tylosicumヲ發スルヲアリ、此部
 位ニ於ケル皮膚ハ手ノ運動尋常ニ伸縮セザルガ故ニ容易ニ裂溝ヲ生
 スルナリ(裂瘡濕疹。Ecz. rhagadiforme)此種ノ濕疹ニ罹リ易キモノハ洗濯
 婦、泥工、電氣工、家具、洗淨工、鍍金匠等ナリトス
 レロイルハ麻紡績場ノ職工ニ付テ此疾患ノ左右均等ニ双手ニ發生
 セルヲ發見セリ、而シテ左手ハ右手ニ比スレハ劇甚ニシテ拇指ノ内
 面、示指ノ外面及掌面ハ殊ニ劇症ナリシト云フ
 プラシニコハ電氣工ニ付テ指及手ノ背面及腕關節、時トシテ肘ヲ侵
 セルモノアルヲ目撃セリ、
 爪甲ハ慢性濕疹ニ侵サル、ト稀ニシテ、疾患他部ニ於テ永續シタル後
 ニ至リテ始メテ爪甲皸裂ヲ呈シ營養障害ノ結果トシテ剝脫スルニ至

ル、然レモ慢性疾患ノ全治スルト共ニ再ヒ新爪ヲ生スルモノトス脱落膜濕疹ト固有ノ爪濕疹トノ別アリ (Perionychiales, eigentliche unguale Fezern) 腋窩、鼠蹊部、乳房下部ノ如キ兩側皮膚面、互ニ相觸ル、部位之ヲ約言スレハ汗液及皮脂腺ノ分泌物分解ニ機會ヲ與フベキ部位ハ悉ク濕疹ノ素因ヲ有スルモノトス、此症狀ヲ糜爛性濕疹 (Fic. intertigo) ト名ク、小兒ニ付テハ此症狀ヲ臀部及鼠蹊部ニ見ル、多シ之レ尿及糞便ノ皮膚ヲ刺戟スレハナリ又肥滿セル人ニハ此糜爛屢々發現スルモノトス 下肢ノ濕疹ハ殊ニ慢性ノ經過ヲトルモノトス、此部位ニ生シタル鬱血ノ結果トシテ炎症現象其度ヲ高メ、脈管ノ疾病加ハル、アレハ一方ニ於テハ組織肥大及象皮症、又他方ニ於テハ潰瘍性溶崩及下腿糜爛ヲ來タス、アリトス

以上述ヘタル所ヲ約言スレハ濕疹トハ多形性ノ皮膚病ニシテ潮紅及種々ノ發疹ニ始マリ、或ハ急性ニ經過シ或ハ慢性トナリテ熱ノ緩解及増進ヲ以テ變換スル期 (stadium) ヲ經過シ、多ク搔痒ノ伴フモノナリト

ス濕疹ハ皮膚病中最其多數ヲ占ムルモノニシテ、年齢ニヨリテ著シキ差異ヲ生シ、一歳ニ於テハ其發現甚タ頻繁ナルニ、二歳及其以上ニ達スレハ漸次減少ス、中年ニ至レハ種々ノ外來ノ有害若シクハ業務ノ爲メニ機會ヲ與フルガ故ニ其數少シク昇ルト雖モ之レヨリ以上ノ年齢ニ達スレハ再ヒ漸次減少スルニ至ル

斯ノ如ク幼時ノ發疹夥多ナル理由ハ蓋シ其表皮薄弱ニシテ乳嘴體及脈管網ノ上部ハ成人ノ皮膚ニ比較スレハ質性充血強ク、皮脂腺分泌過多ナルニ因ルモノナリ、(シツフ等) 入浴過度モ亦恐ラクハ疾患ノ機會トナルモノナルベシ、然ラハ古代ノ風習ニ遡リテ浴後毎常軟膏ヲ用ユルハ乳兒及小兒ノ濕疹ハ自ラ減スルニ至ルベシト云フ者アリ

ブロッグハ濕疹ノ數ヲ計算シテ(梅毒ヲ除ク) 全皮膚病數ノ四十八%ヲ得タルニアルクレイハ單ニ二十四%乃至三十一%ニ過キザル、チ發見セリ、ヨルセフハ皮膚病患者千百三十七人中(凡テ梅毒性ノ疾患ヲ除ク) 濕疹患者三百九十九人即チ三十五%ヲ目撃セリト云フ

剖檢 急性濕疹ニ干スル解剖的ノ状態ハレロイルニ從ヘハ乳嘴體血管ノ著シキ擴張、無數ノ遊走細胞ヲ有スル粘液層ノ浸潤、表皮浮腫及エレイヂン及顆粒層ノ消失又ハ減少ニヨリテ示サル、如ク角質細胞ノ凝集力減少ニ由ル落屑傾向即チ之レナリ是レ吾人ガ粘膜加答兒ニ付テ發見スルト同一ノ解剖的標識ナリトス、真皮ニ於ケル變化ハ比較的僅少ニシテ元來水腫様ノ充血トナルヲ以テ其特質トス

濕潤甚シキ全身濕疹ニ付テハ蛋白質間斷ナク皮膚ヨリ消亡スル結果トシテ血漿ニ蛋白質ノ缺乏ヲ生スルヲアリ(シムレジンゲル)

慢性濕疹ノ場合ニ於テハ先ツ新ニ結締織ヲ形成シタル後、皮脂腺及汗腺ノ萎縮ト共ニ結締組織ノ萎縮ヲ惹起ス、モノトス

原因 濕疹ノ研究ハ甚タ重要ナリトス何トナレハ之ニヨリテ管ニ疾患ノ再發ヲ防キ得ルノミナラズ治療上ニ大關係ヲ及ボスヲアレハナリ

吾人ハ濕疹ヲ大別シテ原發性濕疹及症候的濕疹トナサント欲ス原發

性濕疹ハ局所的原因、外來的危害因ニヨリテ生シ、廣義的ニハ即チ人工的濕疹トモ稱スベキモノナリ例ヘハ巴豆油ニヨリテ發生セル濕疹ヲ以テ此人工的濕疹ノ模範ト見做スベキヲハ吾人ノ已ニ前述セル所ナリトス。之ニ類似セルモノハ夫ノ藥劑ニヨリテ發生セル濕疹ナリトス、此關係ニ於テ人ノ最モ能ク知レルモノハ灰白軟膏使用後ニ發スル汞毒性濕疹ナリ、此種類ニ屬スベキモノヲ綠石鹼(Sapo viridis)ノ使用ニヨリテ發スル濕疹トス、醫師ノ防腐劑トシテ使用スル種々ノ物質中濕疹ヲ誘導スルモノヲ舉クレハ石炭酸、沃度、ホルム、クレオリン等ナリトス、終リニ此ニ屬スベキモノヲ職業的濕疹トス該濕疹ノ或ル特種ノ執業者ニ發生スルヲ等ハ已ニ前ニ述ヘタル所ナルヲ以テ今此ニ贅セズ

其他尙ホ病因ト見做スヘキモノヲ温熱ノ刺戟作用(温熱濕疹 Ecz. Caloricum) 及日光作用(日光濕疹 Ecz. solare)トス、後ノ場合ニ於ケル疾患ハ營ニ太陽ノ高熱ニヨリテ發スルノミナラス又光線ノ作用、化學的作用ニヨリテ發スルモノナルベシ故ニ日光作用劇甚ナルカ若シクハ皮膚ノ感

覺特ニ銳敏ナルキハ水泡モ多量ノ滲出物ヲ包有スルニ至ルヲ以テ、從テ水泡様濕疹ノ發生スルヲアルモ敢テ恠ムニ足ラザルベシ故ニフツチンソンノ如ク夏、日、痒疹 (Sommerprurig) トイフ特稱ヲ設クルノ必要ナキモノトス、又同種ノモノトシテ之ニ配列スベキモノヲ電氣ノ刺戟ニヨリテ生スル電氣紅斑 (Erythema photoelectricum) トス(ハンメル)

温熱濕疹ハ其初期トシテ紅色基礎上ニ透明ナル内容物ヲ有スル水泡(紅)色粟粒疹 (Miliaria rubra) ヲ現出スルヲアリ其内容物不透明ナルキハ白粟粒疹 (Miliaria alba) ト稱ス、此等ノ發疹ハ劇甚ノ發汗ニ際シテ發生シ而シテ之レヨリ直接ニ濕潤性濕疹 (Iczema madidans) ヲ發生スルヲアリ、從來俗ニ汗疹 (Sudamina) ト稱スル皮膚發疹ハ此粟粒疹ノ謂タルニ過キズ、之レト全ク異殊ノ發疹ニ鮮明ナル圓狀若シクハ卵狀ノ水泡ヨリ成テ身體ノ大部分ニ散在スルモノアリ之ヲ結晶粟粒疹 (Miliaria crystallina) ト稱ス此粟粒疹ハ發汗饒多ナル熱性全身病ニ罹リタルキ汗液ノ溜滯スル結果トシテ生スルモノトス

癬腫、沃度ニヨリテ發セシ皮膚炎即チ沃度皮膚炎、及爾他皮膚炎症ノ進行ニ伴ヒテ急性濕疹ノ發生スルヲアリ、寄生生物及其他ノ外來刺戟ノ爲メニ患者之ヲ搔爬スルニヨリテ更ニ濕疹ヲ發スルヲアリ又時トシテ此濕疹部ニ離レテ遠ク新濕疹特發スルヲアリ是レ此濕疹ハ寄生生物タル性質ヲ證明スルモノナリト、此種ノ推測ハ一理アルモノ、如シト雖モ未タ以テ十分ノ根據ヲ有スルモノトスルヲ能ハス濕疹ニ罹リタル面ヨリ他ノ遠隔セル面ノ侵サル、場合ニ於テハ或ハ寄生生物ノ理論ニヨリテ病毒健全皮膚ニ移植セルモノナリト推測スルヲ得ン然リト雖モ此問題タルヤ病理學上或ル一定ノ刺戟物ノ發見セララル、ニアラザレハ又斷定シ得ザルモノナリトス

右ニ列舉セル特發性濕疹ハ其場合中最多數ヲ占ムルモノトス

症候的濕疹ニ付テハ吾輩ハ例ヘハ消化不良、糖尿病等ノ如キ一般内科的疾患ヲ以テ其原因ト見做ス故ニ此場合ニ於テハ濕疹ハ内部疾患ノ附屬現象タルニ過キズ之レ症候ノ意義ヲ有スル所以ナリトス、故ニ貧

血性ノ婦人殊ニ子宮病ニ罹レル病歴アル婦人等ハ此種ノ症候的濕疹ノ發生スルヲ多シブルクレーノ如キ二三ノ學者ハ濕疹ヲ以テ體質ノ疾患ナリト認メタリ、喘息ト濕疹トノ併發ハ偶然ノモノニ屬ス、一般ニ症候的濕疹ハ其發現甚々稀ナルモノトス

濕疹ヲ説明スルニハ只々各種ノ身體部及局所ノ差異ニヨルノ外、其方法ヲ形成スベキモノナシ何トナレバ病因學上ノ原則ニヨリテ濕疹ヲ判定セント欲スルモ亦々積極的ノ報告ヲ缺ケバナリ

ウナハ多數ノ濕疹ヲ區別セント試ミタリ氏ハ小兒ニ附テ腺病性即チ結核性濕疹ト神經性生齒期濕疹ト云フヲ區別スベキトナ信セリ氏ノ說ニ從ハハ腺病性濕疹ハ外皮ヨリ移行シテ粘膜上即チ口、鼻、耳、眼等ニ其位地ヲ占ムルモノニシテ小膿疱疹ノ性質ナ有シ、屢々耳漏、鼻加答兒、腺腫脹ト錯雜シ痒痒殆ント全然缺乏スルモノトス之ニ反シテ神經性生齒期濕疹ハ多ク顔ノ中央及額ニ左右均等ニ發生シ、之ト同時ニ双方ノ手背及腕關節ノ橈骨面上ニ現ハル、チ殆ント常トス、痒痒甚シク、生齒ニ關係ナ有シ、二三ノ生齒穿破后、其痒痒消失ス、ブロックハケアチルノ病床實驗ニ據リ一歳ニ比シテ二歳ハ濕疹著シク減少スル者ナルヲ唱ヘタリト雖此之レ生齒ヲ以テ小兒濕疹ノ主因ナリトスルノ說ニ咄嗟スルモノト謂ハサルヘカラス而シテ大

體ヨリ見レハ濕疹ハ神經炎ノ基礎上ニ發育スルモノナリヤトイフ問題ハ未タ解釋シ能ハサルモノ、如シ何トナレハ吾人ハ未タ濕疹ト神經病トノ關係ニ付テ解剖的證明ヲ有セザレハナリマルカッキー及コロシアツチノ神經變性ニ關スル積極的說明ハエス、マイエルノ検査ノ爲メニ疑チ生スルニ至レリカボザーモ婦人ニハ妊娠中純然タル神經的濕疹發生スルモノナルヲ證明シタリ

診斷 濕疹ノ診斷ニ方リテ觀察スベキモノハ外表上疾患傳搬、廣狹、發

疹ノ性質及前述ノ病因學的要件トス若シ夫レ類症鑑別ニ至リテハ各種ノ疾患ニ付テ後ニ述フル所アラントス

豫後 ハ濕疹治療ノ點ニ關シテハ佳良ナリ但シ多數ノ場合ニ於テハ屢々再發シテ數週或ハ數月ノ久シキニ亘ルモノトス、

テンメーハ小兒ニ付テ濕疹ヨリ結核性、バチルスヲ誘導セル場合、エルセンベルヒハ濕潤性濕疹及膿疱性濕疹ニ膿毒症傳染病ノ併發セル場合ヲ報告セリ

療法 ハ醫師ノ注意ヲ頗ル必要トス吾人ハ次ニ濕疹治療ニ關スル必要ナル原則ヲ説述セント欲ス、蓋シ其療法ニハ一般ノ規則ヲ應用シ難

キ場合多ク而シテ醫師ノ手腕ヲ振ヒ得ル點ハ治療法ト之レヨリ生シタル作用トヲ斟酌スルニ在レハナリ

前文ニ於テ濕疹ノ症候ヲ説明ニスルニ方リ汎ク濕潤ヲ以テ始マリ速ニ現發スルモノアルヲ示シタリ此場合ニ於テハ之ヲ乾燥セシメンガ爲メニ前掲ノ撒布藥ヲ使用スルヲ最モ其目的ニ協ヘルモノトス而シテ濕疹乾燥セルキハ軟膏ヲ使用シ次ニ尙ホ充血ヲ減少シ角質ヲ催進センカ爲メニ釜兒劑ヲ施スベシ

急性濕疹ノ場合ニ於テ緊張感覺及疼痛感覺ヲ除去スル爲メニ最モ効力ヲ有スルモノヲ水トス故ニ沃度仿謨並ニ他ノ藥劑ニヨリテ發生セル濕疹ニシテ殊ニ手部ニ發シタルモノニ付テハ水ヲ用キルヲ可トス此場合ニ於テハ局所瞬時的温浴(クレウエット)ヲ用ユレハ搔痒ヲ止メテ良効アリ即チ患者瞬時間手ヲ温湯中ニ入ル、トナリ然レモ濕疹ノ状態ニヨリテハ有害作用ヲ惹起ス、トアルニ注意セザルヘカラス例ヘバ職業上水ニ觸ル、ト多キ患者即チ洗濯婦ノ如キ之レナリ最多數ノ場

合ニ於テハ又温暖ヲ遠ザケザルベカラズ殊ニ職業上火ニ近ツク人ヲ以テ然リトス一般ニハ第一期ニ於テ鉛糖水或ハ醋酸礬土十倍ノ水溶液或ハチモール等ノ褰法ヲ用キルヲ効アリトス

濕潤期ニ於ケル最良ノ方法ハ撒布藥ヲ用ユルニ在リ撒布藥ハ分泌物ヲ吸收スルヲ以テ濕潤スル間ハ切りニ撒布スルヲ必要トス而シテ撒布藥ヲ處セント欲スルキハ左ノ方ニ依ルベシ

處方 莖菜根末

二〇、〇

「ゲラニン」油

三滴

米澱粉

一〇〇、〇

之ニ反シテエンゲルハルドハ防腐性鉛性撒布藥ヲ賞用セリ

時トシテ撒布藥ノミヲ以テ全然効力ヲ奏スルモノアリ即チ小兒ノ癩瀾濕疹トス然レモ此場合ニ於テハ常ニ病原ニ注意シ、起シ易キ消化不良ヲ豫防セザルヘカラス又ブルハルトノ三%硝酸銀液ヲ以テ濕爛面ヲ腐蝕セシムルモ可ナリ但シ此液ノ上ニハ撒布藥ヲ撒布スルカ或ハ

中和軟膏ヲ塗擦スベシ
乾燥期ニ於ケル濕疹ノ療法ニハ通常中和軟膏ヲ用ユベク殊ニ

處方 軟布羅氏鉛軟膏

ヲ可ナリトス該軟膏ハ同量ノ單鉛軟膏及阿列布油ヨリ成ル腐敗セルモノハ有害ナルヲ勿論ナルヲ以テ其常ニ新鮮ナリヤ否ヤニ注意セザルヘカラス次ハ

處方 鉛糖ワゼリン軟膏(カボジ)

ヲ用ユルカ或ハゴルドマンノ近來ノ注意ニ從ヒテ「ラノリン」ヲ阿列布油ニ代用スルキハ腐敗シ難ク或ハ全ク腐敗セザルモノトス
尚ホ乾燥期ニ於テ賞用スベキ軟膏ハ

處方 硼酸

一〇〇

黃色華楸林

九〇〇

處方 「ウィルソン」軟膏

(酸化亞鉛 六〇

安息香末 一〇

豚脂 三〇〇)

塗膏セル部位ハ綳帶ヲ以テ覆フベシ但シ固キニ失セサルヲ要ス又綳帶ハ紐ヲ以テ縛スヘカラス何トナレバ之ヲ縛スルトキハ壓迫部ニ更ニ濕疹ヲ發生シ易ケレハナリ寧ロ安全針ヲ以テ之ヲ固定スルヲ可トス

斯ノ如キ固定法ハ軟膏ヲ患部ニ固着セシムルニ必要ナリトス小兒ノ濕疹殊ニ顔面ニ發シタルキハ軟膏ヲ固着セシムルヲ甚タ困難ナリ此場合ニ於テハウナーノ軟膏謨兒ヲ用キルヲ以テ最其目的ニ適ヘルモノトス(鉛軟膏謨兒或ハ酸化亞鉛軟膏謨兒ヲ可トス)謨兒布ニハ眼鼻口等ノ穴ヲ穿ツベシ又亞麻布假面ヲ同法ニヨリテ造リ之ヲ以テ謨兒ヲ覆ヒ而シテ紐ヲ以テ之ヲ後頭部ニ固定スベキモノトス四肢等ニ濕疹ノ瀰蔓シタル症ニハ謨兒ハ不適當ナルヲ以テ此場合ニ於テハ乾燥擦劑(ビツク)ヲ朝夕患部ニ塗布スルヲ最効アリトス後ニ至リテハ此擦劑ニ尙ホ五%單「カジニ」油ヲ混加スルモ可ナリ
吾人ハ已ニ一般治療法中ニ於テ軟膏使用ノ不便ヲ避ケントスルニハ

乾燥軟膏即チラッサー巴斯多ヲ用ユベキコトヲ述ヘタリ、此軟膏ノ作用ハ主トシテ外氣ヲ防ギ、患部ヲ乾燥セシムルニ在リ而シテ繃帶ヲ用キスシテ自ラ濕疹部ニ固着ス、一般ニハ二%撒里矢爾酸巴斯多ヲ用ユト雖モ此巴斯多ハ時トシテ急性濕疹ニハ甚シク刺戟ヲ與ルコトアルヲ以テ單純ナル亞鉛巴斯多ヲ使用スルヲ可トス或ハ五%硼酸巴斯多ヲ用ユ

處方 酸化亞鉛

各二五〇

澱粉

黃色華攝林

五〇〇

處方 硼酸

五〇

酸化亞鉛

各二二五

澱粉

黃色華攝林

五〇〇

巴斯多ヲ除去スルニハ石鹼劑ヲ用ヒズ油類例ヘバ阿列布油ヲ綿ニ浸タシ以テ徐々ニ之ヲ除却スベシ

此等ノ巴斯多ヲ貼用スルハ皮膚直ニ乾燥ス然ルニ多數ノ場合ニ於テハ甚シキ潮紅ヲ呈シ癢痒ノ繼續スルヲアリ斯ノ如キ場合ニハ亞鉛膠ヲ用キテ可ナリ

濕疹全治スルニ至ルマデハ多數ノ場合ニ於テ嬰兒使用ノ必要ヲ生スルモノトス然ルニ皮膚濕潤性或ハ炎症性ナルキハ之ヲ用ユベカラズ、一般ニ嬰兒ヲ使用スルニハ大ニ注意ヲ要ス何トナレハ全治ニ趣キツ、アル濕疹モ不注意ナル使用法ノ爲メニ更ニ急性炎症ヲ發セシムルヲアレハナリ此場合ニ於テハ又更ニ前述ノ處置ヲ取ルベキヲ言フ俟タサルナリ

先ツ始メ弱キ嬰兒軟膏ヲ使用スベシ

處方 純加質奴油

五〇

黃色華攝林

二〇〇

之ヲ以テ日々二回患部ニ塗布ス又酸化亞鉛四〇〇白色「グラチン」グリセリン各二五〇水一一〇〇尤佳ナリ二三日後幾分ノ強キ嬰兒軟膏ヲ使用スベシ

處方 純加實奴油

七、五

黃色華攝林

二〇〇

後ニハ純粹ナル嬰兒即チ純加實奴油ヲ使用ス即チ之ヲ以テ日々二回濕疹部ニ塗布シ撒布藥ヲ施スヲ要ス刺戟ヲ避ケンガ爲メニ撒布藥上ニ前ニ掲ケタル中和軟膏中ノ一ヲ塗布スルヲ可トス此嬰兒療法ハ急性濕疹ニ硬膏膜兒ヲ使用スルニ反シテ例ヘハ酸化亞鉛硬膏膜兒即チ三十五%酸化亞鉛十七、五%嬰兒逐次増進シ得ルノ長所アルモ硬膏膜兒ニ付テハ製造者ノ供與割合ニ尠少ナルノ不便アリ各箇ノ場合殊ニ苔癬狀濕疹ノ場合ニ於テ吾人ハ左方ヲ用ユ

處方 加實奴丁幾

一〇〇〇

(左方ノ如シ)

(純)カヂニール油

二五〇

「エーテル」

酒精

各三七、五

「ラーヘンデル」油

一〇〇

或ハ劇甚ナル癢痒ニハ

處方 石炭酸

二、〇

酒精

九八、〇

ニヨリテ緩和シ後チ十分ニ撒布藥ヲ用キルヲ要ス此後ノ二箇ノ藥液ハ噴霧器ヲ用キルヲ可トス

吾人ハ嬰兒種類ノ油(「フアギー」油、「ルスチー」油)ヨリ「モ寧ロ」ガ「ガニール」油ヲ採ルモノナリ何トナレハ此油ハ他ノ油ノ如ク不快ノ臭氣ヲ發セズ且ツ乾燥迅速ナレバナリヘルグスマイメル石炭酸嬰兒ノ酒精溶液ヲ常用ス

癢痒全然止ミ發疹悉ク消失シタルハ皮膚ヲ軟化セシメ爲メニ中性軟膏ノ一ヲ用キ以テ急性濕疹ノ療法ヲ結了スルナリ急性濕疹ノ療法ハ右ニ述ヘタルガ如ク簡易ナリト雖モ慢性濕疹ニ至リテハ其治療聊カ困難ヲ感スルモノアリ左ニ其療法ヲ述ベント欲ス

先ッ頭部濕疹ニ付テハ最モ病因學上ノ要件タル頭虱ニ注意セザルベ
 カラス、第一ニ之ヲ除去スルノ目的ヲ以テ石油若シクハ昇汞千倍ノ洗
 滌ヲ行フ、卵ヲ驅除スルニハ世間汎ク行ハル、如ク醋ヲ以テ洗滌スル
 ヲ可トス或ハ第一着ニ昇汞醋(三百倍)ヲ以テ頭部ヲ洗淨スベシ、次ニ痂
 皮及結痂ハ油(阿列布油或ハ「ラツペー」油 Oleum Rapae) 中ニ飽和セル「フ
 ラチル」片ヲ以テ之ヲ溶解シ、后、毛筆ヲ以テ「ビート」及「ラツサー」ノ軟膏ヲ
 患部ニ塗布ス

處方 赤色硫化汞

一〇

昇華硫黃

二四〇

「ベルガモット」油

二十五滴

「ワゼリン」

一〇〇〇

右研和シテ軟膏トナシ一日二回塗布

濕疹ノ勢盛ナルキ殊ニ小兒ニ在テハ次ノ軟膏ヲ頭部ニ塗布スルモ可
 ナリ

處方 撒里矢爾酸

一〇

安息香丁酸

二〇

「ベルガモット」油

各一〇〇〇

黃色ワゼリン

右混和シテ軟膏トナシ一日二回塗布

多クハ毛髮ヲ除去セズシテ治療ノ目的ヲ達シ得ルモノトス
 慢性顔面濕疹ニハ亞鉛華巴斯多、亞鉛膠、及「グツタベルカ」護膜硬膏、護
 兒殊ニ硼酸若シクハ麥兒ト共ニ「ヲ用ユレハ効ヲ奏ス眼、臉、濕疹ニハ硼
 酸軟膏又ハ

處方 白降汞

〇、一

黃色華攝林

一〇〇

口角及鼻孔ニ裂瘡アルキニハ濕疹治療ヲ始ムル前ニ先ッ硝酸銀ヲ以
 テ之ヲ腐蝕スベシ、鼻口ノ濕疹ニハ同時ニ發生セル慢性鼻加答兒ヲ治
 療スルヲ怠ルヘカラズ最困難ナルモノハ手部ノ慢性職業的濕疹ノ

療法ナリ濕疹久シキニ亘リ皮膚乾燥シテ裂瘡ヲ生シ浸潤頑固ニナリタルキハ軟膏使用ヲ廢止シテ直ニ五乃至六%苛性加里ヲ以テ腐蝕スベシ(ヘブラ)此場合ニハ毛筆ヲ以テ好ク塗布スルヲ要ス、疼痛アルキハ暫時手ヲ冷水中ニ入ルベシ後療法ハ亞鉛巴斯多次テ釜兒巴斯多ヲ貼ス

處方 純加實奴油 一〇、〇乃至一五、〇

酸化亞鉛

各二〇、〇

澱粉

一〇〇、〇

黃色華攝林

終ニ單純釜兒ヲ塗布スルニ在リ、該當職業ニ於ケル繼續セル有害作用ヲ防止スレバ其治癒ハ久シキニ亘ラザルヲ常トス、故ニ就業中殊ニ夜間手ニ塗脂セシムルヲ可トス、手部ノ水泡性濕疹ノ場合ニ於テハ手ヲ殆ンド十分間昇汞浴(1:100)中ニ浸シ、後冷水中ニ於テ洗淨シテ中和軟膏ヲ塗布スルキハ其成績豫想外ニ佳良ナルヲアリ(カボデー)

限局性疥癬性濕疹及裂瘡濕疹ニハビツクノ撒里矢爾酸石鹼硬膏(五%)ヲ用ユレハ甚タ効アリ手掌及足蹠ノ限局性鱗屑狀濕疹ニハ釜兒硬膏謨兒ノ貼付ヲ以テ甚タ便宜ナリトス、四肢并ニ頸ノ慢性濕疹ニハ亞鉛膠ヲ使用ス、此亞鉛膠ニハ尙ホ釜兒ヲ混和スルモ可ナリ

處方 純加實奴油 一〇、〇

酸化亞鉛 三〇、〇

「ゲラチン」 四〇、〇

虞里設林 五〇、〇

蒸餾水 三〇、〇

慢性浸潤性濕疹殊ニ下肢ニ發生セルモノニハザールフェルドハ十二乃至十五%メントール軟膏ヲ常用ス、フビツシエルガ吾人ノ病床實驗ニ於テナシタル最近試驗ニ從ヒテ吾人ハ炭化油溶液ヲ採用ス、該液ハ石炭テールヨリ製セラレ其他尙ホ硫黃、鹿曹爾珍、並ニ撒里矢爾酸ヲ包含ス
乳房濕疹ノ原因ハ屢乳嘴ノ裂傷及潰爛ナルヲアリ、此場合ニ於テハ先ツ一日乃至三日ノ期限内ニ「ラービス」ヲ以テ裂傷又ハ潰爛ヲ腐蝕セシ

ムベシ或ハ

處方 昇汞

〇、一

「コロヂウム」

一〇、〇

ヲ以テスルモ可ナリ、又二%「コカイン」液ヲ切リニ塗布スルモ不可ナシ、
而シテ「デルマトール」ヲ散布シ大ニ其治癒ヲ早クス

臍陰囊及肛門ニ於テハ藥劑ノ用法困難ナリトス、吾輩ハ臍窩濕疹及肛
門濕疹ニハ「スプレ」ヲ以テ適當トス此等ノ部位ニ於ケル慢性乾燥濕
疹ニハ三乃至五%「アルコホール」鹵酸液ヲ該當部位ニ散布スルキハ甚
タ効アリ

劇甚ノ癢痒アル肛門濕疹ニハ陣痛坐藥トシテ左ノ方ヲ處ス

處方 「カ、ヲ」酪

一、五

酸化亞鉛

〇、一五

水製阿片越幾斯

〇、〇二

或ハ一%「コカイン」軟膏ヲ用キレハ疼痛ヲ減スルヲ得、此等ノ部位ニ於

ケル濕疹ノ原因ハ多ク痔疾ナルヲ以テ之ヲ治療スルヲ怠ルベカラ
ズ、此原因ニ基ケル濕疹ニハ「ウンナア」ハ「クリサロビン」ヲ賞用ス、

處方 「クリサロビン」

一、〇

黃色華攝林

一〇、〇

尤モ此場合ニ於テハ藥劑ノ爲メニ皮膚ノ變色スルヲ豫メ患者ニ注
意スルヲ要ス

肛門濕疹ノ重症ナル場合ニ於テハ前ニ掲ケタル五%苛性加里液ノ腐
蝕法ヲ取り次ニ亞鉛巴斯多若シクハ亞鉛膠ヲ以テ療法ヲ繼續スルヲ
要ス其癢痒アルモノニ對シテハ通利後三乃至五%石炭酸或ハ熱キ湯
ヲ以テ洗滌スルキハ甚タ効アリ

陰囊濕疹ノ場合ニハ散布藥及巴斯多ノ外尙ホ石鹼及軟膏若シクハ時
トシテ硬膏謨兒ヲ用キレハ奏功ス、裂瘡ノ伴ヘル慢性濕疹ニハ「硼酸硬
膏謨兒」ヲ用ユベシ、乾燥濕疹ノ場合ニ於テハ多脂性安息香石鹼「フェツシ
ホッフ」若クハ軟性酸化亞鉛石鹼「ブッチ」ヲ塗布スルヲ必要トス而シテ、

其搔痒ヲ止ムルニハ多脂性メントール石鹼ヲ以テ屢々洗滌センコトヲ命スベシ

或ハ、イロチオールヲ五乃至十%軟膏或ハ巴斯多トナシテ慢性濕疹ノ鱗屑期ノ治療ニ用ユルキハ甚々効アリトスルモノアリト雖モ吾人ハ其作用ニ向テ疑ナキ能ハス
小兒ノ鱗屑狀濕疹ニハザールフェルドハ左ノ軟膏ヲ使用ス

處方 白降汞 一、〇

百露拔爾撒謨 五、〇

ウキルソン氏軟膏 三〇、〇

又亞米利加ノ醫師ハ小兒ノ濕疹ニ次硝酸蒼鉛ヲ用キタルモノアリ

處方 次硝酸蒼鉛 一〇、〇

酸化亞鉛 二、〇

虞里設林 八、〇

黃色華攝林 三〇、〇

以上述ヘタル所ハ濕疹ノ局所療法中最重要ナリト思考スベキモノナ

リ、其他尙ホ吾人ハ常ニ全身機關ノ疾患ニ注目セザルベカラサルモノトス、腸管ノ機能不規則ナル肥滿患者ニハ吾人ハ局所療法ト共ニ浴療ヲ(マリエン浴)與ヘント欲ス、若シ消化不良ナルキハ(カル、ス)泉ヲ用ユルヲ可トス、婦人ノ下腹痛アル者ハ濕疹ト同時ニ之ヲ治療スルヲ要ス、乳兒ニ付テハ下痢ハ屢々濕疹ヲ誘發スルヲ以テ先ツ之ヲ治療セサルベカラス、腺病或ハ背椎炎アル者ニハ肝油及鱗ヲ使用スベク凡テ全身病ノ如ク日常攝生ヲ規則正シカラシメンコトヲ要ス
濕疹ノ内科治療ニハ砒石ヲ以テ最効アリトス、吾人ハ之ヲホーレルノ方ニ於テ使用ス

處方 ホーレル水 五、〇

薄荷水 二五、〇

右一日三回十滴ヲ與フ、一日殆ント九十滴ニ至ルマデ毎日一滴宛増加ス、

吸收ヲ佳良ナラシムル爲メニハリーベライヒノ説ニ從ヒ亞砒酸ヲ用

フ

處方 溶解亞砒酸

〇、五(一〇〇)

右一日三回十滴、二十滴迄日ニ一滴ヲ増ス

貧血性ノ人ニハ砒石ニ鐵劑ヲ混和スベシ

レウレオンハ「エルゴチン」ヲ濕疹ノ内服藥トシテ川井レニ吾人ハ効ナキモノト信ス

傳染性膿疱疹 Impetigo contagiosa

小膿疱疹 Impetigo トハ普通の症候タル膿疱ヲ言顯スノ語タルニ過キス已ニ前章ニ於テ述ベタルガ如ク濕疹ニモ小膿疱性濕疹アリ其他疥癬ノ結果トシテ小膿疱疹ノ發生スルコトアリ又虱ニモ小膿疱疹ノ伴フコト

アルカ故ニ吾人ハ各箇ノ場合ニ付テ膿疱ノ發生スベキ原病ニ溯リテ之ヲ鑑別スルコトニ力メサルベカラズト雖モ病原學上ノ要件ニ從ヒ膿疱ノ發生ヲ精細ニ推究シ之ヲ明ニスルハ此傳染性膿疱疹ハ他ノ原病ヨリ播種セラレタル症候ニアラザルコトヲ診斷シ得レモ多クハ偶發的症候ト見做スベキモノト謂ハザルベカラズ

症候的膿疱疹ノ例外トシテ獨立ノ疾患ト見做スヘキモノハ茲ニニアリ即チ其一ハ本章ニ於テ説述セル傳染性膿疱疹他ノ一ハ次章ニ於テ説述セントスル匂行性膿疱疹トス

傳染性膿疱疹ニ付テ精細ナル説明ヲナシタルハ千八百六十四年チルブリー、ブオックスヲ以テ嚆矢トナス

發疹ハ初期ニ於テ小斑點ヲナシテ發現シ小斑點直ニ増大シテ小水泡トナル、小胞ハ通常個々ニ孤立シ其各個ノモノハ著シク周圍ヨリ隆起スト雖モ時トシテ互ニ融合スルコトアリ、殊ニ顔面部ヲ然リトス、五六日ニシテ其大サ五、六センチニ達ス、尙ホ其以上ニ増大スルモノアリ

リ、中心ハ通常陥没シ(臍窩)水泡ノ内容ハ化膿シテ直ニ流出シ、二日乃至三日ノ後扁平ニシテ、乾燥セル黄色ノ痂皮ヲ形成ス、此痂皮ハ恰モ糊着セルモノ、如シ實ニ此疾患タルヤ表面上ノ疾患タルニ過キズ其輕症ノ場合ニ於テハ發疹ノ周圍ニ炎症面ダモ見ルヲナシ之レ診斷學上水痘ト區別スベキ重要ノ點ナリトス通常一二日ノ後痂皮剝落シテ該當部位ハ唯タ少シク潮紅ヲ呈シ僅カニ疾患ノ跟跡ヲ留ムルノミ、之ヨリ重症ノ場合ニ於テハ紅色帶ヲ呈シ痂皮剝落セル後微小ナル潰瘍形成ヲ見ルモノトス

此疾患ノ特色ハ主トシテ下等社會ノ小兒ニ流行性ニ發現スルニ在リ、尙ホ上等社會ニ於テモ發生スルヲアリト雖モ清潔法等ニヨリテ其蔓延直ニ防遏セラル、然レモ不思議ニモ榮養十分ナル小兒ヲ侵襲スルヲ多ク、又本病ノ傳染性即チ接觸傳染性ヲ有スルヲハ確實ニ證明シ得ル所ニシテ屢、一家内ノ小兒ヲシテ悉ク病苦ニ罹ラシムルヲアリ、フオツクスノ接種試驗ニ由リ此疾患ノ成人ニモ直接ニ傳染シ得ベキヲ毫モ

疑ヲ容ルヘカラザル所ナリ

本病ハ毫モ全身狀態ニ影響スルヲナシ患者不快ヲ感スルヲナク唯タ稀有ナル場合ニ於テ少シク衰弱倦怠ノ感及輕微ナル發熱ノ前驅症アルノミ、而シテ一日乃至二日ニシテ發疹スルモノトス

本病ハ顔面、頭部時トシテ手背ノ侵ナル、ヲアリ其他ノ體部モ亦罹病スルヲアリト雖モ稀有ノヲニ屬ス、粘膜殊ニ結膜及鼻ノ粘膜ニ發生スルヲモアリ、發疹一タビ發生スルキハ必ス他ノ部位ニ傳搬ス就中搔爬ニヨリテ播種スルヲ通常トス、自覺的苦痛ハ唯タ輕度ノ搔痒ニ止マルノミ、

本病ノ傳染性ヲ有スルヲハ其時トシテ流行性ニ發生スルニ由テ之ヲ證スヘシ歴史ニ徵スレバ千八百八十五年六月、リューゲン島ニ於テ種痘ニ伴ヒ本病發生シ流行チ極メタルヲアリ又該島ニ起リタル事實ニ據レハ六月九日ヨリ同十八日ニ至ル間即十日間種痘チ行ヒタルニ種痘部ノ附近ニ水泡發生シ直ニ豌豆大乃至蠶豆大ニ發育シテ此所彼所ニ融合シ遂ニ化癩セリトイフ事實アリ併發症ニ付テハ吾人ノ知ル處ニヨレハ、唯ミニユルレルガ再種

痘ニ伴ヒタル傳染性膿疱疹ノ場合ニ於テ急性出血性腎炎ノ併發セルトテ唱ヘタルノミ、而シテユーゲン島ニ於テ流行シタル時モ死亡者ヲ出シタルハ唯々一二僅少ニ過ギザリシト云フ、

種痘ニ使用セル動物淋巴液中並ニ水泡ノ内容中ニハ、ゲラチンヲ營養トシテ生殖スルモ微機生物ノ存スルトテ發見スルヲ得ルニ至レリ、此機生體ハ人體ノ皮膚ニ接種セラル、キハ天疱瘡類似ノ水泡ヲ發生スルモノトス又此機生體ハ、ゲラチンヲ溶解スルモノニシテ、之ヲ馬鈴薯ノ上ニ置クキハ發育シテ淡褐色又ハ暗褐色ノ聚落ヲ形成スルモノトス

ウシナールハ已ニ解剖上此疾患ヲ以テ天疱瘡ナリト認メタリ、ボントツピダシハ真性急性天疱瘡ナリトシ而シテクメド、フアーヤルハ初兒生天疱瘡ニ關係チ有スルモノナリト唱ヘタリ、蓋シ初生兒天疱瘡ハ之ヲ或人ニ移植スルキハ全然傳染性膿疱疹ノ外觀及經過ヲ取ルベケレバナリ、又他ノ學者ニシテ傳染性膿疱疹ハ之ヲ寄生性匂行疹ニ屬スル一症狀ト見做スベキモノナリトノ説ヲ探ルモノアリ、蓋シ本病ハ能ク此寄生性匂行疹ト誤診スルトアリ

吾人ハ上ニ述タル臨床實驗上ノ標準及經過ニ基キテ傳染性膿疱疹ハ獨立ノ疾患タルトテ確信ス

傳染性膿疱疹ト膿疱性濕疹トノ異レル處ハ濕疹ニハ本病ニ見ザルガ如キ巨大ノ水泡ヲ發スルトナク又各箇ノ膿疹集合シテ全面ヲ侵襲スルモ傳染性膿疱疹ノ場合ニ於テハ膿疱各自孤立シテ發生スルニ在リトス其他類症鑑別ニ至リテハ宜シク濕疹ニ關シテ述ヘタル標徵ニ就テ看ルベシ

豫後 ハ多クハ佳良ナリ

療法 ハ單簡ニシテ中性軟膏(硼酸軟膏、蒼鉛軟膏、亞鉛巴斯多)ヲ以テスレハ一二日ニシテ落痂シ數日ニシテ疾患全治ス

匂行性膿疱疹 *Impetigo herpeticiformis*

千八百七十二年ヘブラハ此名稱ヲ以テ輪狀ニ群生セル膿疱ニヨリテ形成セラレタル疾患ナリトセリ其後此疾患ニ付テ學者種々ノ説明ヲナシタリト雖モ晚近殊ニカボヂーニ至リテ匂行性膿疱疹ノ症候益明亮トナルニ至レリ

潮紅浸潤セル部分ニ粟粒大乃至豌豆大ノ表皮性膿疱發生ス此膿疱ハ輪狀ニ並列シ其周圍ニハ更ニ數層ノ環ヲナシテ輪廓狀ニ蔓延シ中心ニハ唯タ結痂ヲ見ルノミ疾患久シキニ亘リテ中央部ニハ痂皮ヲ結ブモ決シテ癩痕ヲ形成スルコトナク周圍ニハ更ニ新膿疱ヲ形成シテ之ヲ包圍ス膿疱ハ表皮剝脫性ノモノニシテ乳嘴體ヲ滅絶セシムルコトアラサレバ癩痕ヲ形成スルコトナシ重症ハ一般ニ謂フキハ中心治癒ニ趣クコトナク結痂剝落シテ肉芽ヲ形成セル面ヲ留ム此面ヨリ稀レニ乳嘴樣ノ隆起ヲ生スルコトアリ

旬行性膿疱疹ノ部位ハ此疾患ノ性質ヲ示スニ足ルベキモノニシテ通常進行ハ糜爛性濕疹ニ類似シテ陰部ノ邊及大腿ノ内側ニ始マルモノトス初發ノ場合ニ於テハ其進行ヲ糜爛性濕疹ナリト誤診スルコトナキヲ保スベカラズト雖モ惡寒戰慄發熱及時トシテ襲來スルコトアルベキ搖蕩痙攣ニヨリテ容易ナラサル症候タルコトヲ知り得ベシ其他初發ニ於テ殊ニ腋窩部臍部及乳房部ノ邊ニ部位ヲ占ムルニヨリテ本病タ

ルコトヲ診斷シ得ベシ本病ハ全身ニ蔓延シ口喉頭腔及直腸ノ粘膜ヲ犯スコトアリ時トシテ前掲ノ他ノ部位例ヘハ粘膜ニ始マルコトアリ蔓延性ナラザルキハ發熱スルコトナキモノトス

診斷 ハ膿疱ノ發生ニ着目シテ其旬行性ニ蔓延セルコト他ノ種類ノ特

發皮膚疹ノ發生ナキコトニ據ルベシ從來此疾患ハ唯タ妊娠及產褥中ニノミ發現スベキモノナリトノ一點ヲ以テ甚タ重要ナリトシ又之ニ由テノミ鑑別シ得ベキモノトナシタリト雖モメスチル及マルックスカ妊娠セサル婦人ニ付テ旬行性膿疱疹ヲ診察シカボデー並ニバタキーガ男子ニ付テモ之ヲ目撃シタル以來右ノ本則ハ打破セラレトナレリ

類症鑑別 特ニ觀察スベキモノヲ輪廓狀天疱瘡及紅彩樣旬行疹トス甲症ノ場合ニ於テハ始メ水泡發生ス之ニ反シテ傳染性膿疱疹ノ場合ニ於テハ通常唯膿疱發生シ後ニ膿疹ノ旬行ヲ反覆スルノミ其他天疱瘡ノ場合ニ於テハ水泡紅斑面上ニ發生ス傳染性膿疱疹ノ場合ニ於テモ亦紅斑發生スト雖モ此上ニ膿疹發育スルコトナク寧ロ他ノ膿疱性

疾患ノ併發症狀ト見做スベキモノトス、乙症即チ虹彩様匍行疹ノ場合ニ於テハ皮膚症ノ症候互ニ混同セルコトアルニ注意セザルヘカラス吾人ハ虹彩様疱疹ヲ以テ數形性紅斑ノ分症ト見做サント欲ス此場合ニ於テモ通常水泡發現スト雖モ膿疹發生スルコトナシ

原因 ハ未詳ナリ或ハ有毒性物質ハ其原因ニシテ之ニヨリテ膿疱ノ發生ヲ誘起スルモノナラントノ說ヲ唱フル者アリ、此說ニ基キテノイマンハ膿毒症匍行疹ナル名稱ヲ用ユベキコトヲ主張セリト雖モ此說ニハ未タ十分ノ根據ナキモノ、如シ又或ハ化膿性腹膜炎又ハ子宮内外膜炎ト關係アル者ナリト云フ人アリト雖モ是レ亦皮膚病トノ連絡ニ付テ明亮ナル解説ヲ缺クモノト謂ハザルベカラズ兎ニ角吾人ノ屢目撃セル全身知覺過敏、發疹ノ左右同形ナルコト、頭痛、譫語、心悸亢進及過度ノ發汗ハ神經系統ノ疾患タルコトヲ證スルニ足ルモノト謂ハザルベカラス

豫後 甚タ不良ナリ何トナレハ最多數ノ場合ニ於テ三乃至四週ノ繼

續後、患者遂ニ斃ル、ヲ常トス、治癒ヲ見ルハ唯タ僅少ノ場合タルニ過ギズ而モ疾患二三ヶ月ノ久シキニ亘ルモノトス

療法 ハ只對症療法ノミ規尼涅ヲ處スルノ外尙ホ防腐繻帶若シクハ持續的水浴ヲ用ユルヲ可トス

鱗屑癬 乾癬 Psoriasis

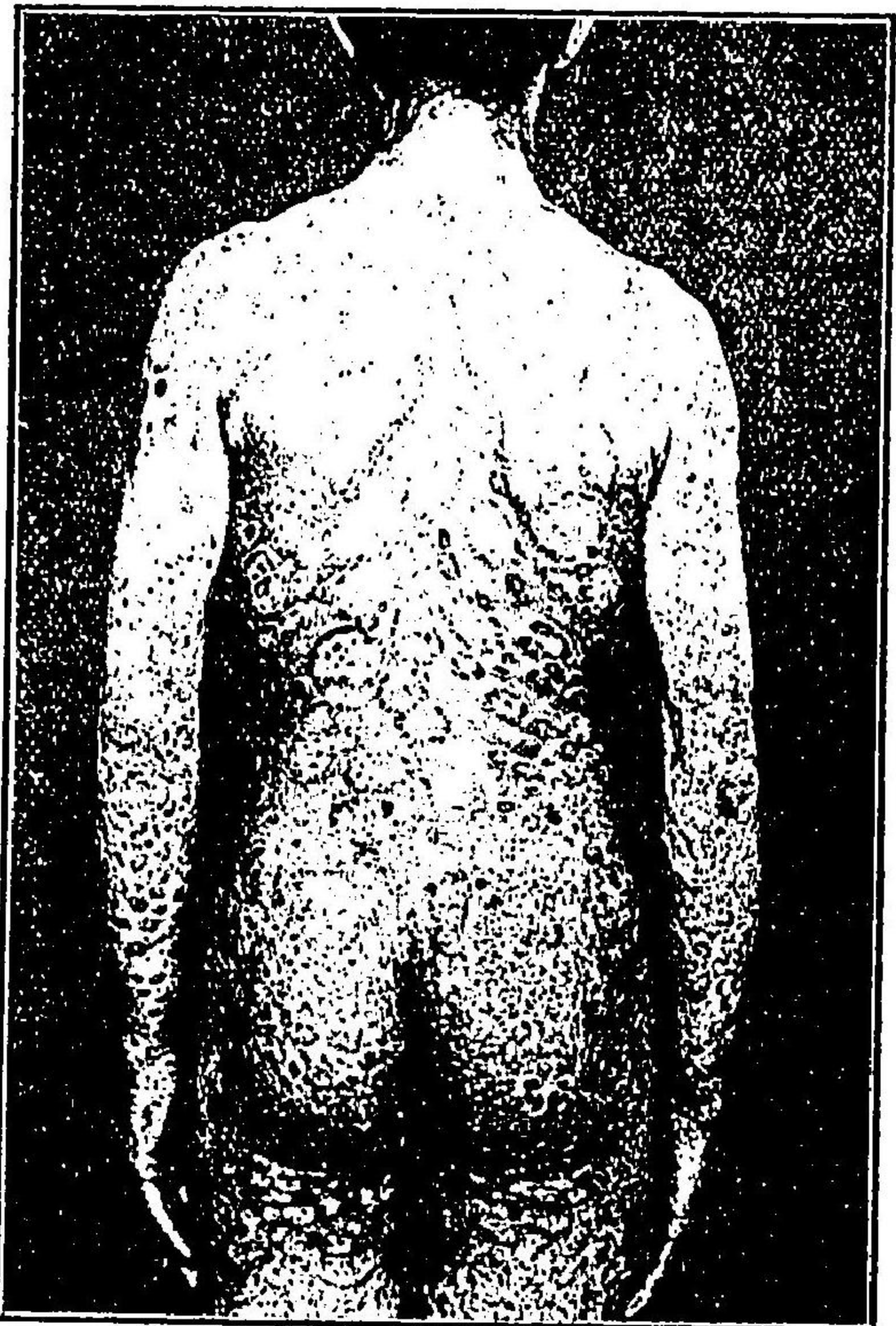
乾癬ハ皮膚上ニ最小丘疹即チ帽針頭大、時トシテ之ヨリ大ナル圓板形ノ暗紅色斑點又ハ小結節發生シ、暫時ニシテ類白色後チ銀白色ノ鱗屑之ヲ覆フ、久シク持續スルキハ鱗屑劃然限界セル紅色基礎上ニ累積ス、鱗屑ヲ剝離スレバ皮膚面ニ小出血點ヲ露ハス之レ蓋シ乳嘴體ノ充血性脈管ヨリ小許ノ血滴分泌セラレ、モノナルベシ此症候ハ乾癬ノ診斷ニ甚タ重要ナリトス

乾癬ノ基礎ヲ形成スルモノヲ初期發疹トス然レモ發疹ハ種々ノ状態ニ於テ皮膚上ニ蔓延スルニヨリ從テ夥多ノ臨床實驗上ノ形態ヲナス

發疹小點狀若シクハ點滴狀ナルモノヲ點狀乾癬 Psoriasis Punctata 若シクハ滴狀乾癬 Psoriasis guttata ト稱ス而シテ鱗屑ヲ有スル許多ノ斑點相集リテ一大圓板トナルヲ通常トス而シテ一圓銀貨大若シクハ之ヨリ大ナル者ヲ貨幣狀乾癬 Ps. nummularis ト名ケ此圓板ノ中心部已ニ治癒スルモ周圍部進行ヲ持續スルキハ之ヲ環狀乾癬 Ps. annularis ト稱ス而シテ此種ノ環數箇互ニ融合スルキハ之ヲ紆廻狀乾癬 Ps. gyrata ト云フ又稀レニ此ノ如キ鱗屑集積ノ多數湊合シテ地圖ニ似タル形ヲナスモノアリ之ヲ地圖狀乾癬 Ps. figurata u. geographica ト名ク時トシテ病機重症ニシテ全身ニ蔓延スルヲアリ之ヲ全身乾癬 Ps. universalis トス以上述タルガ如ク此疾患ノ臨床實驗的現象ハ千差万別ナリト雖モ其初期發疹ニ至リテハ前述ノ外ニ出デズ

部位 乾癬ハ好テ其部位ヲ肘關節及膝關節ノ伸展側面ニ占ム此部位ニハ時トノ數年來持續セル厚キ鱗屑集積ヲ見ルヲアリ而シテ之ヲ剝離スレハ又小點狀ノ血滴乳嘴脈管ヨリ發生ス乾癬ナリヤ否ヤニ疑アル

キハ肘及膝關節ヲ檢査スルヲ怠ルベカラス汎ク一般ヨリ見レハ乾癬發疹ハ四肢ノ屈曲面ヨリモ寧ロ伸展側面ニ發生ス之レ梅毒性乾癬 Psoriasis syphilitica ト反對スル處ニノ梅毒性乳疹ハ屈曲面ヲ犯スヲ多シ然レモ此診則ハ固ヨリ破格ナキニアラス即チ尋常乾癬 Psoriasis vulgaris



第七圖

ハ屈曲面又ハ手掌若シクハ足蹠ニ部位ヲ占ムルヲモアリ之レ乾癬ニ付テハ部位ヨリモ寧ロ初期發疹ノ臨床實驗的

特徴ニ重キヲ置カザルベカラザル所以ナリ
 又他ノ身體部モ侵サル、トアリ、軀幹部ノ外向ホ屢陰莖及頭髮部ニ發見ス生毛部乾癬ノ場合ニ於テ疾患久シキニ亘レバ脫毛ヲ惹起スコトアリトス、爪甲モ亦侵サル、トアリ其時ハ爪質ノ涸燥、渾濁、脆碎性トナル或ハ已ニ久シク他ノ體部ニ持續シタル後、爪甲ノ侵サル、ニ至ル者アリ或ハ爪甲ノ始メヨリ侵サル、トアリ一般ニ此ノ場合ニ於テハ他ノ部ニ於ケル症候ノ存否ニ依リテ之ヲ診斷セザルベカラズシユツツハ特發爪甲疾患ト續發性爪甲疾患トヲ區別シ一ヲ爪甲胚素ノ乾癬ナリトシ一ヲ爪床中ニ起リタル乾癬ノ結果トシテ發生シタル爪板ノ疾患ナリト認メタルヲ實ニ穩當ナリト謂フベシ、前者ハ一ノ初發症候ニシテ多數ノ紅色小點爪甲ノ半月部ニ發現シ、後チ爪板ニ斑點ヲ生スルモノトス、之ニ反シテ爪甲ノ續發性疾患、涸濁、縱橫ノ隆線、硬化、脆弱ハ爪縁ノ兩端ニ在ル皮膚ニ始マリ、後チ新病竈中心ニ向ヒテ爪床中ニ發現シ爪端ニ於テハ黃色角樣ニシテ後チ乾酪樣トナルベキ碎片樣ノ皮膚

及爪甲硬化ヲ形成ス、此硬化ハ後方并ニ爪甲ノ中線ニ向ヒテ漸次蔓延スベキモノトス
 鱗屑癬ハ決シテ粘膜ニ發生スルヲナシ、或ハ誤テ頰部ノ乾癬 *Psoriasis buccalis* ナリト見做スベキモノアリト雖、凡之レ尋常乾癬ト毫モ關係ヲ有セザルモノニシテ寧ろ之ヲ頰部ノ白斑 *Leukoplakia buccalis* ト稱スルヲ以テ穩當トセンニール、ニ從ヘバ龜頭及包皮ノ内面ニハ發生スル「稀レナラズト云ヘリ此龜頭包皮癬ハ赤色ナル固着セル限界劃然タル斑點ヲ有シ殆ント鱗屑ヲ缺クモノトス、患者ハ苦痛ヲ感スルヲナク進行ハ通例癢痒モナク炎症モナクシテ經過ス但シ時トシテ此等ノ症候ヲ呈スルヲアルヲ保スベカラス自覺症ハ通例僅微ニシテ唯較々其急性ニ發疹スルルニ於テ新鮮ナル皮膚上僅カニ癢痒ヲ起スニ過ギズ全身乾癬ノ場合ニ於テハ患者病苦ニ艱ムヲアリ何トナレバ一般ノ苦痛悉ク襲迫スベケレバナリ一日ニ落剝スル鱗屑ノ量ハ十五乃至三十瓦ニ達スベキモノトス、

解剖的検査

本病ノ本體ニ付テ今日ニ至ルマデ未ダ確然タル断定ヲ下シタル者アラズト雖モ之ニ關スル學說ヲ大別スレハ二派トナス
 一ヲ得、カボチーハ乳嚙體ニ關係スル炎症ナリト信シ、アウスビツハ「マ
 ルビギー」氏網叢ノ萌芽トシテ其本體ヲ説明セントシ從テ此疾患ヲ皮
 膚炎中ニ算入セリ然レモ乳嚙體ニ於ケル脈管變化ハ本病ノ特性タル
 モノ、如シクローマイエルノ所見ニヨレバ此乳嚙體變化ニ際シ無數
 ノ遊走細胞、上皮ヲ貫通シ、角質細胞異常ヲ呈シ爲メニ累積セル乾性鱗
 屑ノ發生スルモノトセリ

クラウコウハ從來検査セル「ケラチン」ト乾癬中ニ包含セル「ケラチン」トノ區
 別ヲ發見セリ後ノ場合ニ於ケル「ケラチン」ハ蛋白質ニ類似スト雖モ又他ノ
 一方ニ於テ「ケラチン」タル標目ヲ現ハスヲ以テ見レハ此中間體ハ之ヲ「ケ
 ラトアルブミン」ト稱スルヲ極當トセン

原因

未タ明瞭ナラズ、多數ノ場合ニ徵スレバ之ヲ遺傳ノ勢力ニ歸セ
 シメザルベカラズ、原因遺傳ナリトスルモ他ノ疾患ニ於ケルガ如ク家

族内ノ一人若シクハ二人此疾患ニ罹リ他ハ健全ナルヲ得、假令其數子
 ノ内ノ或者或ハ他者此疾患ヲ遺傳スルモノナリトスルモ乾癬患者タ
 ル父ノ子ハ悉ク又之ニ罹ルモノトスベカラス、強壯ナル青年ノ之ニ侵
 サル、一多キハ奇ト謂フベシ

或ハ此發疹ノ屢對側的(左右均等)ニ發現スルヲ見テ神經疾患ノ理論ヲ
 以テ之ヲ説明セント試ミタル者アリト雖モ左右均等ノ一事ヲ以テ神
 經系統ニ連絡アルモノトナスベカラザルモノナリ然レモ又此原因上
 ノ所見ヲ以テ理由アリトスルニ足ルノ臨床的事實モ吾人ハ未タ之ヲ
 詳ニスル能ハザル所ナリトスケブ子ルノ發見ニ係ハル乾癬患者ノ皮
 膚ニ於ケル疵傷即チ外來ノ皮膚刺戟ニヨリテ其健全部位ニ乾癬ヲ發
 生セシメ得ベキ一ハ甚タ興味アル一ニ屬ス

乾癬ハ神經疾患ナリトノ意見ヲ採ル者ニハエンミングハウスノ報告ニ係
 ハル、恐怖發作ヲ以テ疾患ノ原因ナリトスルノ說ハ價值アルモノナルベシ
 ゲルハルドモ亦屢恐怖發作ヲ訴ヘタル患者ヲ目撃セリト云フフルシロン
 及ゲルハルドハ乾癬ト特種ノ、亞急性性ニシテ匍行復歸スベキ、畸形ナル關節

病トノ關係ヲ唱ヘタリ之レ亦神經疾患上ノ原因ヲ示シタルモノニ外ナラザルベシ此等ノ場合ニ於ケル乾癬ハ固ヨリ類繁ナラザルベシ目下ノ急務ハ患者ノ家族中ニ重症ノ神經病發見セル場合ニ接センコトヲ待ツニ在リ

尙ホ本病ハ斷シテ傳染性ナキコト之ナリ是レ數多同胞ノ均シク本病ニ罹ルハ遺傳ニ基ク者ニシテ之ガ證トナスニ足ラズ又傳染ノ機會多カ
ルベキ夫婦間ニ於テモ未ダ嘗テ傳染シタル例ナシ而シテ又本病ハ寄生性ナリトスルノ理論ハ今日已ニ全ク其根據ヲ失ヒタリ蓋シ或種ノ小有機體ノ爲メニ乾癬ヲ誘起ストノ說ハ病床實驗上ヨリスルモ又顯微鏡的經驗ニ徵スルモ之ヲ固守スルコト能ハザレハナリ、

診斷 ハ上ニ述タル臨床實驗上ノ標徵ヲ鑑ミテ之ヲ行フキハ左程ノ困難ニ出會セザルベシ鱗屑狀濕疹、紅色苔癬、赤色糠秕疹等ト混同セザランガ爲メニハ此等ノ性質ニ付テ述タル所ヲ參照スルヲ要ス、茲ニ忘ルベカラザル一事ハ本病ニ罹リタル患者ニシテ尙ホ他ノ或ル皮膚病ニ侵サルコトアリ得ベキコトス

經過 ハ甚タ區々ナリ最稀有ノ場合ニ於テハ乾癬發疹急性或ハ亞急性旬行的ニ全身ニ蔓延ス又最多數ノ患者ニハ慢性ニ一箇或ハ二箇ノ斑點、肘部或ハ膝部ニ發現ス此等ノ斑點ハ或ハ獨立シテ久シク持續スルモノアリ或ハ之ニ伴ヒテ身體ノ諸部ニ新疹ヲ發スルコトアリ但シ其發疹ノ原因ハ外來ノ刺戟ニ因ルカ或ハ全ク不明ナルモノアリトス多
少永キ時間ヲ經過シ病勢、偶發的退行ヲ呈スルキハ疾患ノ痕跡トシテ唯タ色素ノ殘留ヲ見ルノミ又不良ノ場合ニ於テハ全身蔓延ヲ惹起ス
コトアリ此疾患ハ時トシテ小兒期ニ於テ始マルコトアリト雖モ春機發動期ニ於テ發現スル場合ヲ最頻繁ナリトス

甚タ稀有ノ場合ニ於テハ中途ノ變形ニヨリテ肥大性疣贅ヨリ上皮膚ニ轉移スルコトアリ故ニ數年持續セル乾癬斑ヨリ肥大性疣贅ニ變形スル場合ハ豫後不良ナリトス、此場合ニ於テハ速ニ切除法ヲ行フ可トス

豫後 ハ生命ニ關シテハ一般ニ佳良ナリ少クモ吾人ハ適當ノ藥劑ヲ用キテ乾癬斑ヲ除去シ得ル限り豫後佳良ナリト謂ハザルベカラズ然

レ再發ヲ防遏センコトハ決シテ望ムベカラザル所ニシテ從テ施藥スレバ從テ再發ス、乾癬疹ノ全治日數ヲ豫算スルニハ一般ニ短キニ失セザランコトヲ要ス、皮膚未タ潮紅ヲ呈シ、鱗屑ノ集積劇甚ナル部位ハ恢復ニ趣クニ可ナリ久シキ時日ヲ要ス之ニ反シテ斑點ノ潮紅減少スル部位ニ於テハ直ニ又鱗屑剝落ス之ニ投藥スレバ通常ノ表皮ヲ形成スルモノトス

療法 苦利沙羅並ヲ用ユルヲ以テ確實ナリトス、苦利沙羅並ハ千八百七十八年バルマンノ一スクイア始メテ使用シタル所ニシテ「ゴア末」アラデル國產ノ「アンジア、アラロバ」樹ノ洞穴中ニ在リテ十七%纖維及六十乃至七十%苦利沙羅並ヲ含有スヨリ製セラル、モノトス、吾人ハ之ヲ十%軟膏或ハ十%「トラウマチ、ン」液ト混シテ使用ス

處方 苦利沙羅並

「トラウマチ、ン」 一〇〇

此處方ハ吾人ノ殊ニ屢用ル所トス、何トナレハ此藥劑ハ嚙囉仿謨ノ蒸

發セル後皮膚ニ殘留シ恰モ之レニ壓迫セラレタル狀ヲナシテ疾患部ニ作用スレバナリ、苦利沙羅並ヲ塗布スルニ方リテハ豫メ銳匙又ハ溫湯及石鹼ニ浸シタル刷毛ヲ以テ鱗屑ヲ殘リナク除去スベシ而シテ此際出血スルコトアルモ毫モ妨ゲアルコトナシ、却テ苦利沙羅並ノ作用ヲシテ一層迅速、有効ナラシムルノ利アリ、苦利沙羅並ノ中毒症ヲ起スコトアルハ吾人ノ能ク知ル所ナルヲ以テ「蛋白尿、血尿、過大ノ體部ヲ、一舉シテ治癒セザラン」コトヲ要ス、通例日々一回各箇ノ乾癬斑ニ施藥シ五乃至六日ニシテ之ヲ中止シ、全身浴ヲ命スベシ、斯ノ如クシテ病勢未タ全治セザルキハ尙ホ治療ヲ續行スベシ、若シ患部ニ白色扁平ナル部分ヲ發現シ苦利沙羅並ノ爲メニ褐色ニ變シタル周圍部ト判然區別シ得ルニ至ルキハ全然治癒ヲ止メテ可ナリ之レ乾癬治癒シタルモノナレバナリ、時ニ苦利沙羅並ノ爲メニ皮膚甚シク變色シ、焮衝ヲ起スコトアリ、此場合ニハ撒布藥或ハ拔爾撒謨ヲ以テ中和的ニ治療スルヲ必要トス

苦利沙羅並ニテ變色セル皮膚ハ枸橼酸ヲ以テ洗滌スレハ之ヲ脱色セシム

ルヲ得ベシ

苦利沙羅並ハ皮膚ヲ甚シク變色セシムルノミナラズ不快ナル眼^〇炎^〇ヲ誘因スルノ性アルガ故ニ顔面部及頭髮部ニハ其使用ヲ避ケザルベカラズ此等ノ部ニハヤーリッシュ^ユノ始メテ使用シタル沒食子酸ヲ用ユ沒食子酸ハ苦利沙羅並ノ如ク奏功ヲ速カナラシムルモノナラザレバ乾燥ニ對シテ甚タ佳良ノ勢力ヲ有スルモノナリ吾人モ亦其十%軟膏ヲ用ユ

處方 沒食子

一〇

酒精

適宜

黃色華攝林

一〇〇

之ヲ顔面部ニ使用スルニハ先ツ鱗屑ヲ除去シテ后硬毛刷子ヲ以テ此軟膏ヲ塗布スルニ在リ之ヲ頭髮部ニ用キルニハ最初一二日ノ間切ニヘブラ氏加里石鹼精ヲ頭皮ニ塗擦シ温湯又ハ石鹼ヲ以テ洗淨シ鱗屑ヲ全ク除去シタル後始メテ沒食子酸療法ニ着手ス

沒食子酸モ苦利沙羅並^ナフトール等ノ如ク毎回唯タ限局セル過大ナラザル皮膚面ニ之ヲ使用スルヲ要ス何トナレハ然ラサレハ中毒ヲ起スコアルベケレハナリ故ニ此點ニハ常ニ注意ヲ要ス

子^ニンキ^ーノ發見ニ係ハリレコウスキ^ーカ沒食子ニ代用セル「ガ」ラコトフエノ「^ン」Gallicolophenonナルモノアリト雖モ實驗ノ據ルベキモノ未タ頗ル僅少ナラトス之レ亦十%軟膏トシテ用井ルハ乾燥上ニ及ス作用不長ナラサルベシ

乾燥未タ蔓延ニ過キサル場合ニ於テハ右ノ療法ヲ行フモ可ナリ全身乾燥ノ場合ニ於テノミハ是非モ浴治法ヲ取ラサルヘカラス或ハ之家ニ於テスルモ可ナリ或ハ「シ」ランゲン「ロ」イク「瑞西國」等ノ如キ温泉場ニ赴クベシ「ヨ」ーゼフ

右ニ述ベタル所ハ外治法ナリト雖モ之レト同時ニ内服藥ヲ用キベキヲ論ヲ俟タズ内服藥中第一位ヲ占ムベキモノヲ砒石劑トス而シテ砒石ハ之ヲ前述セル水溶液トシテ用キ或ハ亞細亞丸ノ狀ニ於テ與フル

モ可ナリトス

處方

亞砒酸

〇、五

黑椒子末

五、〇

亞刺比亞護膜

一、〇

蒸溜水

適宜

右爲百丸

右一日一丸、八丸ニ至ル迄、四日毎ニ一丸ヲ増シ乾癬退行シ始ムルマデ八丸ヲ持續シ漸次減量シテ初服量ニ復スベシ

砒石劑中最適當ナルモノヲ亞砒酸ト砒石那度留膜ノ注射法(後ニ出ツ)トス、砒石劑ヲ用ユルキハ當初乾癬斑、搔痒ヲ發スルヲ稀レナラズト雖、後チ幾モナクシテ減退スルモノトス

近頃ニ至ルマデ「グレア」及「ハスルンド」ハ内服藥トシテ多量ノ沃度加里(一日一、二、〇乃至二〇、〇)時トシテ五〇、〇ヲ費用セリ、之ニヨリテ好績ヲ得タルヲハ諸學者ノ報告ノ一致スル所ナリトス

右ニ述ヘタル療法ニ從フキハ一般ニ奏功スルモノナリト雖、尙ホ他ノ藥劑ニシテ作用佳良、臨機使用ニ堪ユルモノ多シ

先ツ第一ニ搨クヘキモノヲ「嬰兒トス」鱗屑ヲ除去シタル後、純加實奴油ヲ塗布シ其上ニ粉末ヲ撒布シ而シテ綳帶ヲ纏フベシ、一回ニ大ナル皮膚面ニ塗布セント欲スルキハ必ス浴湯中ニ於テ之ヲ爲サザルベカラズ、即チ「嬰兒」ヲ塗布シタル後、患者ヲ水中ニ入ラシメ二十分時ニシテ再ヒ之ヲ乾燥セシムベシ、或ハ時トシテ「亞爾加里性嬰兒石鹼液(ブッチ)」ヲ以テ日々二回塗擦スルヲ可トスルヲアリ、

又「カボチー」ノ始メテ使用セル「ナフトール」(後ニ出ツ)並ニ「アイヒホッフ」ノ「アリストール」(十%軟膏)時トシテ好績ヲ奏スルヲアリ

上ニ述ヘタルガ如ク「苦利沙羅」並ニハ種々ノ短所アルガ故ニ數年前「イベルマンガ」(アリザリン)中ヨリ「苦利沙羅」並ニ類似セル「アントラロビン」ナルモノヲ製シタルハ大ナル便益ヲ與ヘタルモノト謂ハサルベカラズ、乾癬ニ對スル此藥劑ノ作用甚々微弱ナルヲハ氏自ラモ明言スル

所ナリト雖凡各種ノ微菌ニヨル皮膚病ニ對シテ効アルコトハ吾人ハ尙ホ後ニ至リテ之ヲ説述セント欲ス各箇ノ場合ニ於テ殊ニ頭髮部及顔面部ノ乾癬ニ付テ奏効著シキ者ヲ白降汞軟膏トス之ニ比肩スベキモノハカゼチウ及ロールノ「ガラノール」チリ予ハ「ガラノール」ヲ十%軟膏或ハ十%「トラウマチ」液ノ形狀ニ於テ使用セシコトヲ紹介セン殊ニ此藥劑ニハ肌衣及皮膚ヲ變色セシメサルノ便益アリ

此章ヲ終ルニ臨ミ尙ホ此ニ一言セント欲スルハ甚々軟弱ナル皮膚ヲ有スル者例ヘハ貴婦人ノ如キモノニハ外科的治療ヲ施サザルコト可トスルコト之レナリ然レモ之レ唯々限局セル乾癬疹ニ付テノミ然ルコト言フ俟タス蓋シ此等ノ乾癬疹ハ一方ニ於テハ治療ヲ加ヘサルモ自ラ治癒ニ赴クモノナルノミナラズ又他ノ一方ニ於テ此種ノ人ノ有スル皮膚ハ甚々鋭敏ニシテ上ニ掲ケタル藥劑ヲ使用スルハ時トシテ人工的濕疹ヲ發スルノ恐レアレハナリ故ニ此ノ如キ患者ニハ全身浴治法ヲ用ユルカ例ヘハ「シユランゲンバード」或ハ日々一回加里石鹼又ハ其他ノ

精良ナル石鹼ヲ以テ洗滌セシムルハ屢全治ヲ見ルコトアリ

全身赤色糠秕疹

Pityriasis rubra universalis

全身赤色糠秕疹トハ「ブラ」ノ始メテ記述セル所ニシテ稀有ノ疾患ニ屬シ其經過中暗紅色ニシテ持續スベキ着色ノ外ハ著シキ浸潤、結節形成、裂傷、濕潤及水泡形成ノ之ニ伴フコトナク、輕微ナル搔痒アリテ稀ニ一定ノ部位ニ限局スト雖モ多クハ全身ニ瀰蔓スル疾患ナリトス（「ブラ」右ノ如キ簡單ナル定義ヲ掲クルモ稀有ナル疾患ノ何物タルコトハ未タ之ヲ了解スルコト能ハザルベシ故ニ吾人ハ以下少シク詳細ニ之ヲ説述セント欲ス

全身倦怠、不快及日晡發熱ノ如キ輕微ナル前驅症ト共ニ關節屈曲面、下肢又ハ他ノ好發部ニ斑點様ノ微紅ヲ呈シ、一二日ニシテ糠狀ノ鱗屑發生ス、潮紅及鱗屑ハ直ニ全身ニ蔓延シ又頭髮部ヲモ侵襲ス、鱗屑ハ大抵小ナリト雖モ時トシテ大ナル薄層ヨリ成立スルコトアリ、此薄層ノ中心

部ハ皮膚ニ固着スト雖凡其周邊ハ浮隆セリ、皮膚剝屑甚タ饒多ニシテ、爪甲光澤ヲ失ヒテ萎縮ス、全皮乾涸著シク緊張シ、爲メニ顔面部ハ假面様ノ感アリ又緊張ノ爲メニ關節部ニ疼痛性皸裂ヲ來タシ又胸部ハ緊扼セラル、ガ如キ感覺ヲ有ス。瘡痒通常僅微ナリト雖凡時トシテ甚タ高度トナルヲアリ、ヤダソーンハ表面上ノ淋巴腺ノ腫脹ニ着眼シ該腺中ニ於ケル結核性變化ヲ證明スルヲ得タリ、時トシテ皮膚硬化シ萎縮症續發シ其經過數年ノ久シキニ亘ルモノヲ多シトス唯タヤダソーンノ目撃シタル或場合ノ如キハ其經過比較的ニ短カ、リシノミ症候増悪シ全身衰弱(肺結核)ニ陥リテ斃ル、者多ク、一旦輕快シテ再發スル場合又ハ全ク治癒ニ趣ク場合ハ僅少ナリトス

以上説述セル症候ハ頗ル限極セル觀察ニ基ケル者ナリ汎ク全般ヨリ見レハ經過中、紅色苔癬、乾癬、鱗屑狀濕疹ト同一ナル現象ノ發スルコトアリ、此等ノ現象ハ或點ニ於テ赤色糠秕疹ニ類似スト雖凡其間ノ區別ハ頗ル明瞭ナリ而シテ之ヲ大體ヨリ見レハ前掲ヘブラノ定義中ニモ

歌ヘルガ如ク寧口消極的ノ區別ニ屬スルモノトス先ツ第一ニ吾人ハ本症ニ付テ皮膚上ニ皮疹ノ跟跡ヲ發見セスシテ唯タ潮紅鱗屑ヲ認ムルノミ、之ニ反ノ濕疹ノ場合ニ於テハ鱗屑ノ外、尙ホ水泡、丘疹等ヲ發見スルヲ常トス又鱗屑狀濕疹ハ治癒ニ向ヒテ進行スルモノナリト雖凡赤色糠秕疹ノ場合ニ於テハ吾人ハ病勢増悪ヲ見ル、紅色苔癬ノ場合ニ於テ吾人ハ進行ノ蔓延強烈ノキスヲ尙常ニ固有ナル小結節ヲ發見スベシ而シテ又全身乾癬ノ場合ニ於テモ吾人ハ病歴及特發皮疹ノ存在ヲ見ルモノトス之ヲ約言スレハ全身赤色糠秕疹ノ診斷ハ觀察ノ歩ヲ進ムルニ從テ困難ヲ感ゼザルベシ

鑑別上必要ナルハ本病ニハ皮膚ノ浸潤ヲ缺キ却テ皮膚ノ萎縮ニ兼テ靜脈ヲ透視シ得ベキニアリ他ノ皮膚病ニハ皮膚常ニ浸潤セラレ且ツ肥厚スルヲ見ルベシ

佛(ブローク)及英米ノ或學者ノ如キ前掲ノ病狀ト各箇ノ症候ニ於テ抵觸スルヲアルベキ病狀ヲ區別セルモノアリト雖凡若シ果シテヤダソンニシテ

症候錯綜ト前掲ノ模形トハ各箇ノ場合ニ於テ偶々抵觸ヲ生スルコトアルモ之レ未タ診斷上所謂紅色糠秕疹ヲ無視スルニ足ラザルモノトシテヘブラト共ニ嚮ロ一般ノ病狀及一般ノ經過ニ重キヲ置クモノトスレハ吾人ハ其ノ說ニ全然賛同ヲ表スルニ躊躇セサルナリ

原因 ニ付テ吾人ハ未タ一定ノ說アルヲ知ラスハ、フオンヘブラノ實驗セル數多ノ場合ノ一ニ於テハ解剖ノ際、小腦中ニ胡桃大ナル結核結節ヲ發見セリ、フライシニヤンモ同一ノ場合ニ於テ腦ニ單獨ナル結核ヲ發見シ氏ハ皮膚ノ變化ヲ營養變常ニ歸シタリ、又羅痾セル皮膚ノ検査ハ其ノ性質ニ付テ未タ確實ナル論結ヲ與ヘズ、ヘブラ、エルセンベルヒベトリニー及パーベスノ諸氏ハ疾患ノ初期ニ於テ皮膚ノ乳嘴層及下乳嘴層ノ細胞浸潤ヲ發見セリ、始メ此浸潤ハ病竈ニ發生シ後ニ至リテ蔓延スルノ狀況ヲ呈シ尙ホ表皮ノ脈管裝置モ閉鎖スルモノトス、ハ、フオン、ヘブラハ之ヨリ尙ホ進ミタル病期ニ於テ乳嘴體ノ消失、汗腺、皮脂腺ノ萎縮、彈力性纖維ノ多量、及顆粒狀ニシテ黃褐色ナル色素ヲ發見セリ、

微菌學上ノ検査ニ至リテハ未タ全然缺乏スルモノナリトス

豫後 ハ不良ナリ、最多數ノ患者ハ結核ノ爲メニ斃ル、モノトス然レモ從來或ハ恢復ヲ見タル場合ナキニシモアラズ

療法 ハ唯タ對症療法タルニ過キズシテ皮膚ノ緊張ヨリ生スル症候ヲ緩和スルニ在リ、此目的ニハ先ツ中和軟膏ヲ可トス又カボジールハ一回石炭酸ノ内服藥ニ由リ治療シタリト報ス

處方 結晶石炭酸

二〇

鹽酸莫爾比涅

〇・一

甘草根越幾斯及其末適宜

右四十粒ヲ作り一日三回二粒宛内服ス

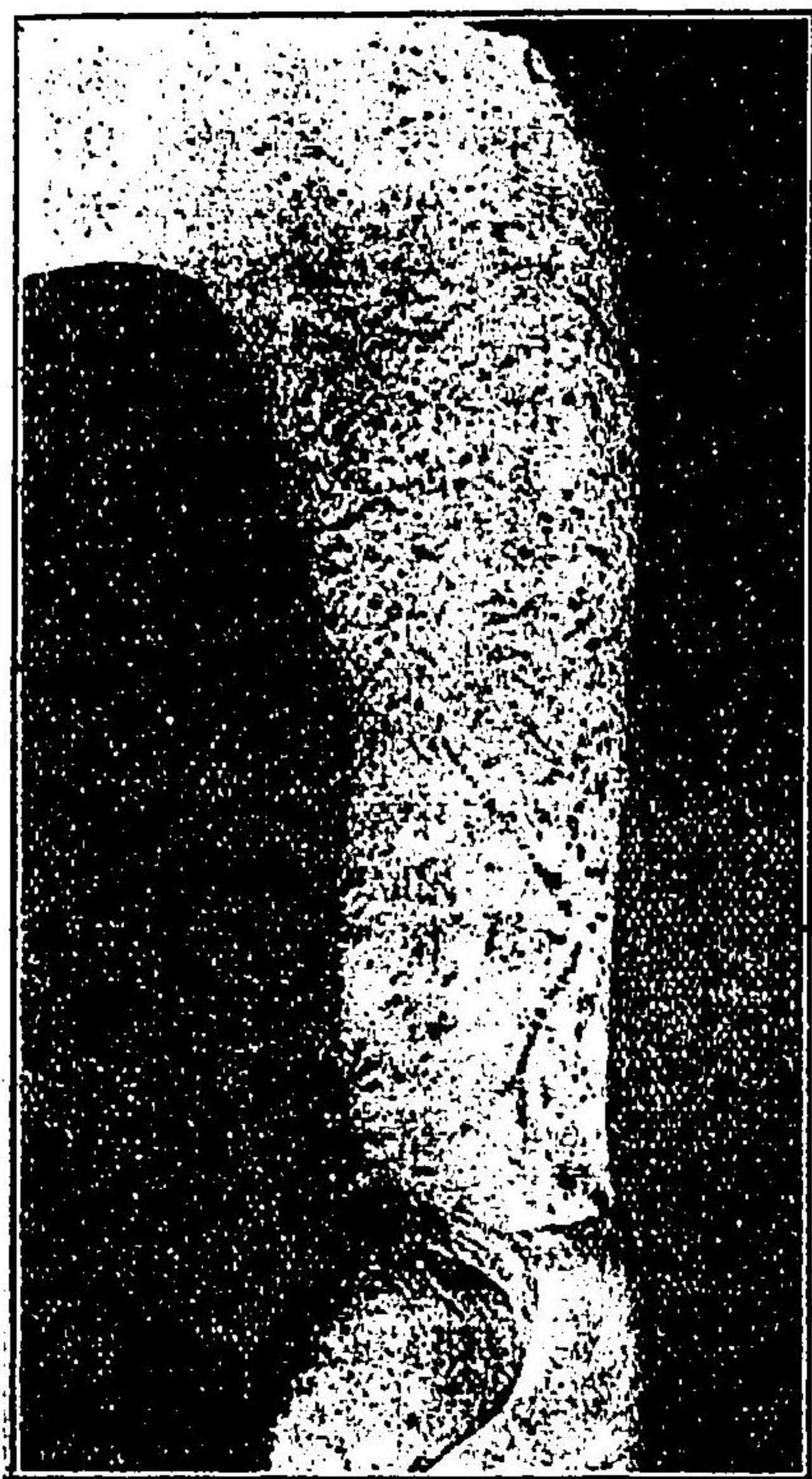
クロッケルハ「テレピン」油ノ内服ヲ以テ好結果ヲ得タリ

苔癬 Trichien

吾人ハ今日苔癬トイフ意義ヲ從來ヨリモ遙カニ狹隘ニ解釋ス、吾人ハ

苔癬トイフ語ヲ以テ彼ノ疾患經過中小結節ノ他ニ何等ノ發現ヲモ見サル病症ヲ言顯ハサント欲ス此小結節ハ決シテ小水泡、膿疱等ノ如キ他ノ特發皮疹ニ變スルヲナク治癒ニ赴クノ傾向ヲ生スルニ際シ吾人ハ却テ其消滅スルヲ見ル方今此解釋ニ適合スルモノハ唯タ二病狀タルニ過ギズ曰ク紅色苔癬曰ク腺病性苔癬之レナリ後者ノ意義ハ嚴正

第八圖



苔癬

ニ解釋スレハ苔癬ノ一部ヲナス者ニアラズ何トナレハ此場合ニ於テ小結節ト共ニ膿疱發生スレハナリ然レモ此名稱タルヤ久シク苔癬中ニ歸化シナイセルノ所謂腺病性粟粒疹ナル名稱ヲ用キテ再ヒ之ヲ逐放シ得ザルニ至レリ

第一 紅色苔癬 *Lichen ruber*

多數ノ皮膚病ニ於ケルガ如ク本症ヲ知得スルコトモヘブラナル名ニ密接ノ關係ヲ有ス氏ハ他ノ皮膚病ヨリ特ニ紅色苔癬ヲ區別シテ今日尙ホ尖形紅色苔癬 *Lichen ruber acuminatus* トシテ全然承認セラル、所ノ定型ヲ創定シタリ全般ヨリ見レハ本症ニ關スル吾人ノ所見ハ吾人ガ方今、尖形紅色苔癬ト(カボデー)ウィルソンノ創定ニ係ル扁平紅色苔癬 *Lichen ruber planus* トノ嚴正ナル區別ヲ附スルコト困難トナレリ即チ此二ノ苔癬ハ一患者ニ發生スルノ故ヲ以テ吾人ハ二者互ニ連屬スルモノナリト見做サント欲ス從テ吾人ハ小結節ノ形狀ニ唯タ症候上ノ意義ヲ負ハスノミ、或ハ曰ハン病床實驗的經過モ亦二者屢全ク異レル

ニアラズヤ此批議ノ爲メニ惑ハサル、モノニアラズ然レモ予ハ曰ハ
 ント欲ス癩病ノ病床實驗的經過ニ於テモ結節癩、麻痺癩トシテ二者全
 ク異レル癩病ノ症狀アルニモ拘ラズ、病因學上、二者同一ノ發病素ヲ有
 スルヲ如何セン、尙ホ予ガ此ニ一言セント欲スルハカボチー及近來ハ
 ワアースガ砒石療法ヲ施シタルニ鱗屑及浸潤ノ減少ノ際、尖形狀ヨリ直

第九圖



慢性苔癬

接ニ扁平狀ニ轉移セルヲ目撃シタルトス之レ吾人ガ、ヘブラノ苔癬
 ニ下シタル定義ヲ根據トシテ汎ク尖形、扁平二形態ノ小結節ヲ區別シ
 タルノミ假令病床實驗上ノ關係ニ於テ、二形態ノ間ニ小區別ヲ示ス
 アリモ其主タル標徴ニ至リテハ二者同一ナリト謂ハザルベカラズ、固
 ヲリ多數ノ患者ハ唯タ扁平苔癬小結節ノミヲ示ス者アルベク又他ノ
 患者ハ唯タ尖形小結節ノミヲ有スル者モアルベシト雖モ吾人ハ二形
 態ノ一患者ニ發現スルトニ重キヲ置クモノナリ
 右ニ述ヘタル二形狀ノ中ニ就テ多キモノヲ扁平赤色苔癬トス、此苔癬
 ハ初メ健常ノ皮膚ニ最小針刺大ノ無色ノ小點ヲ生ジ殆ンド肉眼ニテ
 ハ見得ベカラザル只斜向ノ照輝ニテ認メ得而シテ此小點漸ク増大スル
 片ハ暗紅色乃至蒼白色ノ小丘疹トナル而シテ小結節ハ基底ニ於テ細
 微ナル赤色ノ周邊ニ圍繞セラレ、蠟樣ノ光澤ヲ放チ中心ニ一箇ノ小臍
 窩ヲ現ハス結節ノ小ナルモノハ圓狀其大ナルモノハ多角性ニシテ何
 レモ皮膚ヨリ隆起ス小結節ハ或ハ散在シ或ハ連續シテ或者ハ環狀或

者ハ半環狀ヲナス此等ノ環狀ハ境界判明ナル充血性ノ周邊ヲ有シ時トシテ小結節ハ線狀ニ並列スルヲアリ、疹ハ周邊ノ蔓延ニヨリテ増加ス之レ即チ新結節發生スルモノナリ、舊結節ハ尙ホ識別シ得ヘキ暗黒色ノ色素ヲ殘留シテ陷凹ス、疹ハ屢左右對等ニ發現スルヲアリ、此疾患ノ經過ハ多ク慢性ナリトス、小結節ハ通常可ナリ劇甚ノ瘙痒ヲ起スモノナリト雖モ時トシテ此症候ヲ缺クヲアリテ小結節散在セル場合又環狀ヲナセル場合ニモ、久シク一定不變ニ身體ノ或部ニ存在シ患者少シモ之ヲ自覺セザルヲアリ、小結節ハ又自ラ陷凹シテ暗褐色ノ色素ヲ殘留スルモノトス

診斷 ハ若シ始メ各發疹期ヲ鑑別スルヲ誤ラサルキハ困難ヲ感セザルベシ若シ環狀ノ結節互ニ溶合スルカ或ハ大斑點ヲ形成スルキハ病機ヲ鑑別スルヲ容易ナラズ然レモ精密ニ觀察スルキハ或部位ニ於テ定型の特發發疹ヲ發見シ診斷ヲ確メ得ベシ、疾患ハ身體ノ各部ニ發現スト雖モ殊ニ手掌及足趾ヲ侵スヲ頻繁トス各箇ノ環狀ノ陰莖上ニ

限局スルヲ稀ナラズ、時トシテ小丘疹ハ唯タ前掲ノ諸部位ニ發生スルノミニシテ他ノ體部ニ發現スルヲナシ、本症ニ固有ニシテ診斷上特ニ重要ナルモノヲ手掌及足趾ニ於ケル厚キ胼胝形成トス、此胼胝ハ周邊ニ於テハ定型のニシテ蒼白色ナル小丘疹ヲ境界トナシ中心部ニ於テハ色素ヲ有スル陷凹ヲ現ハスヲアリ小丘疹ノ吸收後尙ホ間斷ナク存續スル暗紅色ノ色素ニヨリテ扁平苔癬ノ退消シタルモノナルヲ診斷シ得ルヲ稀ナラズ

扁平苔癬ノ場合ニ於テハ頰部、舌部、口蓋部及唇部ニ疾患現象ヲ看ルヲアリ口腔粘膜ノ疾患、皮膚發疹ニ先チテ發スルヲアリ或ハ之レト同時ニ發現シテ疹ノ全治ノ後モ時トシテ存在ス、加之ナラズ苔癬ハ時トシテ外皮ノ之ニ伴フモノナクシテ唯タ粘膜上ニ現ハル、ヲアリ此場合ニ於テハ自覺的ニ患者或ハ苦痛ヲ有スルヲアルカ或ハ輕微ナル粗糙ノ感アルノミ、舌ノ上ニハ小結節若シクハ白色ノ斑點ヲ見ル此等ノモノハ其色ニヨリテ隣接部ト判然區別スベク、而シテ屢舌縁ニ並行シテ

發現スルモノトス、次ニ頰部粘膜上ニハ白光ヲ放ツ所ノ乳頭様ニ或ハ散在シ或ハ斑狀ヲナスヲ見ル其中間ニハ白色ナル深溝アリテ網様ニ配列セラル此等ノ斑點ハ好シテ最終ノ齶齒ノ邊ニ位置ヲ占ムルモノトスペンデルハ或ル場合(變形赤色苔癬ト扁平赤色苔癬トノ混合状態)ニ於テ咽頭部ニモ二三ノ散在セル白色ナル小結節ヲ發見シチビールゲルハ斑點ヲ前口蓋弓ニ於テ目撃セリ此等ノ粘膜變化ハ凡テ喫煙過度、香料、齶齒等ノ爲メニ媒介セラル、モノトス

扁平赤色苔癬ノ珊瑚帶狀ニ並列セル場合ハ只々奇異ナルモノトシテ從來ノ學者之ヲ放擲シ置キタルニカボジニ至リ觀察ノ結果氏ハ之ヲ頸帶狀赤色苔癬 *Lichen ruber numiformis* ト命名セリ、此場合ニ於テハ線狀及紐狀チナシ互ニ密接シテ主ニ身長ノ方向チ取り、赤色ニシテ光澤チ放チ、紐狀ニ隆起セル繩索チ發見セリ、又之ニヨリテ明ニ苔癬小結節チ鑑別シ得タリ、而シテ又此場合ニ於テモ下唇ノ粘膜上ニ粟粒大ニシテ蒼赤色チ呈シ圓錐形チナシテ平滑硬固ナル隆起チ目撃シタリトイフ

其他尙々赤色苔癬ノ一變形チ形成スルモノチ疣狀赤色苔癬 *Lichen ruber verrucosus* トス、此場合ニ於テハ定型的扁平苔癬小結節ト共ニ乳頭狀ノ腫大

ヲ見ル、該腫大ハ殆ント常ニ下腿部ニ發見シ屢靜脈怒張ノ經過ニ續發ス
(ハ、フオン、ヘブラ、フオン、ゲニールンケ、ゲーベルト)

剖檢 扁平苔癬小結節ノ解剖ニ付テハ學說區々ニシテ一ニ歸セズ然レモ從來行ハレタル總テノ檢査ヨリスルモ未ダ真正ノ進歩ト稱スベキモノアラズ子ノ檢査スル所ニヨリテ他ノ諸學者ノ意見ニ同意ヲ表スルハ眞皮ノ上部ニ於テ血管外膜ノ浸潤ヲ以テ進行ノ始點トス、之レヨリ後ノ諸期ニ於テハ予ハカスバリーガ會テ説明セル關係ト大ニ類似セル關係ヲ發見セリ、即チ小結節ノ内部ニ於テ表皮層ノ奇異ナル隆起ヲ生ズルニ在リトスカスバリーハ此隆起ヲ説明スルニ浸潤セル下上皮結締組織ノ壞疽ヲ以テセントスト雖モ予ハ此隆起ハマルビギー氏層ノ溶崩ニヨリテ生スルモノナルヲ發見セリカスバリート同ジク予ハ此腔間中ニ硝子様ニノ纖維素類似ノ小線條ヨリナリタル凝塊ヲ一團ノ圓形細胞ト共ニ發見セリ、予ハ此病機ヲ以テ眞皮中ノ特發状態ニ續發セル者ト認ム而シテ予ハカスバリート同シク此病機ヲ他ノ

皮膚病ニ於テ發見セザルガ故ニ之ヲ以テ扁平苔癬小結節ニ固有ナル症候ト爲サント欲ス

尖形苔癬小結節ガ扁平苔癬疹ト共ニ一患者ニ發現シ之レト同一ノ病狀タルコトハ已ニ前ニ述ベタル所ナリ二者斯ノ如キ關係アルニモ拘ハラス尖形苔癬小結節ノ發生スルハ稀有ノコトニ屬ス然レモ此場合ニ於テモ一患者ニ付テ或ハ扁平苔癬ノミ或ハ尖形苔癬ノミヲ見ルコトアルハ又避クヘカラサルコトス

尖形赤色苔癬ノ場合ニ於テハ粟粒大ニシテ圓錐形ヲ有シ紅色或ハ褐色ニシテ硬固ナル散在性丘疹ノ發現スルヲ通常トス而シテ此丘疹ハ毛囊ノ口孔ニ吻合セル陷凹ヲ有スル所ノ光澤アリテ固着セル鱗屑ヲ有シ其大サ終始同一ニシテ手ヲ以テ之ヲ擦過スレハ恰モ擦子ニ觸ル、ガ如シ疹ハ丘疹ノ新形成ニヨリテ増大スルモノトス此丘疹互ニ觸接シテ蔓延シ全身途ニ本病ノ爲メニ侵サル、モノアリ此場合ニ於テハ丘疹ハ其形大ニシテ色赤ク頑固ナル浸潤ヲナシ鱗屑ヲ以テ覆ハ

レタル乾潤ナル面ヲ形成シ時トシテ丘疹環狀ヲ形成スルコトアリ中心部ニ於テハ已ニ萎縮ヲ起シ暗褐色ノ色素ヲ殘留スルニ周邊ニ於テハ未タ蠟光ヲ放チ小臍窩アル小結節ヲ見ル(ヘプラー)

皮膚乳嘴ハ屢始メ胸部及腹部ニ發現シ其他身體ノ各部ニ限局發生ス疾患久シク持續シ醫療ヲ等閑ニ附スルキハ全身途ニ侵襲ヲ受ケ皮膚ハ普テ赤色ヲ帶ヒ肥厚シテ薄キ白色ノ鱗屑ヲ以テ被ハル、ニ至ル、顔面部ニ於テハ下眼瞼外瞼シ手掌及足趾ニ於テハ角様層甚シク肥厚シ指ニ於テハ深溝及裂瘡ヲ發生ス爪甲ハ硬厚トナリテ脆ク毛髮脱落シテ毳毛之ヲ補充ス此等ノ皮膚上ニ發スル現象ノ外扁平苔癬ノ場合ノ如ク尖形苔癬ニ於テモ口及舌粘膜上ニモ變化ヲ惹起スモノトス殊ニウツナノ所說ニ依レハ糜爛ノ形狀ニ於テ現ハル、ヲ多シトス尖形紅色苔癬ノ存否ニ付テハ學者皆ナ已ニ之ヲ疑フノ有様ナルヲ以テ此丘疹ノ解剖的構造ニ付テ一定ノ意見ノ存セザルコトハ敢テ惟シムニ足ラザルナリペンダト協力シテ行ヒタル解剖的驗査ノ結果予ハ諸

學者ノ意見ノ如ク病機ハ真皮ニ於テ始マルヲ知得セリ然レモ扁平
 苔癬丘疹ノ場合ニ於テ浸潤甚ク廣延ナルニ本症ノ場合ニ於テハ浸潤
 ハ悉ク毛囊ノ周圍ニノミ限局セラレタリ即チ始メ内外ノ毛根鞘ノ間
 ニ小細胞ノ浸潤起リ毛根鞘ハ之ニ由リテ互ニ離隔セララル之ニ代ヘテ
 顆粒細胞及新生セル血管ヨリ成立シ其内ニ巨大細胞ヲ包有セル滲出
 物發生ス毛髮ハ屈曲シテ毳毛様ノ觀ヲ呈ス基底網叢層ハ暗褐色ノ色
 素ヲ示ス

紅色苔癬(尖形及扁平)ノ**症候**ハ大體ニ於テハ甚ク簡單ナリトス患者
 ハ始メ苦痛ヲ感セザルヲ多ク多少久シク經過シタル后ニ至リテ始メ
 テ病機ノ蔓延ト共ニ搔痒發生ス此搔痒ハ時トシテ劇甚ヲ極メ患者ヲ
 シテ頗ル煩悶セシムルヲアリトス又搔痒ノ強弱ノ度ハ發疹ノ強弱ニ
 並行スル者ニアラズ或場合ニ於テハ多數ノ丘疹殊ニ衣服ニ被ハレタ
 ル體部ニ少シモ搔痒ヲ覺ユルヲナクシテ發生スルヲアリ又他ノ場合
 ニ於テハ丘疹ノ數僅少ナルモ間斷ナキ搔痒ヲ惹起スヲアリ搔痒ノ結

果全身ノ健康ニ障害ヲ生ス殊ニ神經質ノ人ヲ以テ然リトス通常尖形
 状態ノ場合ニ於テハ扁平状態ノ場合ニ比スレバ全身症候ノ發生スル
 一甚シク扁平状態ノ場合ニ於テハ斯ノ如キ徵候ノ缺乏スルヲ多キヲ
 アリ患者ハ搔爬ノ際輕快ヲ感スルヲナク却テ直ニ疼痛ヲ訴フヘブラ
 ノ説明セルガ如ク全身衰弱及死亡ハ晩近之ヲ看察シタルコトナシト
 ス

診斷ハ大體ニ於テハ困難ナラザルニモ拘ハラズ從來此疾患ニ干ス
 ル知識ヲ得タル醫家極メテ尠シ之レ蓋シ主トシテ其發生ノ頻繁ナラ
 ザルニ由ル者ナリ丘疹ノ散在セル場合ニ於テハ若シ前述セル徵候ヲ
 了知セルキハ其診斷容易ナルベシ然レモ丘疹ニシテ集合シテ斑點ヲ
 ナセルキハ大體上其診斷又困難ナラン全身鱗屑癬屢乾癬ナリトシテ
 誤診スルヲアリト雖モ宜シク此場合ニ於テハ鱗屑存在シ之ヲ剝離ス
 レハ血液ノ現ハルヲ忘ルベカラズ又苔癬様濕疹トシテ看察スル
 一ナカルベシ何トナレバ此場合ニ於テハ發疹ハ多形性ニシテ經過ハ

全然異ナレバナリ又赤色糠枇疹トノ差別モ困難ナラザルベシ何トナレバ此場合ニ於テハ皮膚上ニ細微ナル落屑ト共ニ潮紅ヲ見ルノミニシテ毫モ特發疹ヲ認メザレバナリ、診斷ニ際シ常ニ心頭ニ置クベキトハ經過中終始小丘疹タルヲ失ハザル小結節ノ發現スルニ在リトス、加之ナラズ丘疹ニ固有ナル外觀及劇甚ナル癢痒ニ注意スルキハ診斷ニ困難ナラザルモノトス

本症ト梅毒性瘡疹トノ差別ハ困難ナリ殊ニ粘膜ノ苔癬ヲ以テ然リトス、苔癬丘疹及續發スル癢痒ハ梅毒ノ場合ニ於テハ決シテ看察スベカラサル現象ナルヲ以テ之ニヨリテモ區別スベク其他尙ホ經過モ亦區別ノ標準トナスベシ又皮膚疹ノ色モ診斷上肝要トス紅色苔癬ハ多クハ明ニ紅色ヲ呈スルモ梅毒疹ハ褐色ヲ呈ス其他爾餘ノ梅毒症狀ニ注意スヘシ即チ梅毒疹ノ場合ニ於テハ常ニ多形性發疹ヲ見ルノミナラス暫時ニシテ粘膜上、扁桃腺、口蓋弓等ニ扁平、コンザロームヲ見ルホスベロウハ有益ナル區別ノ標準ヲ表示シタリ即チ梅毒性瘡疹トノ反對ニ於テ少クモ一日間使用シタル Compresses Ichthyolique ニヨリ浸漬ノ結果トシテ苔癬部ニ眞珠糠環及線ヲ發現セリ、同一時間ニ於テ梅毒性瘡疹ヲ浸漬シタルニ或ハ皮膚乳嘴ノ中

部群屑ノ白色膨脹ハ殆ント發現セス或ハ少シク永ク浸漬シタルニ皮膚乳嘴ハ悉ク白色トナレリ、口腔ノ苔疹斑ト梅毒トヲ對照スルニ溶崩ノ傾向ハ前者ニ於テハ全然缺乏スト雖モ后者ニ於テハ之レヲ看ルヲ得ベシ乾燥ノ場合ニ於ケルカ如ク苔癬ノ場合ニ於テモ機械的ニ刺戟ヲ受ケタル部位ニハ小結節發生スルモノトス

近來デウエルギーノ説明セル毛髮赤色糠枇疹 *Pityriasis rubra pilaris* ト紅色苔癬トヲ區別セント試ミタル者アリ此點ニ付テハ後章ニ説述スベキ機會アルベシト信ス

原因 紅色苔癬ノ原因ニ付テハ吾人ハ何等ノ確實ナル説アルヲ知ラス實ニ不明ニ屬ス此疾患ノ寄生病タルコトハ學者ノ主張スル所ナリト雖モ此疾患ハ傳染病ニアラズトス、ケプテルノ唱ヘタル此疾患ヲ神經的疾患ニ歸スルハ恐ラク最モ眞理ヲ含ムモノナルベシ

豫後 ハ先ツ佳良ト見做スヲ得ベシ此點ニ於テハヘブラ時代ヨリ吾人ハ種々ノ變遷ヲ經過セリ或ハ死ノ轉歸ヲトル者ナリト云ヒ或ハ然ラズト今日ニ於テハ吾人ハ速ニ本症タルヲ診斷シ得タル場合ニハ適

當ノ治療ヲ施シテ治シ得ベシ、再發ハ之ヲ目撃スルコトアリト雖モ大體ニ於テハ稀レナリトス然レモ諸多ノ徵候併發スルカ或ハ身體虛弱ノ患者ヲ侵襲スル場合ニ於テハ死ヲ免レサルコト言フ俟タズ

療法 好結果ヲ奏スルハヘブラガ創定セル砒素(亞砒酸)ヲ内服セシムルニアリ之ヲ使用スルニハ如何ナル方法ニ於テスルモ可ナリ然レモ久時且ツ多量ヲ與ヘザルベカラズ、最使用ニ足ルモノヲ亞細亞丸トス通例三百乃至五百ヲ使用スレハ奏効アリトス此藥劑ニハ危險ノ伴フコトナシト雖モ砒石中毒(胃痛、頸部括約感覺等)ニ注意スベキコト言フ俟タズ、若シ中毒ヲ起シタルモハ投藥ヲ止メ後、再ビ少量ヨリ始ムベシ

處方 亞砒酸

〇、五

用法ハ漸次増量即チ

黑椒子

五、〇

第一週 毎日二丸(一丸ハ〇、〇五ノ亞砒酸ヲ含ム)

甘草末

三、〇

第二週 同 三丸

亞拉比亞ゴム漿 適宜

次テ每週一丸ヲ加ヘテ一日六丸(亞砒酸)ヲ服スルニ至ラシム而シテ必ス

右爲百丸(亞細亞丸)

每食後

又溶解亞砒酸ヲモ前述ノ處方ニ從ヒテ使用スルヲ得、溶解亞砒酸〇、五(二〇〇、〇)右一日三回十滴日ニ一滴ツ、増シテ二十滴ニ達ス然レモ最迅速ニ作用スルモノヲケブチルノ考案ニ係ハル砒石那篤留謨ノ注射トス

處方 砒石那篤留謨

〇、一

蒸餾水

一〇、〇

背部ニ於テ皮下注射ヲナス先ツブラワツ氏注射器ニ初メ半筒後チ全筒ヲ毎日之ヲ注射スルヲ要ス、此注射ヲ行フモハ疼痛ヲ輕減僅少スルノミナラズ奏効極メテ迅速屢一二回量ニテ効ヲ見ルコトアリ、全治ニ至ルマデニハ二十乃至三十ノ注射ヲ必要トス時トシテ其以上ヲ要スルコトアリトス

砒石ノ使用ノミヲ以テ紅色苔癬ハ全治ヲ見ルト雖モ又ウンナーノ鼻、汞、石炭酸軟膏ノ外用モ効アリトス

處方 石炭酸液

二〇、〇

昇汞 〇、五—一、〇

ウチイルソン軟膏 五〇〇、〇(酸化亞鉛六、〇安息香末一、〇豚脂三、〇)

右ノ軟膏ヲ以テ毎朝夕患部ニ塗擦シ后チ綳帶ス、吾人ハ同時ニ砒石ノ使用ヲナストナザルトニ論ナク軟膏使用ハ決シテ之ヲ怠ルベカラザルヲ知リタル程屢々佳良ノ奏効ヲ見タリ
限局セル範圍小ナル扁平丘疹ニハ苦利沙羅並ヲ用キレハ効ヲ奏ス(ルクスハイメル)治療ヲ催進スルニハ尙ホ他ニ溫浴若シクハ溫水灌漑法ヲ用キレハ補益スルノ効アリ

口腔ノ紅色苔癬ニハ吾人ハ昇汞ノ局所塗布法ヲ使用ス

處方 昇汞 一、〇

硫酸依的兒 五〇、〇

酒精 一〇〇、〇

右一日三回塗布(ツートン)

第二 腺病性苔癬 *Lichen scrophulosorum*

此疾患ノ本性トスル所ハ其丘疹細小ニシテ粟粒大乃至帽針頭大ノ者相集リテ發生スルニ在リ、而シテ其色ハ或ハ健常ノ皮膚ニ異ナルナク或ハ淡黃褐色若シクハ類紅色ヲ呈シ輕微ノ光澤アリ表面僅ニ落屑ス胸部、腹部及脊部等軀幹ニ發スルヲ多ク圓形ニ群集シ或ハ輪圈ヲ形成ス顔面及四肢ニハ稍々稀ナリ又他ノ體部ニ同一ノ丘疹及粉刺狀ノ皮疹ヲ併發スルヲアリ之レ疾患久シク持續セル後ニ於テ然リトス其他此疾患ノ専ラ腺病性(腺腫脹、骨痛、肺病等)年少者ニ發スルヲハ診斷上甚タ必要ナリトス、皮膚ニ關スル症候即チ自覺症(例ハハ瘙痒等)ノ如キハ全然缺乏ス

經過 ハ慢性トス 丘疹ハ其表面ニ於テ輕度ノ落屑ヲ呈スルノ他頗ル緩慢ナル經過ヲ經テ消退スルニ至ルマテ毫モ變化ヲ呈スルヲナシ

診斷 ハ右ニ述ヘタル狀態ニ鑑ムレバ甚タ容易ナリトス

剖檢 解剖學上カボジールハ細胞浸潤及滲出物ノ毛髮小囊、皮脂腺内及周圍ニ並ニ小囊口ニ最接近セル乳嘴中ニ現ハル、コトヲ證明セリ、ヤコビーハ尙ホ一ノ場合ニ於テ結核、バチルスヲ發見セリ、又ザックノ驗査

ニ依レハ重症ノ場合ニ於ケル苔癬疹ハ皮膚ノ粟粒性結核ヲ形成シタ
リトリールカ前述セル解剖上ノ意義ヲ批難スルニモ拘ラズ佛醫ノ説
ニ從ヒ眞皮炎ノ結核性ナリトノ意見ニ同意スル者アリ然レモ眞生ノ
皮膚結核症トハ見做ス能ハズ本症ハ劇烈ナル療法ヲ施サザルモ治ス
ルト深部組織ノ障害及癢痕形成ヲ缺如スレバナリ

豫後ハ**佳良療法**ハ甚タ單簡ナリトス本病ハ一般ノ腺病藥ヲ用ユ
レハ全治ヲ見ル殊ニ汗油ノ内服ヲ可トス又汗油ヲ以テ丘疹部ニ塗擦
外用スルモ不可ナシナイセルハ此作用徐々タル汗油ノ塗擦ニ代ヘ苦
利沙羅並ヲ使用シタルニ著明ナル奏効ヲ得タリトイフ

初生兒剝脫性皮膚炎 *Dermatitis exfoliativa*

neonatorum

本病ヲ始メテ説明シタルモノハリツテル、フォン、リツテルスハイニンシテ
(千八百七十八年)氏ハ本病ノ流行性ニ發生セルヲ「ブライグ」ノ育兒院ニ

於テ看察セリ、本病ハ生後第二週中ニ起ルヲ以テ最多トス、先ツ上皮乾
燥メ糠枇狀ノ落屑ヲナスカ或ハ各所ニ表皮落屑ヲナシタル後、口腔ノ
區域ニ於テ顔面下半部ノ潮紅(輕微ニシテ境界判然セサル)ヲ發現ス、之
レト同時ニ口角ニ皸裂ヲ形成シ唇皮落屑ス又之レト同時ニ他ノ皮部
又ハ全身ニ紅斑ヲ呈ス、後チ顔面部ニ於テハ饒多ノ結痂ヲ形成シ、他ノ

第十圖



初生兒
剝脫性
皮膚炎

身部ニ於テハ上皮多少肥厚シテ眞皮ヨリ浮腫ス、表皮ノ廣キ部分ハ比較的僅少ナレハ滲出液層ノ爲メニ侵カサレ表皮ハ皺襞ヲ生シテ眞皮ヨリ剝離ス、四肢就中手部、軀幹部及足部ノ共ニ侵サル、場合最多トス

第十圖



剝脫性皮膚炎

時トシテ直ニ表皮再生シ暫ク唯タ細微ノ皮膚落屑ノミヲ見ルコトアリ、斯ノ如ク經過佳良ナル場合ニ於テハ發熱スルコトナク又全身ノ營養ニ障害ヲ及ボスコトナシ全經過ハ一週間ヲ以テ終ヲ告グルヲ通常トスカスバリーハ二週半ニテ結局セル場合ヲ目撃シタルコトアリトス、然レモ時トシテ濕疹、癩瘡、壞疽性肺炎、下痢等ノ續發スルコトアリテ爲メニ小兒ハ斃死ヲ免レサルモノトス、本症ハ流行性ニ發現シ、男兒ハ女兒ニ比スレハ侵襲セラル、コト多シトスリッテハ本病ヲ以テ膿毒症ナリト認メタリ

類症鑑別 ニ付テハ丹毒ト區別スルヲ要ス丹毒ノ場合ニ於テハ體温昇騰シ、暗紅色ノ部位ハ多少水腫様ナルノミナラズ特ニ觀察スベキコトハ指壓ヲ加フレハ消褪スベキ境界判然タル潮紅漸々其周圍ニ擴張シ中心部ハ却テ褪色スルニ在リ又初生兒天疱瘡ハ表皮浮腫ノ點ニ於テ本病ニ幾分ノ類似スル所アリト雖トモ其經過ニ區別アルモノトス

預後 時トシテ佳良ナルモノアリト雖モ五十%ノ死亡アルヲ免レス然レモ固ヨリ營養狀態及併發症黃疸等ニ大關係ヲ有スルコト言フ俟タズ殊ニ口腔本症ニ罹リテ爲メニ榮養攝取ヲ障害スル場合ヲ然リトス、

原因 ハ未タ詳ナラズ傳染性ナラザルヲハ明ナル所トス

療法 ニ付テハ榮養ニ注意スルヲ以テ最必要トス其他病兒ヲシテ朝夕冷浴(列氏二十五度)ヲ取ラシムベシ濕潤部ハ撒布藥或ハ甘汞ヲ撒布シ、結痂形成アルキハ之ヲ除去シタル後、中和軟膏ヲ使用スルカ若シクハ塗油スルヲ可トス、

ペーレンドハ本病ヲ以テ葉狀天疱瘡ト同一ナリト認ムト雖モ前述ノ說明(リツテル)ノ說ニ吻合セルニ據リテ二者ノ間ニハ多數ノ區別的標徴ノ存スルヲ知ルニ足ルベシ

頭部乳嚙性皮膚炎

Dermatitis papillaris capilliti.

本病ハカポヂー(千八百六十九年)ノ始メテ說明シタル所ニシテ大小同シカラザル硬固ニシテ厚キ表皮ヲ以テ被レタル蒼赤色ナル多數ノ腫脹、頸部及隣接セル頭髮部ニ發現スルモノトス、表面ハ多數ノ溝及陷凹ヲ有シ之ニ由リテ乳嚙樣贅肉ヲ生ス、此種ノ結節ヲ存在スル場合最多ク而シテ此結節ハ疼痛ナクシテ唯々僅少ノ搔痒ヲ起スノミ、本病ノ特質トシテ毛髮小囊贅瘻ノ場合ノ如ク侵襲セラル、トナキガ故ニ毛髮ハ贅瘻ノ場合ノ如ク膿疹中ニ挿入セラル、トナク却テ組織中ニ在リテ之ヲ引抜カン、ト容易ナラズ、然レモ各箇ノ部位ニ付テ看レハ毛髮ノ落剝スルモノナキニシモアラズ、腫脹ハ之ヲ切除スルキニ出血スルノミ其表面ニハ膿疹存在ス時トシテ炎症偶發シテ結痂ヲ生スルヲアリ然レモ之レ本病ノ定型の症狀タラサルヲ勿論トス、贅瘻ト本病トノ性質上、差別ノ生スルモ此點ニ在リトス本病ニ於テハ始メヨリ直ニ結節發生シ而シテ贅瘻ノ場合ニ於ケルガ如ク毛髮ニ影響ヲ及ホシ易キ膿疱ノ發生スルヲナキモノトス

解剖上

カボチーハ真皮中ニ於テ慢性炎症及結締織新形成ヲ發見セリ、其結果トシテ乳嚢ノ腫脹及脈管ノ増加或ハ増大ヲ惹起スモノトス

本症ノ原因ハ未タ詳ナラズ、多クハ創傷ノ爲メニ誘起セラレ、モノナルベシ兎ニ角本症ノ傳染病タラザルコトハ明ナリ

療法ハ單簡ナリ、即チ腫脹ハ剪刀ヲ以テ之ヲ除去スベシ、之ヲ行ヒ能ハサルキハ水銀硬膏ヲ貼布スルヲ可トス然ルキハ吸收ヲ起スベケレハナリ

皮脂腺分泌障礙及單一ナル炎症
(脂肪腫形成)

本章ニ於テ病床實驗上及病因學上、互ニ關係セル疾患ヲ説述セント欲ス

第一 皮脂漏 Seborrhoea

皮脂漏トハ多少大ナル容積ニ於テ皮脂腺ヨリ上皮ニ過多ノ分泌ヲナスヲイフ、此症タルヤ皮脂腺ノ存スル所ニハ普ク發現シ得ルコト言フ俟タズ殊ニ頭髮部及顔面部ノ發生ヲ以テ頻繁ナリトス故ニ手掌及足趾ニハ本症ヲ發見スルコトナシ、分泌液ノ性状ニヨリ油性皮脂漏 S. oleosa 及乾性皮脂漏 S. sicca 頭部皮脂漏症 Seborrhoea capilliti. 頭部ニ於テハ乾性皮脂漏 Seb. sicca トシテ發生スルヲ見ル場合多シトス、此ニ所謂乾性皮脂漏トハ乾燥セル、脂肪性ノ脆キ實質ノ集積ヲイフ、此發育ノ原始及意義ハ全ク區々ナリトス初生兒及一歳ノ小兒ニ於テハ此ノ如キ集積ハ生理學上ノ出來事タルニ過ギザルコトアリ、カ、ル場合ニ於テハ之ヲ除去スルコト容易ナリ或ハ暫時ニシテ結痂自ラ落剝スルコトアリ而シテ其下ニハ尋常表皮ヲ見ルモノトス
大人ニ於テハ乾性皮脂漏屢發現スルコトアリ而シテ其始メハ著明ナラ

ズシテ漸次發生シ來ル通常患者ハ久シク本症ノ發生ニ心附カスシテ過スモノトス何トナレハ其症候ハ甚タ輕微ナレハナリ本症ハ頭皮上ニ皮脂腺分泌物ノ實質的排泄ヲナスニ原因スルモノニシテ屢々頭部ヲ洗淨スレバ之レヲ除去スルヲ得然レモ分泌直ニ旺盛トナリ尙ホ之レニ角皮ノ饒多ナル落屑ト共ニ過度ノ化角症ノ加ハルアリテ毛髮ハ恰モ撒布藥ヲ以テ散布シタルガ如キ觀ヲ呈スルニ至ル今ヤ患者ハ此白屑 Schinnen ニヨリテ煩ハシキニ堪ヘズノ漸ク注意ヲ惹起シ切リニ之ヲ刷掃スト雖モ常ニ衣服ニ皮脂腺分泌物ト落屑トノ混和物ヲ布ク、通例患者ノ醫療ヲ需ムルマデニハ進行已ニ數年間持續セルヲ多シトス、然レモ該期ニ於テモ尙ホ醫療ヲ加ヘザル者多ク、毛髮脱落シ禿頭ヲ生シ症候著明トナルニ至リテ始メテ治療ヲ請フ者アリ、事此ニ至リテハ頭髮部皮脂漏ハ已ニ終ヲ告ゲタルモノト謂ハザルベカラス、即チ毛髮脱落シテ禿頭ヲ生ス吾人ノ屢目撃スル糠枇性禿頭 Alopecia pityrodes s. furfuracea ト稱スルモノ即チ之レナリ此毛髮脱落ハ顛頂部若シクハ

前頭部ニ始マリ重症ノ場合ニ於テハ之レヨリ頭部ノ大部分ニ蔓延シ時トシテ禿部ハ唯々項部及顛頂部ニ存スル毛髮ノミニヨリテ限界セラレ、ニ至ルモノトス

ピンクースノ検査ニヨリテ吾人ハ毛髮脱落ノ初期ニ於テ始メ毛髮ノ少數、後其多數漸次生育ヲ減シ前生毛ニ比スレハ後生毛ノ生活期著シク短キヲ推測スルヲ得、其第二期ニ至リテハ其大サ漸次直徑的減少スルヲ見ルヒンクースハ又毛髮脱落ノ發生スルハ落屑ト同時ナラズシテ落屑ノ久シク持續シタル後始メテ發生スルモノナリトノ學說ノ代表者ナリ頭皮ハ尋常ノモノニ比スレハ緊縮ニ附着シ皺皺僅少ナリトス其他糠枇狀禿頭ノ場合ニ於テハ脱落シタル毛髮ニ付テ見ルモ毛髮脱落ヲ説明スルニ足ルベキ毛髮脱落ニ固有ナル變化ヲ知り得サルコトニ注目セサルヘカラス

顔面皮脂漏 Seborrhoea faciei ノ場合ニ於テハ夫ノ頭部ニ於ケルガ如ク乾燥セル脂肪物質ヲ見ズシテ分泌液ノ性狀油性ナリ(油性皮脂漏 Seborrhoea oleosa) 斯ノ如キ患者ノ顔面ハ常ニ脂肪層ヲ見ル而シテ手ヲ以テ之ヲ摩スレハ其脂肪指ニ附着シ來ル如何ニ屢々之ヲ洗滌スルモ其過多ナルガ爲メニ患者ハ決シテ皮膚清潔ナルコトナカルベシ、殊ニ空中

ノ塵芥之レニ附着シ易キヲ以テ此種ノ患者ハ面胞 Comedone ヲ誘起スルヲ恒トス

ヘブラハ此皮脂漏ノ顔面ニ於テ屢充血及充血状態ニ伴フモノニシテ紅斑狼瘡ノ端緒ヲ開クモノナルヲ主張シ從テ此初期ヲ充血性皮脂漏 Seborrhoea congestiva ト稱セリ

貧血性ノ處女又ハ男子ニ屢顔面部ニ於テ落屑ノ蓄積ト共ニ此皮脂漏甚シク發現スルコトアリ而シテ該落屑ハ尋常皮膚ノ如何ナル部位ニモ附着スルモノナリト雖モ容易ニ之ヲ抓落スルコトヲ得ルモノトス此糠枇狀ノ落屑顔面糠枇疹ハ前述セル頭皮ノ場合ニ於ケルモノニ全ク類似スルモノニシテ皮脂腺分泌ハ過多ノ化角症ト連續スルモノナリトス

顔面油性皮脂漏ハ顔面ノ全部ニ蔓延スベキモノナリ時トシテ始メ發毛部ニ發スルヲアリ殊ニ髭部ヲ以テ然リトス該部ニ於テモ皮脂腺分泌ト共ニ糠枇狀ノ鱗屑發現シ之レト共ニ又微弱ノ潮紅ヲ見ル場合實

ニ稀レナラズトス

右ノ外尙ホ臍部等ニ於テ局所皮脂漏發育スルヲアリト雖モ之ニ付テハ格別ノヲナシ只タ注意ヲ要スル者ハ龜頭冠狀溝中ニ發生スル局所皮脂漏ニシテ吾人ノ龜頭包皮灸(Balanopostitis)ト稱スルモノ即チ之レナリ抑モ此部位ニハ皮脂腺存在スルモノナリヤ(チソソ氏腺)又分泌物ハ包皮ノ諸腺ヨリ發スルモノナリヤ又(ケラチン)質ヨリ脂肪ヲ形成スルモノナリヤ(ラノリン氏)等ノ議論ハ今日尙ホ甚タ盛ニ行ハルモノトス此等ノ說ニハ各其根據トスル理由夥多アルベシト雖トモ何レノ說ニ依ルモ疑ヲ容レザル所ハ包皮内葉ニ於テ分泌物屢分解シ炎症ヲ惹起スヲアリテ之ニヨリ龜頭包皮内葉ニ刺戟作用ヲ逞フシ小糜爛ヲ來タスモノナリトス之レト同一ノ干係ニヨリ糖尿病患者ノ糖分ヲ含有セル尿ヲ以テ浸潤スル結果トシテ此種ノ龜頭炎 Balanitis ヲ發スルヲアリトス

右ニ掲ケタル所即チ局所皮脂漏ヲ説明シ盡シタリ尙ホ一言此ニ附加

セント欲スルハ全身皮脂漏症ノ存スルヲナリトス、全身皮脂漏ハ大人ニ於テハ衰弱及疲勞性疾患ノ結果トシテ發現スルヲ最多トス而シテ之ヲ癆瘵糠秕疹 *Pityriasis tuberculata* ト名ク初生兒ノ全身皮脂漏ニ在リテハ一種固有ノ症狀ヲ有スルモノナリ結痂セル皮脂及表皮ノ殘物ヨリ成立セル厚キ被覆ヲ以テ全身ヲ被ヒ身體各部ノ毛孔ハ之レガ爲メニ過半蔽塞セラレタリ、皮膚ハ胎生時ニ於テ此皮脂質ノ爲メニ其發育ヲ止メラレタルガ如キ觀ヲ呈スルニヨリテ見レハ其下ニ存在スル組織ハ擴張ノ際其被覆ヲ排除シ其結果トシテ多數ノ裂瘡ヲ生シタルモノトス此等ノ裂瘡ハ多ク身體ノ縱軸ニ對シテ橫行的ノ方向ヲ取リタリ而シテ頭部及毛髮部ニ於テハ其症狀最盛ナルニモ拘ハラズ手部及足部ニ於テハ全ク之ヲ看ザルノミナラズ此等ノ部位ハ蠟樣ノ外觀ヲ呈セリ之レ蓋シ胎生四五ヶ月頃已ニ作用ヲ起シタル皮脂腺ノ更ニ作用ヲ高メタルニ因ルモノナリ之レト共ニ恐ラクハ皮膚炎モ並行スルモノナルベシ此ノ如キ小兒ハ出生後一二日ニシテ死スルモノトス蓋

シ一ハ溫度ノ消失劇甚ナルヲ一ハ榮養攝取ノ困難ナルヲニ起因スルモノナリ
 初生兒全身皮脂漏 *universalis Seborrhoea neonatorum* トイフ名稱ハ脂肪性鱗癬 *Ichthyosis sebacea* (カボジ) 又ハ先天性鱗癬 *Congenital ichthyosis* (ハブラ) ニ比スレバ吾人ハ穩當ナリト信ス何トナレハ吾人ハ後ノ名稱ヲ用ユルハ前者ト全ク異レル病機ヲ解釋スレバナリ、臨床實驗上ヨリスレハ英人ノ發案ニ係ル *Harlequin Fetus* ナル名稱ヲ以テ最適當セルモノトス

ウツナーハ皮脂漏性濕疹ハ他ノ濕疹形狀ト區別スベキヲ信セリ、此疾患ハ殆ント常ニ頭髮部ニ始マル就中吾人が前ニ乾性皮脂漏ト稱シタルモノ、形狀ニ於テ發現スル者トスウツナーニ從ヘハ皮脂漏性濕疹ハ皮膚剝屑性紅斑(糠秕疹類似)トシテ始マリ又該紅斑トシテ持續シ或ハ浸潤性濕疹又ハ鱗狀若シクハ痂皮狀乾癬ニ類似セル皮膚發疹ニ發育シ之ニ反シテ此濕疹ノ小胞性トナルハ唯々外來刺戟ノ作用ノミニ因ルモノトス其結果トシテ氏ハ三箇ノ状態ニ區別セリ曰、鱗屑狀、曰、結痂狀、曰、濕潤狀トス、頭部ニ亞テ

第二十圖



性濕疹
皮脂漏

此濕疹ノ最屢發現スル部位ヲ胸骨部トス殊ニ結痂狀ニ於テ發覺スルナリ
依是看之此疾患タル佛人ガ已ニ胸部ノ輪廓狀濕疹(Eryema circine)トシテ說明
シタルモノト同一物ナルベシ此場合ニ於テハ指爪大ノ圓狀若シクハ卵圓
狀ノ斑點一團ヲナシテ多數集合ス各斑點ハ限界判明ナル緣ヲ現ハシ赤色
縁ヲ有スル黃色ヲ有ス此斑點ノ發現ハ肥滿シテ毛髮ニ富ミタル患者ニ多

ク、森瘦セル毛髮ナキ者ニハ砂シトス腋窩部ニ於テハ赤色ナル圓行性ノ弓
形線發現シ劇甚ノ痒痒アリ腕部ニ於テハ風曲面ノ侵サル、コト最多ク加
之殆ント常ニ結痂狀稀レニ浸潤狀トシテ發現ス肘部ニ發生スルコトナキ
ハ乾癬ト區別アル所以ナリトス手背及指背ニ於テモ亦濕潤狀ナリ手掌及
足趾ニ於テハ豌豆大乃至櫻實大ニシテ濕潤セサル小鱗屑丘ヲ見ル、軀幹ノ
下部、臀部、股部ニ於テハ結痂狀ノモノ、弓形及迴轉狀ニ圓行ス、陰囊ニ於テハ
濕潤狀、膝關節部並ニ下腿部ニ於テハ結痂狀トス、顔面部ニ於テハ濕疹發現ノ
狀最一定セサルモノニシテウツナーニ從ヘハ此濕疹ハ殊ニ婦人ニハ(酒渣
鼻 Trichacea)ノ原因トナルコト多キモノトス、濕潤狀皮脂漏濕疹ハ多ク小兒ニ
發現スルモノニシテ大人ニハ稀レナリ、痒痒著シカラズシテ鼻及口ハ殆ン
ト常ニ浸潤ヲ免ル、モノトス、ウツナー信スラク此形狀ニ於ケル濕疹ハ從
來人皆ナ乾癬ト同一視スル所ナリト雖モ皮脂漏性濕疹ノ場合ニ於テハ寧
ロ脂肪アル、脆キ、黃色ノ鱗屑アルトテ明ニセザルベカラズ、全身乾癬ノ疑ヲ
容ルベキ場合及膝並ニ肘部鱗屑ヨリ侵サレザル場合ニ於テハ宜シク毛髮
部ヲ検査スベシ然ルモハ皮脂漏性濕疹ヲ發見スルコトアルベシ之ニヨリ
テ豫後ハ著シク變更スベシ蓋シ皮脂漏性濕疹ノ豫後ハ乾癬ニ於ケルヨリ
モ數等佳良ナルベクレハナリ
吾人ガ此疾患ノ狀態ヲ以テ一箇獨立ノ疾病ト見做サントハ正當ニアラザ

ルベシ何トナレハウナンナリモ十分ニ解剖學上、病床實驗上ノ要素ヲ摘發シ據リテ以テ特殊ノ疾患タルヲ定メ得ベキ標準ヲ與ヘサレバナリ、然レモ殊ニ限局セル炎性進行ノ濾胞ニ付テハ其狀態種々アリテ此等ノモノハ濕疹ト乾燥トノ中間ニ位スベキモノナルヲニハ吾人ノ同意ヲ表セサルヘカヲザル所トス、頭部ニ頭部乾燥ノ發現スル場合ハ實ニ夥多ナリト雖モウナンナリノ是認スルカ如ク吾人ハ本症ノ腰々頭部ヲ侵襲スルモノナルヲ解釋シ能ハザルナリ此皮脂漏性濕疹(吾人ハカボシト共ニ稱シ Eczema folliculareト名ケント欲ス)ニハ下ノ療法ヲ可トス、軀幹、及四肢ノ患部ニハ一日二回

處方「アントラロビン」

五、〇

安息香丁幾

二五、〇

塗布スベシ、之ニ反シテ頭部ハ先ツ

處方「レゾルチン」

一、〇

蒸餾水

五〇、〇

酒精

一〇〇、〇

ヲ以テ洗滌スルヲ宜シトス次ニ

處方 沈降製硫黃

一、〇

酸化亞鉛

二、〇

黃色華攝林

三〇、〇 混和

原因 ハ未タ確然タラス、此分泌過多ハ貧血性ノ人及屢疲勞性疾患ノ後ニ發生スルモノナリト雖モ強壯者ノ侵サル、トモ之レアリトス、或ハ此場合モ亦寄生物ノ作用ニ基クモノナルベシト説ヲナス者アルハ敢テ性シムニ足ラザルベシ然レモ果シテ此疾患ハ之レト根本的關係ヲ有スルヤ否ヤハ未タ證明シ能ハザル所トス

類症鑑別

上頭部皮脂漏ニ對シテ觀察スヘキモノヲ唯タ濕疹及乾燥ノミトス、此等ノモノハ少シク注意スルキニハ之ヲ區別スルヲ得ベシ即チ濕疹ノ場合ニ於テハ乾燥セル鱗屑部ノ外、尙ホ常ニ他ノ濕潤セル潮紅セル或ハ多形ノ皮疹ヲ發見ス而シテ頭部濕疹ト共ニ或ル他ノ體部ニ於テ濕疹性ノ進行成立スルヲ普通トス之ニ反シテ乾燥ノ場合ニ於テハ頭部ニ鱗屑丘潮紅基底上ニ發現シ之ヲ除去スレハ散在性、乳

嚙様ノ出血ヲ見ル此場合ニ於テモ他ノ體部ニ乾癬疹ヲ發見スルモノトス

豫後 ハ治療遅キニ失セサレハ概テ佳良ナリ、モシ全身ニ蔓延シタル場合ニハ甚タ佳良ナラズトス局所皮脂漏(糠枇狀禿頭)ノ場合ニ於テ毛髮再生ノ希望ハ治療ニ着手スルヲ速カナレバ益佳良ナリトス然レモ毛髮脱落旺盛ヲ極ムルニ至ルカ又ハ禿部瀰蔓セルハニ於テハ豫後甚タ不良ナリトス

療法 ニハ施行スベキ問題ニアリ一ハ亞爾箇保兒ヲ以テ皮膚上ニ堆積セル脂肪ヲ除去スルヲ(症候ノ如何ヲ鑑ミテ)一ハ分泌ヲ制限スルヲ即チ之レナリ

第一ノ目的ニ應スルニハ吾人ハヘブラノ加里石鹼精ヲ使用スルヲ可トス、即チ其少量ヲ「フラチル」斤ノ上ニ注キ之ヲ以テ頭皮ヲ摩擦スルニ在リ然ル後石鹼泡末ハ之ヲ微温湯若シクハ冷水ヲ以テ洗淨シ毛髮ヲ乾カシ皮脂質ハ櫛ヲ以テ之ヲ除去スベシ

第二ノ目的ニハ硫黃藥ヲ使用スルヲ以テ足ル、吾人ハ頭部皮脂漏ニハ十%硫黃軟膏ヲ用ユ(ウンナー)

頭部皮脂漏ノ場合及毛髮脱落ノ始マレル場合ニ於テハ頭皮ノ全部ニ有力ニ硫黃ヲ作用セシムル爲メ下ノ處置ヲ取ル即チ第一ノ夕ニ於テ前述ノ法ニヨリ加里石鹼精ヲ以テ洗滌シ次ノ(四日間)夕ニ於テ硫黃軟膏ヲ使用スルナリ此目的ニ應スル爲メニ頭皮ヲ四部ニ分チ毎夕其一部ニ施療スルニ在リ即チ此一部ノ頭髮ヲ矢狀及水平線ノ方向ニ櫛リ各顛頂部ニ硬毛刷子ヲ以テ軟膏ヲ塗擦ス八日目ニ至リテ更ニ加里石鹼ヲ以テ洗滌スルモノトス此治療ハ一二ヶ月之レヲ持續セザルヘカラスト雖モ後ニ至リテ其方針ニヨリテ少シク變更スルモ可ナリトス初期頭部皮脂漏ノ場合ニ於テハ此方法ヲ用ユルハ速ニ効ヲ奏ス又毛髮脱落ノ未タ劇甚ニ至ラザル場合ニハ硫黃療法ニヨリテ少クモ毛髮消失ヲ防遏スルヲ得ベシ新毛髮果シテ再生スベキヤ否ヤニ付テハ多望ヲ懷クコトナク各箇ニ付テ鑑別セザルベカラズ、頭禿強烈ニ發生

スルニ至リテハ硫黄療法モ左程ノ奏効ヲ表ハサ、ルベシ
緩和性ノ場合ニ於テハ次ノ舊キ處方ヲ用キルモ効アリトス

處方 抱水「クロラール」

一〇、〇

「グリスリン」

二〇、〇

水

二〇〇、〇

右毎夕頭部ヲ洗滌ス

時トシテ日々一回重炭酸那度留謨重曹三、〇水一七〇、〇「グリスリン」二
五、〇ヲ以テ頭部ヲ洗滌スルモ奏効ヲ見ル、之レガ爲メニ毛髮ハ褐赤色
ニ着色スト雖モ療後再ヒ舊色ニ復スベシ
ラッサー氏ハ糠糝狀禿頭ニモ劇處性禿頭ノ療法ヲ賞用ス此ノハ其章ニ
至リテ説述セント欲ス
顔面皮脂漏ノ場合ニモ先ツ亞爾箇保兒加里石礆精ヲ以テ脂肪質ヲ溶
解セシムルヲ要ス、而ノ後「レゾルチン」軟膏ヲ使用スベシ

處方 「レゾルチン」

一、〇

酸化亞鉛

三、〇

黄色華攝林

二五、〇

右朝夕塗布

或ハ

處方 撒里矢爾酸

一、〇

沈降製硫黃

四、〇

黄色華攝林

五〇、〇迄

ヲ用エレハ一層可ナリトス

顔面糠糝疹ノ弱度ノ形狀ハ又中和軟膏(ウァルソン氏軟膏等)ニヨリテ之
ヲ治スルコトヲ得ベシ
龜頭包皮炎ノ治療ニハ微温湯或ハ冷水ヲ以テ日々注意シテ洗滌スル
ノ外、硼酸ヲ數回撒布スルヲ以テ足ル
全身皮脂漏アル小兒ニハ綿ヲ以テ之ヲ被包シ體温消失ヲ防クベク尙
ホ營養ニ注意スルヲ要ス、此ノ如キ方法ニヨルモ小兒ハ大概死ヲ免レ

ザルモノトス

脂肪質ナル皮膚ニハ顔面洗滌料トシテ左ノ調合劑ヲ常用ス

處方 炭酸那度留膜

五〇

薔薇水

一〇〇〇化粧水

虞里設林

五〇〇

第二 アステアトージス Asteatosis cutis

皮脂漏ノ反對トシテ皮脂腺分泌減少若シクハ消滅スル場合ヲ「アステアトージス」ト云フ此状態ハ數年間、日々灰汁及石鹼ヲ使用スル者、殊ニ洗濯婦及職工ノ手部ニ之ヲ發見ス又他ノ重症ナル皮膚病(皮膚乾燥症、紅色苔癬、乾癬)ノ附屬現象トシテ或ハ糖尿病ノ如ク全身病ニ牽連シテ發現ス、脂肪缺乏ノ爲メ皮膚乾燥シテ革様ノ感覺ヲ呈シ皺襞スベカラズ、從テ疼痛アル輝裂ヲ生シ易シ

之ヲ治療セントスルニハ患者其職業ヲ停ムルヲ要ス而シテ皮膚ノ脂肪濕潤ニ意ヲ留メザルベカラズ、消滅セル皮脂腺分泌ヲ更ニ鼓舞ス

ルニハ藥劑アルナシ

第三 尋常粉刺 acne simplex

油性皮脂漏ヲ有スル人ニ大概空中ノ汚物ノ集積ニヨリテ皮脂腺孔閉塞セルヲ發見ス、然ルキハ平滑ナル皮膚上ニ各自、皮脂腺排泄管ニ吻合スル多數ノ黑色點ヲ見ル、此種ノ形成ヲ面皰ト名ク(ミラツセル)若シ此部位ヲ指間ニ挿ミテ壓スルキハ一塞子出デ來ルベシ此塞子ハ尖端ニ黑色ナル點ヲ有シ、其大部分ハ溜滯セル皮脂腺分泌物ヨリ成ルモノトス、時トシテ複面皰ノ存スルヲアリ之レニケノ皮脂腺間ノ隔壁、融合シテ二窩、合シテ一窩トナレルニ起因スルナリ

「コメド塞子除去セラレズ、皮脂腺分泌繼續スルキハ皮膚上ニ小結節ヲ現ハス、而シテ其周圍部潮紅ヲ呈シ其中心部ニ黑色ノ點アルモノヲ點狀粉刺[acne punctata]ト名ク然ルニ溜滯セル皮脂腺分泌物ニ空中ノ汚物ト共ニ化膿性刺戟物加ハルキ小結節尖端上ニ小膿疱ヲ生ス之ヲ膿

痘性粉刺ト稱ス、此化膿或ハ久時持續スルカ或ハ最初ヨリ劇甚ナル炎症ヲ有スルキハ毛髮及皮脂腺ノ周圍ニ於テ饒多ノ白血球、脈管中ヨリ流出ス換言スレバ該部位ニ浸潤ヲ生ズルナリ、之レ即チ硬結性粉刺^{acne indurata}ト稱シ硬固限局セル結節ナリ

右ニ掲ゲタル各種ノ發疹、悉ク連合シテ尋常粉刺 *acne simplex s. vulgaris* ヲ形成スルモノトス、唯タ各箇ノ場合ニ付テ見レハ或患者ニ多ク或形狀ヲ他ノ患者ニ多ク他ノ形狀ヲ發見スルノ差アルノミ

此發疹ハ皮脂腺アル所ニ發現スルモノトス故ニ手掌及足蹠ニ其發現ヲ見ズ、通常顔面部ヲ以テ其好發部トナスト雖モ又背部及陰莖ノ侵サ^ル、^ト少カラズ、各疹ノ散在スルト融合スルトニヨリテ、散在性 (*Acne disseminata*) ト融合性 (*Acne confluens*) トヲ區別ス

尋常粉刺ハ最多數ナル疾患ノ一ニ屬ス、其症候錯雜セルコトハ前ニ與ヘタル各疹形狀ノ連合スルコトニヨリテ之ヲ知ルヲ得ベシ、患者ハ顔面、常ニ不潔ノ觀ヲ呈シ所謂醜[○]膚[○]色[○]ヲ有シ自ラ苦痛ヲ感スルコト著大ナラザ

ルモ大概人ニ嫌忌セラ^レ、ノ不幸ニ陥ルヲ免レズ、加之、嘗タニ疾患ノ持續久シキニ亘ルノミナラズ又其再發モ容易ナリトス小結節ハ自ラ其内容ヲ排出シ治癒スルコトナキニシモアラズト雖モ其最多數ノモノハ人工的治療ヲ必要トスルモノトス

豫後 ハ佳良ナリ假令全治ノ時期其數回ノ再發ニヨリテ延長セラ^レ、^トアルモ遂ニ好結果ヲ得ルニ至ルモノトス

瘰癧疹ノ解剖 ハ上ニ與ヘタル病床實驗上ノ事實ニヨリテ自カラ明ナルベシ

原因 ニ關スル研究ハ大ニ興味ヲ惹起シタリ本症ハ春機發動期ニ於テ大ニ起リ其以上ノ年齢ニ至リテハ發現スルコトナキモノトス、蓋シ春機發動スルニ方リテ旺盛ナル毛髮發育起リ其時、毳毛或ハ形成セル毛髮容易ニ皮脂腺排泄口ヲ支障シ機械的ニ閉塞ヲ惹起スニ因ルモノナリ、然レモ此説明ハ本症ノ總テノ場合ヲ網羅スルニ足ラストナシ或ハ情慾ニ樂シムコト過度ニ失スルカ若シクハ僅少ニ失スルカヲ以テ其原